山梨県韮崎市

宿　尻　遺　跡

―デイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

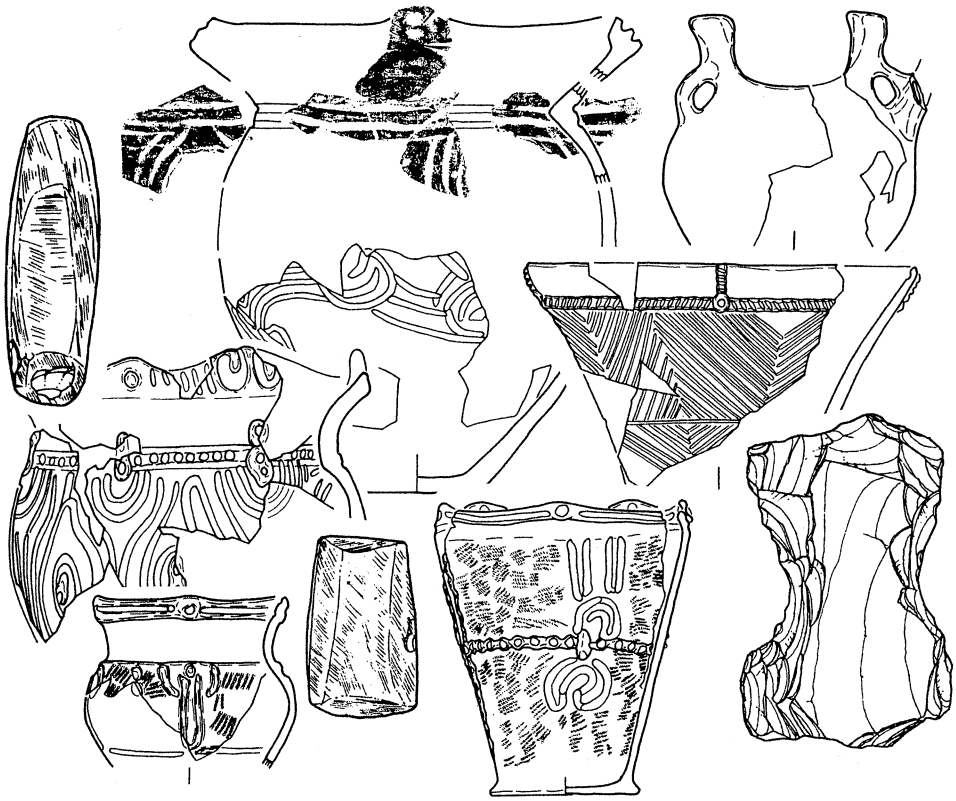
2002

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

宿　尻　遺　跡

―デイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



2002

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　文

宿尻遺跡の所在する韮崎市穴山町は、国史跡新府城跡の外郭ともいわれる能見城跡があり、「武田の里　にらさき」を掲げる当市において歴史的に意味深い地域の一つであります。中世戦国期において重要であると共に、過去県道の拡幅時の発掘調査により縄文時代から古墳時代にかけても先人たちが様々な生活の知恵を絞りながら歴史を積み上げてきたことがわかっております。

今回、デイサービスセンターを建設するにあたり、埋蔵文化財包蔵地であり、建築方法からその破壊を免れることができないことから、韮崎市遺跡調査会で埋蔵文化財発掘調査を実施しました。発掘調査では縄文時代の土木工事の技術を示す遺構などが確認され、土偶や石棒をはじめ縄文時代の精神文化の表象となる遺物も多数出土しました。

本報告書が学術的に考古学や歴史学の研究の一助となるとともに、地域文化の発展の一起爆剤となることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査実施にあたり地域の皆様をはじめとして、関係各機関・諸氏に厚くお礼を申し上げます。

平成１４年3月29日

韮崎市遺跡調査会
会長　小　野　　修　一

例　　言

1．本書は山梨県韮崎市穴山町字宿尻地内所在の宿尻遺跡の発掘調査報告書である。韮崎市から委託を受け、韮崎市遺跡調査会が発掘調査を平成12年度に、報告書刊行業務を平成13年度に実施した。
2．本書の原稿執筆は、第３章第５節・第４章第２節を角張淳一、第４章第３節を㈱ﾊﾟﾘﾉ・ｻｰｳﾞｪｲ、その他を閏間俊明がおこない、編集は閏間がおこなった。
3．本書で用いた地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：200000）、地勢図（1：25000）、韮崎市発行の都市計画図（1：2500）である。
4．陶磁器類に関しては佐々木満氏（甲府市教育委員会）、降矢哲男氏（九州大学大学院）にご教示いただいた。
5．本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会に保管されている。
6．発掘調査から本報告書刊行までの間、多くの方々や、諸機関から多大なご教示、ご配慮を賜った。ご芳名は省略するが感謝申し上げたい。
7．調査組織は以下のとおりである。

平成12年度
調査主体：韮崎市遺跡調査会
現地調査担当：閏間俊明
調査参加者：阿部知恵・阿部由美子・石原ひろみ・岩下雅美・内山こずえ・上野慎司・上野理江・大柴欣子・小沢雄介・小野初美・加藤歩美・河西裕香・木内純子・五味ゆき子・嶋津かおり・清水由美子・鈴木祐太郎・西川信吾・比奈田かつゑ・深沢真知子・細川二三子・宮沢俊彦
事務局（韮崎市教育委員会社会教育課）
教育長：輿石薫、課長：真壁静夫、課長補佐：下村貞俊、係長：大木純、山下孝司、閏間俊明、斎藤進

平成13年度
調査主体：韮崎市遺跡調査会
整理担当：閏間俊明・秋山圭子
整理参加者：阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・小沢千尋・小沢雄介・小野初美・木内純子・嶋津かおり・橋本大介
事務局（韮崎市教育委員会生涯学習推進室学術文化財係）
教育長：輿石薫、課長：真壁静夫、室長：長野栄太、ﾘｰﾀﾞｰ：山下孝司、閏間俊明、秋山圭子

8．本書を作成するにあたり様々な文献を参考にしたが、紙面の都合上割愛したことをご了承願いたい。

凡　　例

1．遺跡全体図のＸ・Ｙ・Ｈ座標は平面直角第８系（原点：北緯36度00分00秒・東経138度30分00秒）に基づく。各遺構平面図等の方位はすべて座標方位である。
2．遺構・遺物の掲載縮尺は原則として次の通りである。
（遺構）　竪穴住居跡1／40・出土状況図１／80
炉・柱穴・土坑　1／20・溝・全体図任意
（遺物）　土器・陶磁器（実測・拓本）1／3・1／4
土製品1／3・石器１／２
3．土器・土製品観察表の接合№は分布・接合図の番号と一致するが、すべての接合を図化していない。また接合線は任意であり破片同士の接合を示すものではない。胎土の粒子は多い順に記した。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査経過……1
第２章　宿尻遺跡とその周辺の環境……1
第１節　地理的環境
第２節　歴史的環境
第３章　遺構と遺物……1
第１節　遺　構
第２節　土器・土製品の分布・接合関係
第３節　土器・土製品等
第４節　石器の分布・接合関係
第５節　石　器
第６節　自然科学分析
第４章　まとめ……8
第１節　竪穴住居跡覆土からみた住まい
第２節　宿尻遺跡の石器群
第３節　宿尻遺跡の自然科学分析
写真図版

第１章　調　　査　　経　　過

平成12年５月15日に韮崎市教育委員会へデイサービスセンター建設予定地内の埋蔵文化財有無確認調査の依頼があり、同年６月８日及び20日に有無確認調査を実施した結果、予定地内が遺跡であることを確認した。協議の結果、遺跡の破壊が免れないため、平成１２年度に発掘調査を実施、平成１３年度に出土品等整理業務を行うこととした。

発掘調査は平成１２年７月11日から開始し、終了したのは９月３日である。試掘時の予想をはるかに上回り、縄文時代の竪穴住居跡２軒・土坑１基・斜面地廃棄場、古墳時代の土坑１基、近世以降の溝跡11条等の遺構を確認し、約３５箱の遺物が出土した。また、当遺跡の南側には新府城跡の外郭とも指摘される能見城跡があり、それと関連する可能性がある急斜面の落ち込みを確認している。

発掘調査終了後に遺物の洗浄・注記を実施し、平成１３年度に本格的に整理作業を開始した。出土遺物の属性をそれぞれ記録し、接合作業を延べ３０人日おこない、縄文時代の斜面地への戦略を捉えることを最重要課題とした。遺構図は発掘現場でのデジタルデータを加工することで時間短縮をはかるとともに、デジタル報告を視野に入れ図面の管理をおこなった。

第２章　宿尻遺跡とその周辺の環境

第１節　地理的環境

当遺跡の所在する韮崎市穴山町字宿尻は、当市を貫流する釜無川と塩川に挟まれた七里岩台地と呼ばれる八ヶ岳泥流の上、標高530m前後に所在する。

能見城防塁の一つを成す標高590mの能見城山と標高570mの兜山との間には、西側に傾斜する台地が広がる。能見城防塁北側から派生する沢は西側に向かい、台地を大きく削る。遺跡は台地上と沢に向かう南側傾斜地に占地している。

台地上では、平成3年度に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施されている。縄文時代中期藤内式期・曽利Ⅱ式期・曽利Ⅲ式期、平安時代の竪穴住居跡や遺物が検出されている（第３図）。周辺には多量の遺物の散布が認められ、豊富な資料が内包されていることが窺える。

第２節　歴史的環境

本遺跡の所在する穴山町には新府城の外郭とも、防塁とも指摘される能見城がある。

能見城の主体を成していたであろう能見城山は昭和初期の乱開発で見るに忍びないが、東西に走る七里岩を遮断する土塁などは、部分的には破壊されているものの比較的遺存状況は良い。

第３章　遺構と遺物

第１節　遺　構

縄文時代の竪穴住居跡２軒、土坑１基及び廃棄場、近世以降の溝を確認した。

１号竪穴住居跡（第７～１０・１５～１７図）

斜面を造成して作られた直径６ｍの円形プランをした竪穴住居跡である。直径約50cmの主柱４本・出入口部支柱２本の柱穴配置で、奥壁から70cm内側に礫が二重にめぐり（以下「二重孤状礫列」と呼ぶ）、等間隔で炭化材が立った状態で確認され、その部分の礫は１つである。奥壁と二重孤状礫列の間には、厚さ18cmのロームを叩き締めたような固い棚状の施設が作られている。

炉は、出入口部にやや寄った位置に構築され、大型盤状礫（鉄平石）を用いた方形石囲いである。奥壁に当たる北東部の礫が存在しないが、上面での撹乱が及んでいないことから故意に抜き取った可能性が高い。

覆土及び床面直上から堀之内１～２式の土器群がまとまって出土している。

遺物の接合関係をみてみると、住居跡内でまとまって出土するものが多いが、斜面へ落ち込んで接合している破片も目立つ。

Ｋ－53（１住－８）は竪穴住居構築時に不定形に掘削された浅い掘り込み（１住SK）を中心に出土したものである。同一個体が調査区内の斜面最下端から出土している。１住SK自体は住居機能時に貼床によってふさがれた状態であることから、破片の移動は住居構築初期段階に１住SKが掘削された際に、斜面へ廃棄されたものと考えられる。また、１住SKの底面には焼土及び地山被熱痕跡が見られ、覆土中から出土した獣骨も焼けていることが分析で確認されている。以上のことから、１住SKの掘削とＫ－53の廃棄行為は住居構築時の儀礼的な一連行為として位置付けることができる。

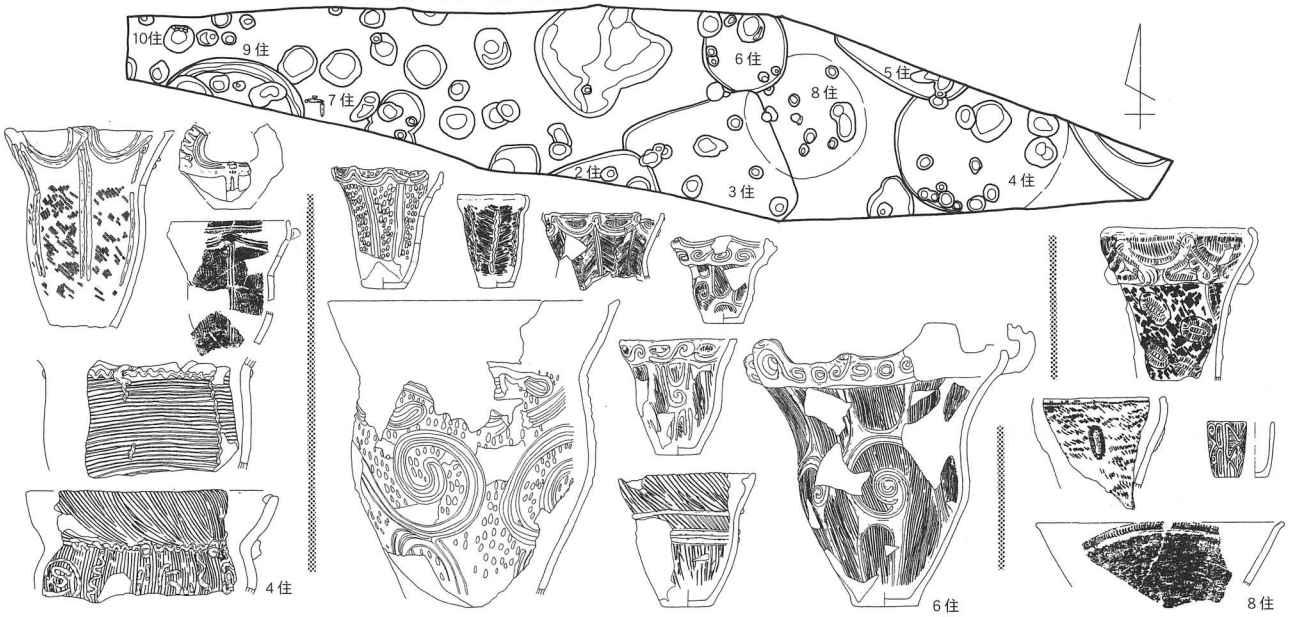
２号竪穴住居跡（第５図）

第１図　宿尻遺跡位置図（上：S=1/200000、下：=1/25000）

平成３年度調査地点

平成12年度調査地点

第２図　宿尻遺跡調査地点位置図（S=1/2000）



第３図　平成３年度調査地点遺構配置図と主要出土土器（『宿尻遺跡』山梨県教育委員会1993より作成）

1号住居跡および1号土坑よりも古い遺構である。地床炉と東側に緩やかな立ち上がりの壁を確認したことから住居跡と捉えた。柱穴は確認できず、明確に床面を捉えることはできなかった。本住居跡に伴う遺物は特定できず、所属時期は不詳である。

1号土坑（第11・18図）

1号住居調査中に遺物のまとまりがあり、掘り下げた結果、地山を掘り込む土坑を確認した。遺物の出土位置図では遺構プランと遺物出土位置がずれているが、これは土坑掘削段階で斜面に対して垂直に土坑を掘ったためと考えられる。

覆土から堀之内1～2式期の土器が出土している。第18図に示したように同一個体の遺物は土坑内もしくはその周辺にまとまる傾向が強いといえる。K16をはじめとして土坑から離れて同一個体破片が出土しているが、これは後世の撹乱と考えられる。

廃棄場（第19～24図）

調査区内南側斜面に曽利Ⅱ式からⅣ式及び堀之内式を中心とする遺物が散在し、上下層で異時期の混入が見られるものの大略層位毎に時期差が認められたことから廃棄場とした（第23・24図）。地形的には調査区東部の傾斜地においても同様な遺物廃棄が想定できるが、調査では認めることができなかった。このことは調査区東部斜面が縄文時代以降に掘削された可能性を示すものである。

出土遺物は土器中心であるが、石器や土偶などの土製品も出土している。

近世以降の遺構（第12・13図）

11本の溝遺構と8個のピットを確認した。

溝1は南北に走り、斜面部である南端で西側に向きがかわる。溝2～5・10・11は北東から西に向かって傾斜しながら掘削されている。溝6・7・9は南東から西に向かって傾斜しながら掘削されている。調査区内は溝の合流地点とも捉えることができる。なお、斜面下端で鉄分付着が平面的に確認されたことから、斜面の低位に向かって掘削された溝は鉄分付着がないものの用水路的な役割を担っていたと考えられる。

第2節　土器・土製品の分布・接合関係（第14～24図）

1号住居跡と1号土坑を中心として縄文土器が東斜面に集中する。時期毎の分布図が第23・24図である。

早期後半ではほとんど遺物は見られず、土器片1点と当該期の所産と考えられる特殊磨石（第39図200）のみである。諸磯式期も同様に遺物量は少ない。勝坂式期に入り、若干遺物量が増加するが、小さな破片資料である。宿尻遺跡での活動痕跡が確認できる早期後半から勝坂式期までは、生活の場として積極的に傾斜地を利用していないことを反映した出土状況といえる（第24図）。

曽利Ⅱ式期に入ると遺物量は格段に増加する。堀之内式期の住居があり、調査区北側の状況は不明であるが、包－16（K－69）をはじめとして大型破片が目立つようになる。遺物の接合状況をみてもまとまりをもつものが多く、曽利Ⅱ式期以降に積極的に傾斜地を利用した廃棄行為が行われたものと考えられる（第19・20・23図）。

土器片製円盤が1号住居跡を中心に出土しており、住居との関連性を示唆している。土偶は、時期に関係なく斜面部の低位から出土する傾向がみられる（第14図）。

第3節　土器・土製品等（第25～34図）

1　縄文時代

早期後半、諸磯a～c式（第28図包－1～4）、五領ヶ台式（同図包－5）、狢沢式（同図包－6～8）、藤内式（同図包－9）、井戸尻式（同図包－10）、曽利Ⅱ～Ⅴ式（同図包－11～第30図包－37）、加曽利E3～4式（第30図包－38～48）、堀之内1～2式（同図包49～第31図包－124）が出土している。

早期後半は図示していないが繊維の含まれたやや厚手の土器である。

曽利Ⅲ式では、結節縄文を施文するものが出土している（第28図包－12・第29図包－24・28・29）。第30図包－48は微隆起線の施文された加曽利E4式であるが、地文に単節RL縄文と竹管工具によるハの字文が施文された折衷的な土器である。

土器片の周辺の摩滅した土器片製円盤が5点出土している（第33図）。部位はすべて胴部であり、時期は曽利式後半（DE－1）、堀之内式（DE－5）でその他は不明である。

土偶は6点出土している（第34図DG－1～6）。DG－1・2・4は曽利式前半の所産である。DG－1には熱によるアバタ状の剥落が見られるが、土偶の機能とうに関連性があるかは不明である。DG－5・6は曽利式後半の土偶であり、いずれも頭部である。5の後頭部にはつまみ状の把手が付けられている。

ミニチュア土器は2点出土している（第34図MN－1・2）。いずれも手づくねである。

手で握ったような形をした焼成粘土塊が1点出土している（第34図SN－1）。粘土内に土器や土偶の胎土にみられる砂粒等がなく、粘土そのものが焼成したものと考えられる。

2　古墳時代

古墳時代前期のS字状口縁台付甕の破片が出土している（第31図包－126～129）。当該期と断定できる遺構を確認していないが、1号住居斜面上方の奥壁部上の土坑がその可能性を持つ。平成3年度調査でも遺物が出土していることから周辺で居住活動がおこなわれ、斜面地である本調査区において何らかの行為の反映と考えられる。

3　近世（第32図）

土器では内耳鍋（近－1）やかわらけ（近－7）、陶器では擂鉢（近－2～3）・甕（近－4）・碗や小皿、磁器では碗・湯呑碗や大皿などが溝や遺物包含層から出土している。

内耳鍋（近－1）には焼成後の貫通孔と未貫通孔があり補修の痕跡と考えられる。

湯呑茶碗（近－8・9・16）は肥前で16世紀後半に生産されたものである。このころから磁器が大量生産され各地にもたらされたとされている。近－9の体部の横位線文は鉄釉施釉である。

近－10は肥前磁器であり、口唇部内側を釉剥ぎしたものである。

調査区からは17世紀後半から18世紀代の遺物が出土しており、能見城防塁使用時にまでさかのぼるものは現在出土していない。防塁よりも北側で日常生活道具が遺存するような土地利用がなされたのは、近世初頭以降の可能性が高いといえる。

第4節　石器の分布・接合関係（第35図）

個々の石器については次節に譲り、ここでは分布状況について報告する。なお、ここで用いる石器とは礫を含む広義の石器である。

土器と同じく1号住居跡及び調査区西側斜面に分布し、南側斜面は皆無といえる。

石鏃や削器（粗製横形・粗製縦形・素刃など）の分布は散漫とし、集中することはない。

打製石斧や石皿は1号住居跡内やその周辺にやや集中する傾向がある。

磨製石斧は1号住居跡内の出入口部と想定される対ピットの両脇に2点づつ出土している。第38図186・187が北側ピット周辺、同図188・189が南側ピット周辺でいずれも床面からやや浮いた出土であり、それぞれ完形品と欠損品の組み合わせで、意図的な廃棄と考えられる状況である。

棒状礫（使用痕跡の認められない棒状の礫）は1号住居跡内から出土量の約8割が出土している。このような分布は棒状礫が自然に遺跡内に存在したのではなく、故意に持ち込まれたことを示唆している。使用方法は不明であるが、1号住居の所属時期である堀之内式期の石器組成の一翼を成す石器と捉えることができる。

石器の接合は少なく、石皿（背面は多孔）（第41図219）が接合しているのみである。

第5節　石　器

1　整理の方法

韮崎市教育委員会で選択された二次加工等のある石器について、台帳を兼ねた属性表を作成し、石器のランク付けをおこなった。ランクの内容はAランク（実測図有）、Bランク（実測図無）、Cランク（記述無）である。

なお、資料体として記述の必要な石器には、すべて通番を付けた。通番は石器整理専用番号である。

2　石器の内訳

石鏃14点（全点Aランク）、小形剥片石器Aランク23点、小形剥片石器B・Cランク125点、粗製剥片石器Aランク25点、粗製剥片石器Bランク24点、磨製石斧5点（全点Aランク）、礫石器Aランク19点、礫石器Bランク11点、棒状礫（全点Bランク）30点である。図化総点数96点。属性表総数287点である。

3　属性表の項目

法量：長さ・幅・厚みを基本として、必要に応じて重量を計測した。また図面のないものの法量は記載していない。

器種：宿尻遺跡では、技術的・形態的な定義で器種を記述した。詳細は石器の説明項目で記述する。

剥離技術：ハンマーの種類と身振りによって、6種類の剥離技術を記述した。凡例は次のとおりである。

直接打撃＋ハードハンマー＝ＨＤ
間接打撃＋ハードハンマー＝ＨＩ
押圧剥離＋ハードハンマー＝ＨＰ
直接打撃＋ソフトハンマー＝ＳＤ
間接打撃＋ソフトハンマー＝ＳＩ
押圧剥離＋ソフトハンマー＝ＳＰ

4　石器の詳細

記述するにあたり番号は石器専用番号を用いてあるため、調査時の番号とは異なる。また、図版は器種ごとに整理した。

①小形剥片石器（第36図）

黒曜石を主体に、珪岩も用いる石器類。鋭い刃部をもつ石器である。

石鏃（1～28）

石鏃はすべて凹基鏃で、グリッド出土である。長さ20㎜前後の大きさの石鏃と、長さ10㎜前後の小さな石鏃がある。後者は、「極小石鏃」として、通常の石鏃とは別に記載した。通常の石鏃と極小石鏃では、コーン径が違う。後者のコーン径が小さいので、工具の先端形状が使い分けられている可能性がある。石材は珪岩が1点、黒曜石は14点である。押圧剥離は比較的変形しにくい工具（ハードハンマー）を用いている。稜線の立ち方や打点の潰れ、コーンの発達度合いをみて、剥離時にほとんど変形しない工具（ハードハンマー）と変形するが、変形度の低いハンマー（ソフトハンマー）を推定して属性表に記載した。数量が少ないので、統計検定はできないが、この場合のハードハンマーと変形度の低いソフトハンマーは、同じ工具の可能性もある。

石鏃素材（26・38・67・65）

石鏃の素材と推定される両極剥片を4点図示した。26は微細な押圧剥離の加工があり、極小石鏃の未製品と推

定される。38・65も同様である。67は貝殻上の両極剥片であるが、通常の石鏃の素材と推定される。

石錐（27・30・31・33・41・43・44・71）

石錐は加工と素材の組み合わせで4種類ある。剥片の辺をそのまま用いる石錐と加工によって刃部を形成する石錐がある。それぞれ、両極剥片・両極石器（両極打撃）と間接打撃・直接打撃による素材がある。44は剥片の尖った側辺をそのまま刃部に利用している。31と30は両極石器を素材にして、その尖った末端辺を刃部にしている。41と27はおそらく間接打撃の縦長剥片が素材で、ハードハンマーの押圧剥離(HP)で刃部を形成している。43と33は、両極石器が素材で、ハードハンマーの押圧剥離(HP)で刃部を形成している。71は黒曜石製の石錐で、HP（ハードハンマーの押圧剥離）で刃部を形成し、微細な刃こぼれが主要剥離面の片側辺に付いている。

小形削器類（45・42・46・40・47・49・54・70）

鋭い刃部を形成する石器を小形削器類とした。45は緩やかなつまみをもち、横形石匙に類似する形態である。刃部は素材の鋭い辺である。この形態は粗製削器類の110と同じである。42は垂直剥離の剥片の鋭い辺に刃こぼれが観察できる。46は間接打撃の剥片のバルブ部分をハードハンマーの押圧剥離で整形され、縦形石匙の形態に類似する。40は両極剥片素材の使用痕剥片。49は小さな打面の残る間接打撃の剥片に使用痕のあるもの。54は直接打撃の剥片に使用痕が観察できるもの。70は黒曜石製の小形剥片石器で、両側辺に微細な刃潰し加工で抉りを入れている。47は土坑出土の使用痕剥片。HD(ハードハンマーの直接打撃)で剥離されている。

剥片剥離の資料（25・50・51・52・60・63・64・72）

25はしっかりした打面の間接打撃剥片。51は間接打撃の剥片。60は間接打撃の石核。52は間接打撃の剥離痕がある小礫。50は両極剥片。63は遺跡に持ち込まれた原石である。72は間接打撃で剥離された端正な小剥片で、おそらく目的的な剥片である。

②組成薄片懸図器類（第37図）

砂岩やﾎﾙﾝﾌｪﾙｽなど、肌理の粗い石材を素材にした削器類。素材剥片の鋭い辺を刃部に用いる横形と、素材剥片の辺に刃部を成形加工のある縦形の2種類がある。

横形粗製剥片削器（192・112・116・122・115・155・121・110・151・153）

192はつまみを明確に作り出した「粗製石匙」。112は緩やかなつまみをつくる削器。116はつまみは無いが、裏面につまみをつくるような対になる加工がある削器。122は正面右端に小突起を直接打撃で形成する削器。115は対になるが弱い成形加工のある削器。155はハードハンマー直接打撃で成形し、鋭い辺に間接打撃でやや鋸歯状になる刃部をつくる削器。121はハードハンマー直接打撃で粗い成形加工を行った鋸歯縁削器。大形の横形粗製剥片削器。粗い直接打撃でつまみを形成し、刃部は尖っている。この石器の形態は、小形剥片削器の45と同じである。151は大きな直接打撃の剥片の打面を成形し、末端辺を刃部にしている石器。153は打面を折取り、素材の辺に粗い加工で刃部を形成している削器。

縦形粗製剥片削器（138・133・113・114・111・126）

138は珪岩製。ハードハンマーの直接打撃で刃部と成形加工を行っている。133はつまみをつくる粗製縦形石匙。114もわずかにつまみを形成する。111は小突起状のつまみを形成し、114と126は胴部に単発の剥離による抉りを入れ、やや屈曲する形態にしている削器。

③打製石斧・石弾・軽石製品（第38図）

打製石斧（154・156・158・157）

154と156はバチ形の打製石斧。158と157は分銅形の打製石斧。158の刃部は潰れており、敲打具の可能性がある。一方バチ形の打製石斧は、石之坪遺跡などを参考にすると頑丈なエッジをもつ刃部を形成している。バチ形と分銅形は、機能的に作り分けられている可能性もある。

石弾（212）と**軽石製品**(194)

加工はないが、真球に近い形態である。意識的に遺跡に持ち込まれたと推定したので、図示した。194は軽石である。

④磨製石斧・擦切石錘（第38図）

磨製石斧（187・186・189・188・193）

187は硬質凝灰岩製の磨製石斧。研磨のみで成形されている。186は蛇紋岩製の磨製石斧。刃部に使用痕が顕著に観察できる。189は硬質砂岩製の胴部断片。188は硬質砂岩製の磨製石斧。研磨のみで成形されている。193は中形で蛇紋岩製の磨製石斧。この磨製石斧のみ敲打成形が観察される。

擦切石錘（190）

丁寧な擦りきりでつくられた切目石錘。重量は46.6g。この種の石錘は、魚網ではなく、渓流釣りの石錘という民俗例があると聞いている。

⑤礫器（第39図）

礫器は、自然礫や分割礫を素材に用いた頑丈な刃部をもつ石器である。両刃礫器（147・146）と片刃礫器（150・148）がある。145は大形礫器で住居から出土している。頑丈な刃部をHD（ハードハンマー直接打撃）で形成し、両側辺が摩耗している。河原の楕円礫が素材である。

⑥敲石・特殊磨石（第40・39図）

敲石は円礫の周囲に敲打痕が残るもの（202）と楕円礫の端部に敲打痕の残るもの（207）の2種類がある。前者は石器のハンマーの可能性がある。磨石は、楕円礫の平面に磨面をもつもの（205・203）と楕円礫の狭い側辺に磨面をもつ「特殊磨石」（200・201）の2種類がある。200の磨石には使用による敲打痕が観察できる。201も特殊磨石で、楕円礫の狭い側辺が機能部である。

⑦凹石・磨石・石皿・多孔石・石棒（第40・41図）

磨石・石皿・凹石

204～198は凹石である。204・203・198は磨石に

凹石の痕跡が重なった石器である。
221・220は大形石皿の断片である。208・211は小形石皿である。大形石皿は破損している。小形石皿は楕円礫の平面をそのまま利用している。おそらく大形と小形では、作り分け・使い分けがなされている可能性がある。

217は安山岩の礫を、219は中形の石皿を素材にした多孔石である。くぼみは硬く先端が尖る工具を、垂直に当てていることで生じている。その意味は不明である。

石棒（第41図）

213と214は石棒である。胴部の断片で、いずれも被熱資料である。破断面を磨いている。

第6節　自然科学分析

宿尻遺跡から検出された遺構の年代や住居跡内から出土した炭化物・炭化材・骨片の種類等を明らかにするため、放射性炭素年代測定・炭化材同定・種実遺体同定・骨同定を実施する。

1　試料

分析試料は、縄文時代後期と想定されている住居跡から出土した炭化材・骨片、さらに、土器集中下の土坑から採取された種実遺体である。

炭化材は、住居跡の縁辺付近に構築された２重の縁石間から等間隔で出土した４点（試料番号１～４）である。種実遺体は、３Ｇグリッドから検出された土器集中下の土坑から採取された２点（試料番号６・７）である。骨片は、住居跡内に認められた住居構築時に作られた浅い掘り込みの不定形土坑から出土した２点（試料番号５）である。

以上の試料について、それぞれの試料の種類を明らかにするため、炭化材の樹種同定・種実遺体同定・骨同定を実施する。また、種実遺体同定試料については、遺構の年代に関する資料を得るため、併せて放射性炭素年代測定を実施する。なお、各試料の詳細は結果とともに示す。

2　分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。なお、δ13Ｃの値は、加速器を用いて試料炭素中の13Ｃ濃度（13Ｃ／12Ｃ）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰：パーミル）で表したものである。

（２）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（３）種実遺体同定

双眼実体顕微鏡下で種実遺体を観察し、形態的特徴および当社所有の現生標本との比較から種類の同定を行う。同定後の種実遺体等は、種類毎にビンに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液による液浸保存をおこなう。なお、試料番号６の一部については、放射性炭素年代測定試料としたため残存しない。

（４）骨同定

試料に付着する土壌を筆により除去し、補強のためアクリル樹脂であるパラロイドB72アセトン溶液を塗布する。同定は肉眼観察により、現生標本と比較して行う。

3　結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を表５に示す。３Ｇグリッドの土器集中下の土坑から採取された炭化物の測定年代（補正年代）は、約3730年前の年代値を示した。

（２）樹種同定

住居跡から出土した炭化材は、全て落葉広葉樹のクリに同定された。以下に、主な解剖学的特徴を記す。

クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

（３）種実遺体同定

土器集中下の土坑から出土した種実遺体は、オニグルミであった。

オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. Sieboldiana (Maxim.) Kitamuraクルミ科クルミ属

試料は、オニグルミの核の破片であった。完全に炭化しており、黒色を呈する。大きなもので10㎜程度だが、数㎜程度の個体が多い。完形ならば、広卵形で先端部分がやや尖り、１本の明瞭な縦の縫合線がある。内部には子葉が入る２つの大きな窪みと隔壁がある。核皮は硬く、表面は縦方向に溝状の浅い彫紋が走りごつごつしている。

（４）骨同定

住居跡内の不定形な掘込み（JU1 SK）から出土した骨片の同定・観察の結果を表４に示す。本試料は、大きさや形態からイノシシの可能性が高いが、歯冠が残存せず、また細片であるため断定は避けたい。

JU１SK・No.72には上顎骨の歯槽骨破片が、JU１SKには上顎骨・下顎骨の歯槽骨や歯根の破片が含まれ、いずれも頭蓋骨の破片であることが確認できた。骨はすべて灰白色を呈する焼骨である。硬化は見られず、保存状態はあまり良くない。

第４章　ま　と　め

第１節　竪穴住居跡覆土からみた住まい

第２章内で報告した第１号住居跡の覆土形成状況から竪穴住居の構築及び構造にかかわることについて説明を加えておく。

1号住居跡の覆土は、上層（1a～1d層）・下層（3･4層）・壁際堆積（2a～2c・5層）・掘り方（9層）・配石埋設土（6a～8b層）、棚状遺構構築土（10･11層）の6つに大きく促らえることができる。各層から想定される住居ライフサイクルへの位置付けをおこなう。

掘り方はやや凹凸があり、ハードロームと暗褐色土が混合したものであり、床面はやや堅くしまっている。粗掘りをした後に整地したことがわかる（第４図１・2）。

整地後、主柱を立てる穴を掘削し、柱を埋めて床面を平坦にする（同図3・4）。ただし、上屋構造がこの時点で作られたという確証はない。

床面を平坦にした後、奥壁の２本の柱穴間に、幅広の不定形な弧状の浅く凸凹した窪みを掘削する（1住SK）。その窪みの覆土からは焼獣骨、焼土や炭化物が多く含まれ、火を用いた行為が行われている（同図4）。覆土中から出土した土器片が調査区内斜面下端部出土土器片と接合し、また二次的な熱を受けており、これらの土器片も行為の一部として用いられたといえる（第25図１住-8）。行為の後、浅い窪みは埋め立てられる（同図５）。

配石を埋設するため、奥壁柱穴間に弧状の幅の狭い窪みが掘削され、礫が埋設される。礫とともに木材も等間隔に設置される。木材自体は小さく、上屋構造を支持するものではないと考えられる（同図６）。

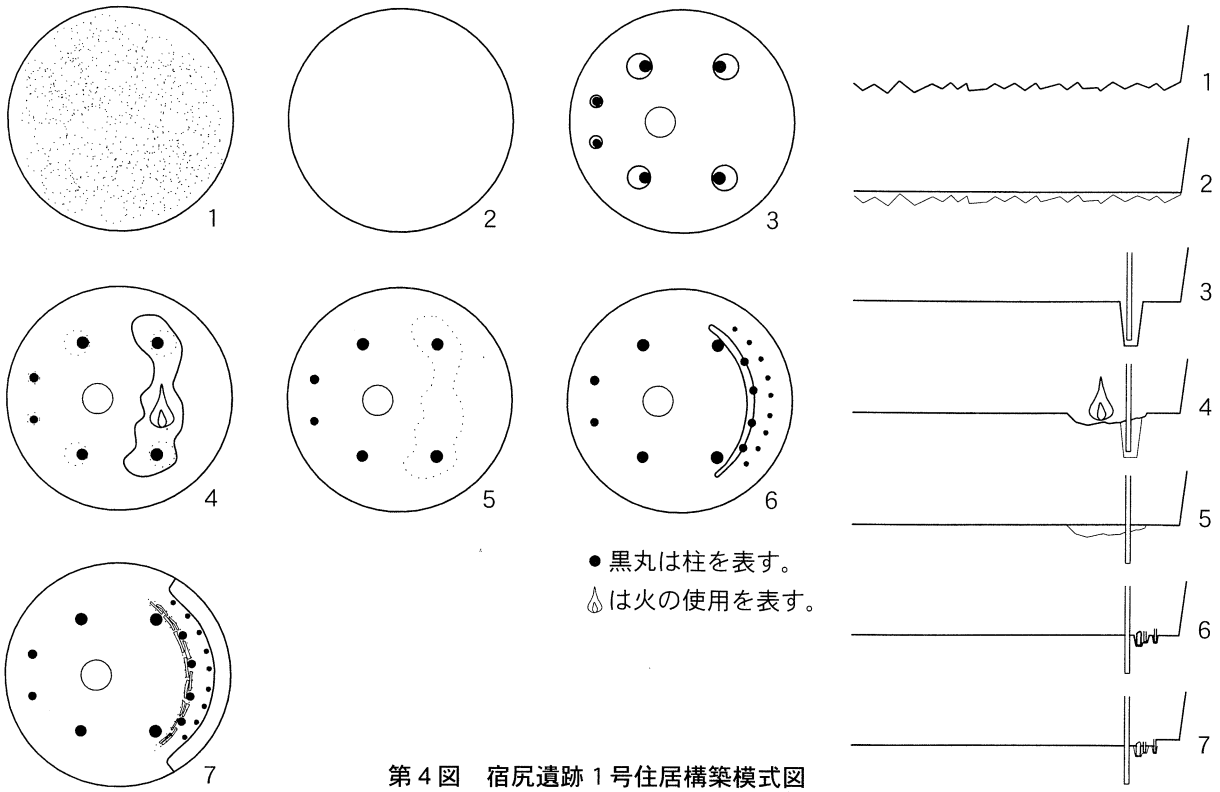
配石設置と前後関係は不明であるが、奥壁から住居内にやや入ったところに等間隔に細いピットが作られる。このピットは大きさや底面の形状から判断して、掘削ではなく、杭を打ち込んだものと思われる。杭と奥壁の間に暗褐色土を入れ、その上をハードロームによって堅く貼り、棚状遺構を構築している（同図７）。

以上が、覆土形成等から遡った住居の竪穴内に関する構築手順である。次に、上屋構造あるいは竪穴周辺の構造について触れておく。

上屋構造は茅葺きであったことが古くから指摘されてきたが、近年では東北地方を中心に土屋根の発掘例が増加している。また、竪穴周辺については周堤や居住空間範囲などが問題とされてきた。今回の調査でこれらのことを直接論じる資料は得ることができていないが、覆土上層が異質であり、その点から可能性を述べる。

住居廃絶後に壁際に土壌が堆積し、下層が引き続き竪穴内を埋めていく。三角堆積にロームブロックが混在するのは、廃絶前後に壁自体の崩落等によるものであろう。下層はロームブロックを含まず、土器をはじめとする遺物が多く含まれ、住居機能時及び廃絶後の廃棄行為を示唆している。下層の形成により竪穴内は若干の窪地を残して埋没した状況となる。本来であれば、そのまま斜面から流れてきた土砂により完全に埋没することとなるはずであるが、上層が厚く堆積している。

上層はやや大きめのロームブロックを多く含む明褐色土である。また、斜面上方にあたる奥壁部で厚く、下方に向かうにつれて薄くなる。この層を形成する土壌が周堤あるいは土屋根の裾部に起因する可能性がないであろうか。



第４図　宿尻遺跡１号住居構築模式図

このように、覆土堆積状況等を検討することで、竪穴住居の構築手順や上屋構造を想定することが把握可能であることを示した。検討方法を精査し、手順・技術をはじめとする住居属性を明らかにすることで、平面的な比較で議論されることの多い住居型式論を深化させることが可能となろう。

なお、住居を作り始めるにあたり、場所の選定がなされるが、その選定要素については今回の調査では把握できていないため、今後の課題としておく。

第２節　宿尻遺跡の石器群

・石器群の構造

宿尻遺跡は、斜面に廃棄された曽利式の土器と、斜面を造成してつくった柄鏡型住居と堀之内１式土器の遺跡である。

土器型式では明確な差異があるものの、石器群構造にはみられない。堀之内式に伴う特徴的な石器は、分銅形打製石斧と凹石であろう。

石器群の構成は、黒曜石を特徴とする小形剥片石器、肌理の粗い石質（石材は多様である）の粗製剥片石器・打製石斧・礫器類・礫石器類、細粒堆積岩・蛇紋岩の磨製石斧である。この構成で非常に興味深い点がいくつかあるので、以下に詳述する。

磨製石斧以外は、石質・剥離技術・形態に一定性が顕著である。磨製石斧だけは、細粒砂岩・凝灰岩と蛇紋岩という2種類のものがある。蛇紋岩には敲打成形が観察されるので、磨製石斧は技術構造と石質の異なる石器が併存している。

次に削器について技法的に興味深い事実がある。削器には黒曜石の小形剥片削器類と、安山岩などの粗製中形剥片削器類がある。それぞれの石質と大きさが異なる点であるが、デザインに相互親和性がある。

まず、両方の削器類には「石匙」と呼称されるつまみを付ける削器がある。またつまみを付けない削器もある。この点からみると削器には2種類あるといえる。しかし、石匙のつまみと削器の緩やかなつまみ、胴部に屈曲を生む対になる加工は、それぞれ連続的な変異をみせ、石器の中には非常に曖昧なつまみを付けるものなどがある。こうした現象は、小形剥片削器類と中形粗製削器類に共通している。

この現象を型式学的に検討すると以下のような仮説が提示できる。

宿尻遺跡には、石匙と、石匙を模した削器の2種類がある。問題点は小形剥片削器と粗製剥片削器の両方に、石匙を模した削器がある点である。

これは、つまみのある石匙が異文化の石器として宿尻遺跡に持ち込まれ、宿尻遺跡文化の中で削器と石匙が共存し、なおかつ折衷型式が生じたのであろう。

次に韮崎市石之坪遺跡の例を参考に宿尻遺跡の石器群構造をみると、石匙と磨製石斧は曽利式土器文化に本来的に伴う石器ではなく、それぞれ別の伝統の石器が曽利式土器文化と接触し、磨製石斧は磨製石斧で、削器類は削器類で折衷石器が生まれると推定される。

今後は分析を積み重ねることで、縄文文化が一系統の文化伝統でなく、多種類の文化伝統の折衷文化であることが、石器を用いて詳細に記述できるであろう。宿尻遺跡はその際の好資料である。

・黒曜石原産地分析

宿尻遺跡では、黒曜石の原産地分析を行った。分析者は沼津高専の望月明彦教授である。分析詳細は望月教授の作成したデータを参照していただきたい（第42図）。

分析した黒曜石は72点である。ＡランクとＢランクの黒曜石はすべて分析した。望月教授の分析によると、鷹山4点、冷山1点（石鏃）、和田小深沢3点、和田高松沢1点、推定不能2点、星ヶ台61点である。

この原産地分析からは、星ヶ台産の黒曜石が、宿尻遺跡の主要石材であることが明らかであり、星ヶ台産の黒曜石は、宿尻遺跡に持ち込まれ、徹底的に消費されていることがわかる。

一方、星ヶ台以外の原産地の黒曜石は、手をつけないで残されている石核や原石、中途剥離の石核素材などであることが黒曜石製石器のあり方である。具体的には和田小深沢産（2点の石核素材・石核）、和田高松沢産（1点の原石）、鷹山産（1点の石核）である。

以上の点より、遺跡に持ち込まれた黒曜石はその石質が選択され、使用に耐えられないものには手をつけていないか、途中で放棄しており、その石質選択性は黒曜石の原産地属性と深い関係をもつことが仮説化できる。

次に、わずかな量の星ヶ台産以外の黒曜石が混在する点について触れておく。縄文中期後半から後期にかけて、頻繁な移動を行う居住形態は考えにくいことから、宿尻遺跡の黒曜石の供給状況について、直接採取や、直接採取集団との単純な交換・交易ではなく、複雑なトレード制度の存在が考えられる。今回の分析は、その様相を明らかにできる貴重なデータであると評価できる。

第３節　宿尻遺跡の自然科学分析

（１）遺構の年代観

宿尻遺跡の土器集中下から検出された土坑より採取されたオニグルミは、約3700年前の年代値を示した。分析試料となったオニグルミは、出土状況から土坑機能時、または土器集中が形成される前に土坑内に混入したと考えられ、本遺構との共伴性も高いといえる。したがって、本遺構の年代観は、約3700年前の縄文時代後期頃であると考えられる。

（２）植物利用

住居跡縁辺付近の二重の縁石間から出土した炭化材は、全てクリに同定された。縄文時代においてクリが認めら

れた分析調査例は、隣接する関東地方では多数確認されており（千野裕道1983「縄文時代のクリと集落周辺植生」『東京都埋蔵文化財センター研究論集II』,1991「縄文時代に二次林はあったか」『東京都埋蔵文化財センター研究論集X』；高橋敦他1994「樹種同定からみた住居構築材の用材選択」『PALYNO2』)、山梨県でも白州町上北田遺跡や社口遺跡などで認められている（パリノ・サーヴェイ株式会社1993「上北田遺跡から出土した炭化材および炭化種子の同定」『上北田遺跡』；植田弥生1997「社口遺跡から出土した炭化材の樹種」『社口遺跡第３次調査報告書』)。以上の既存の分析調査例によれば、本遺跡における住居構築材にクリが利用されていた結果も調和的である。

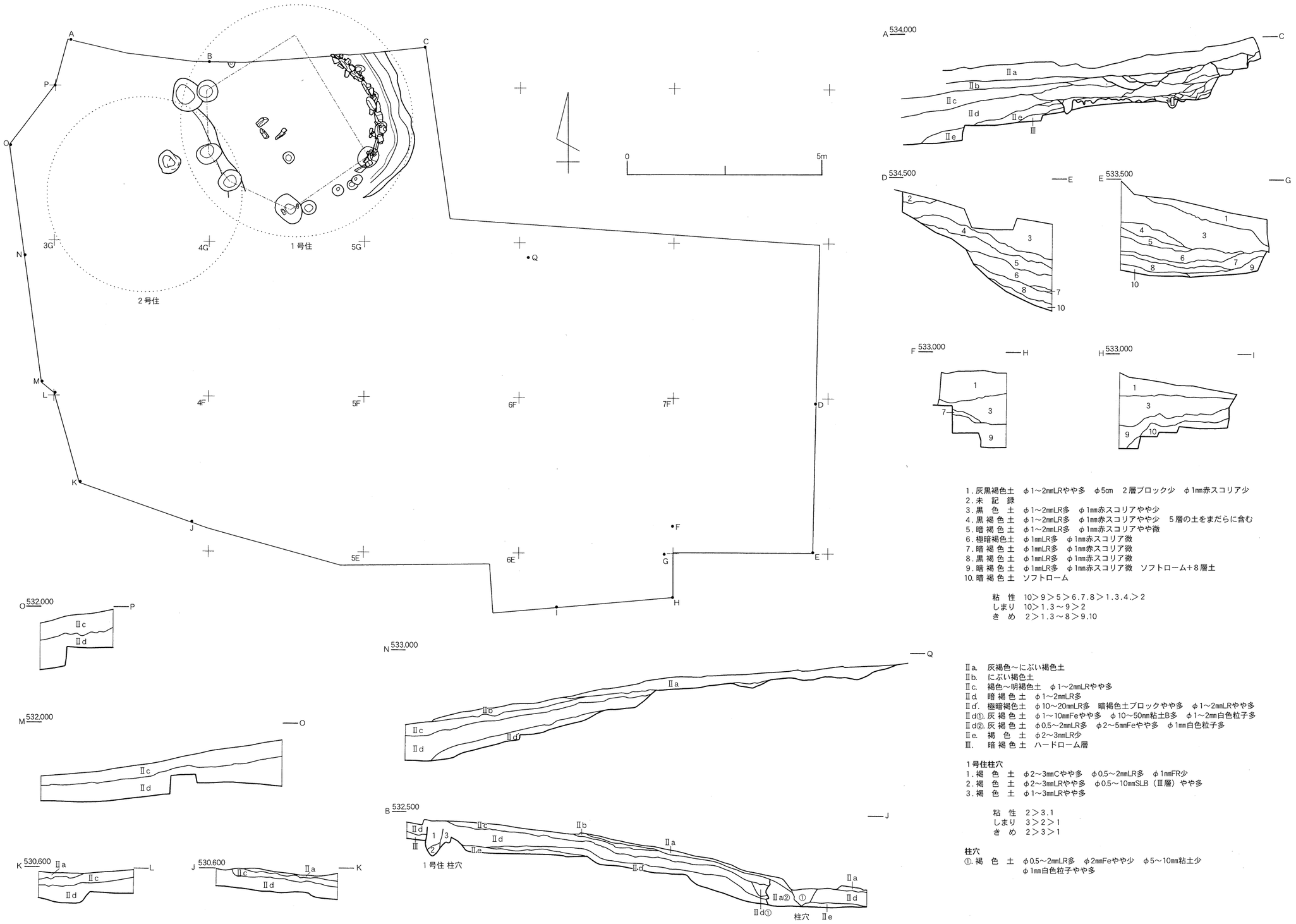
土器集中下から検出された土坑に認められた堅果類のオニグルミは、アク抜きをせずに生食・長期保存が可能で、収量も多い。そのため、古くから里山で保護、採取されてきた有用植物である。

（３）出土骨について

住居跡内の不定形な掘り込み（JU１SK）から出土した動物骨は、イノシシと考えられる頭蓋骨の破片であった。焼骨の細片であるため詳細は不明であるが、被熱により収縮していることを考慮しても、イノシシであればあまり大きくない個体と考えられる。なお、JU１SKは、住居跡構築時の遺構と考えられ、掘り込みは住居使用時には貼床が施されている。なお、この掘り込みからは、骨片のほか焼土や被熱の痕跡などが認められていることから、当遺構内で火を焚くといった行為も想定される。試料である骨片は焼骨であることから、当遺構内で焼かれた可能性も考えられる。

なお、丹羽百合子は内陸部の縄文時代の遺跡から出土する焼骨について、貝塚や多くの包含地では内陸部の遺跡と同程度に焼骨が含まれていることが少なく、内陸部の遺跡でだけ偶然的に焼骨となり残存したと言えないことから、焼骨自体が特殊な意味を持つと述べている（丹羽1994「解体・分配・調理」『縄文文化の研究２　生業』)。このような動物骨が焼骨の状態で出土した例は、山梨県韮崎市石之坪遺跡の縄文時代中期の住居跡からイノシシの焼骨が出土した例や山梨県北巨摩郡大泉村金生遺跡の幼獣を主とするイノシシの焼骨の出土例（金子浩昌1989「金生遺跡出土の獣骨」『金生遺跡Ⅱ（縄文時代)』)、長野県埴科郡戸倉町円光房遺跡の縄文時代前期～後期の住居跡から焼骨が出土し、イノシシを中心とした動物の骨を焼く行為が認められる例（金子1990「円光房遺跡における焼獣骨の調査」『円光房遺跡』）など、中部地域に類例が認められている。

本遺構の性格については、出土骨や上記の類例のみで明らかにすることはできない。今後は、同様な遺構の類例や動物骨の種類や出土状況など分析調査例や考古学的成果を収集・蓄積し、評価したいと考えている。



1. 灰黒褐色土　φ1～2mmLRやや多　φ5cm　2層ブロック少　φ1mm赤スコリア少
2. 未　記　録
3. 黒　色　土　φ1～2mmLR多　φ1mm赤スコリアやや少
4. 黒 褐 色 土　φ1～2mmLR多　φ1mm赤スコリアやや少　5層の土をまだらに含む
5. 暗 褐 色 土　φ1～2mmLR多　φ1mm赤スコリアやや微
6. 極暗褐色土　φ1mmLR多　φ1mm赤スコリア微
7. 暗 褐 色 土　φ1mmLR多　φ1mm赤スコリア微
8. 黒 褐 色 土　φ1mmLR多　φ1mm赤スコリア微
9. 暗 褐 色 土　φ1mmLR多　φ1mm赤スコリア微　ソフトローム+8層土
10. 暗 褐 色 土　ソフトローム

粘　性　10＞9＞5＞6.7.8＞1.3.4.＞2
しまり　10＞1.3～9＞2
き　め　2＞1.3～8＞9.10

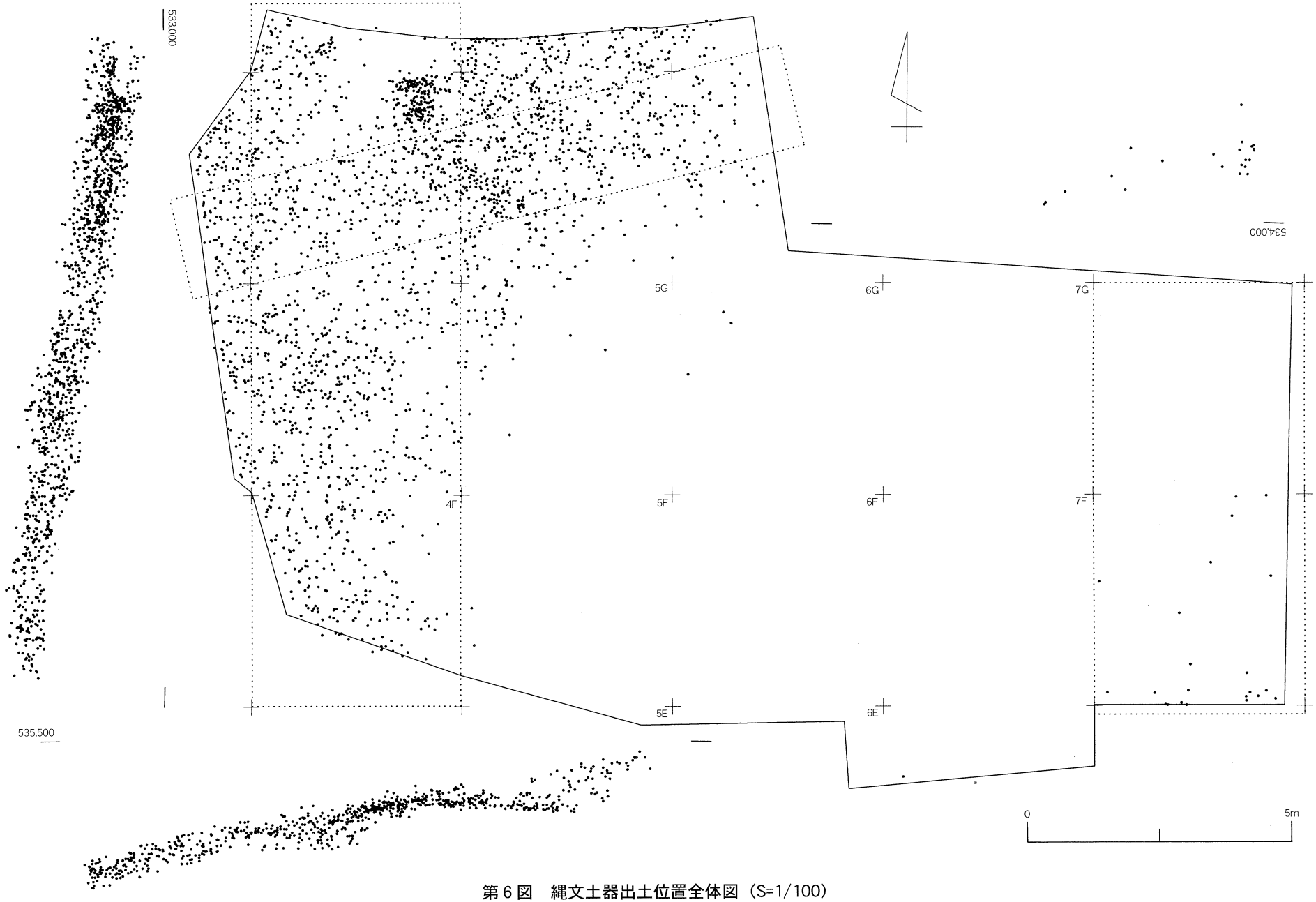
Ⅱa.　灰褐色～にぶい褐色土
Ⅱb.　にぶい褐色土
Ⅱc.　褐色～明褐色土　φ1～2mmLRやや多
Ⅱd.　暗 褐 色 土　φ1～2mmLR多
Ⅱd'.　極暗褐色土　φ10～20mmLR多　暗褐色土ブロックやや多　φ1～2mmLRやや多
Ⅱd①. 灰 褐 色 土　φ1～10mmFeやや多　φ10～50mm粘土B多　φ1～2mm白色粒子多
Ⅱd②. 灰 褐 色 土　φ0.5～2mmLR多　φ2～5mmFeやや多　φ1mm白色粒子多
Ⅱe.　褐　色　土　φ2～3mmLR少
Ⅲ.　暗 褐 色 土　ハードローム層

1号住柱穴
1. 褐　色　土　φ2～3mmCやや多　φ0.5～2mmLR多　φ1mmFR少
2. 褐　色　土　φ2～3mmLRやや多　φ0.5～10mmSLB（Ⅲ層）やや多
3. 褐　色　土　φ1～3mmLRやや多

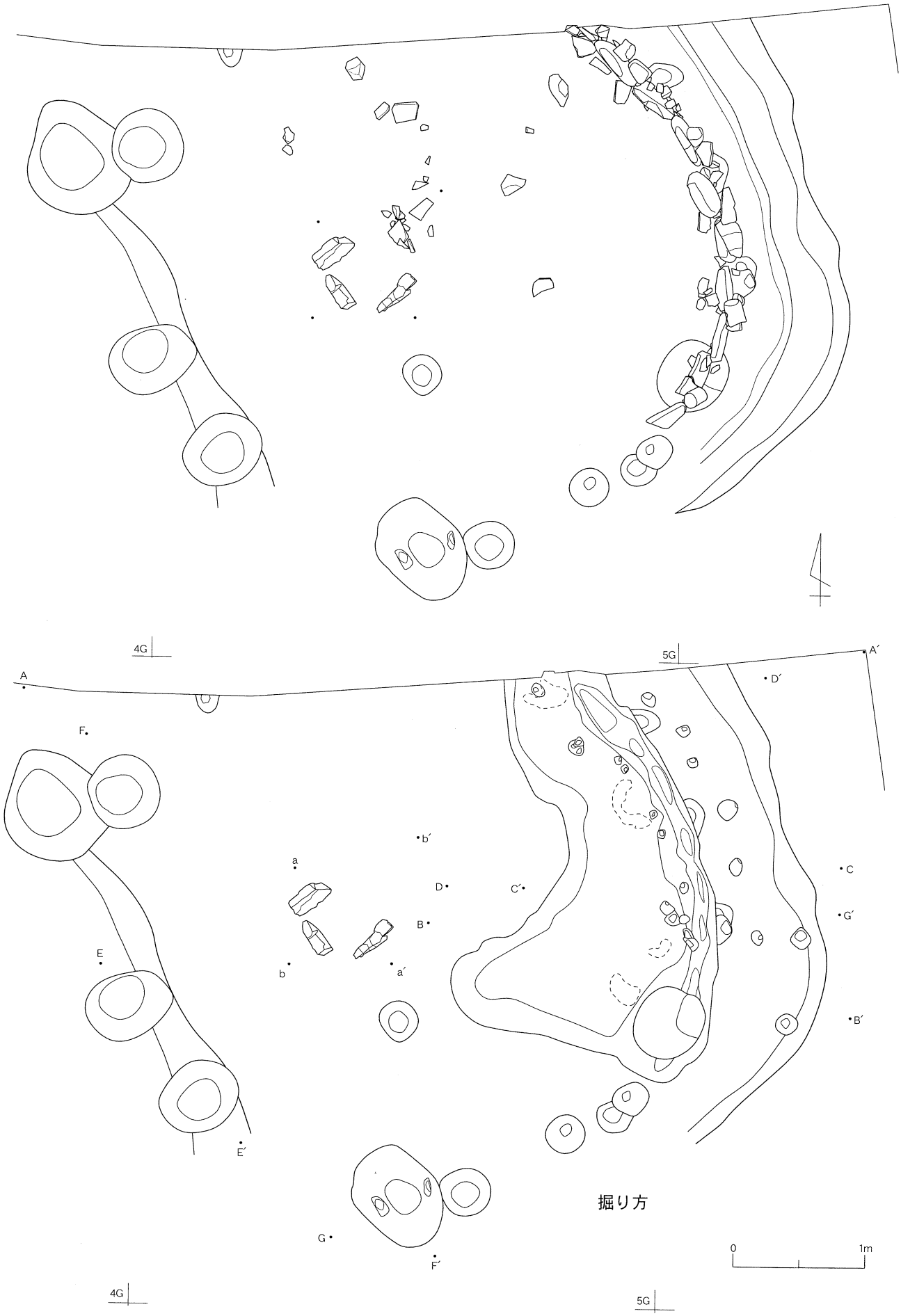
粘　性　2＞3.1
しまり　3＞2＞1
き　め　2＞3＞1

柱穴
①. 褐　色　土　φ0.5～2mmLR多　φ2mmFeやや少　φ5～10mm粘土少
φ1mm白色粒子やや多

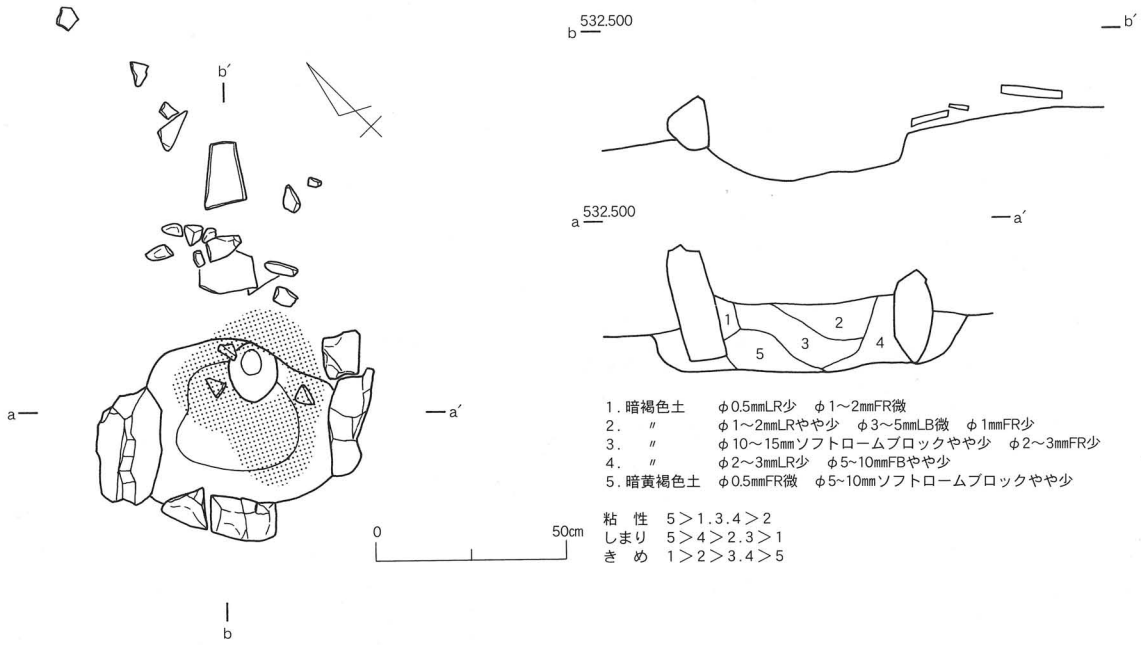
第５図　縄文時代遺構全体図・調査区土層断面図（S=1/100）



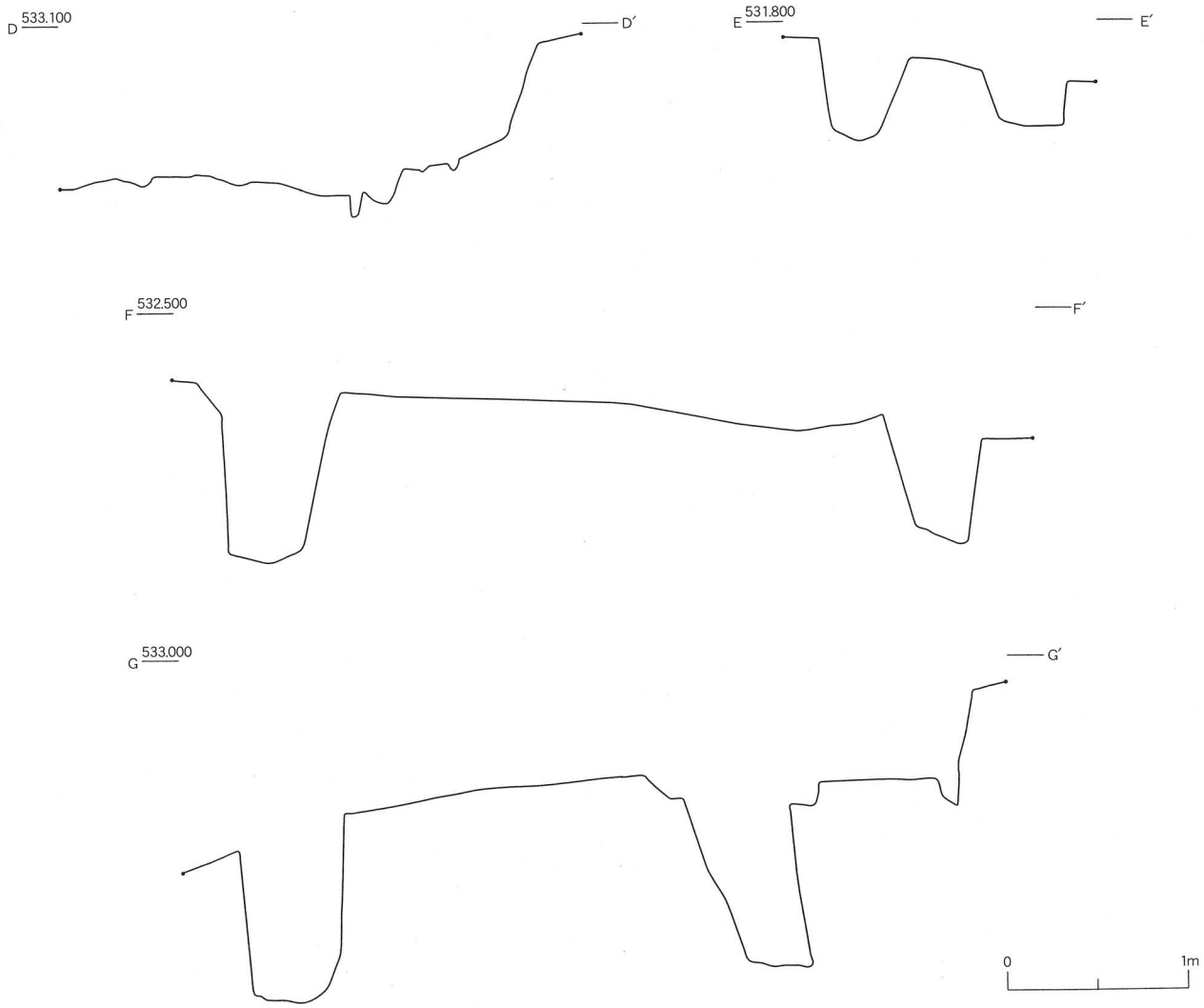
第６図　縄文土器出土位置全体図（S=1/100）



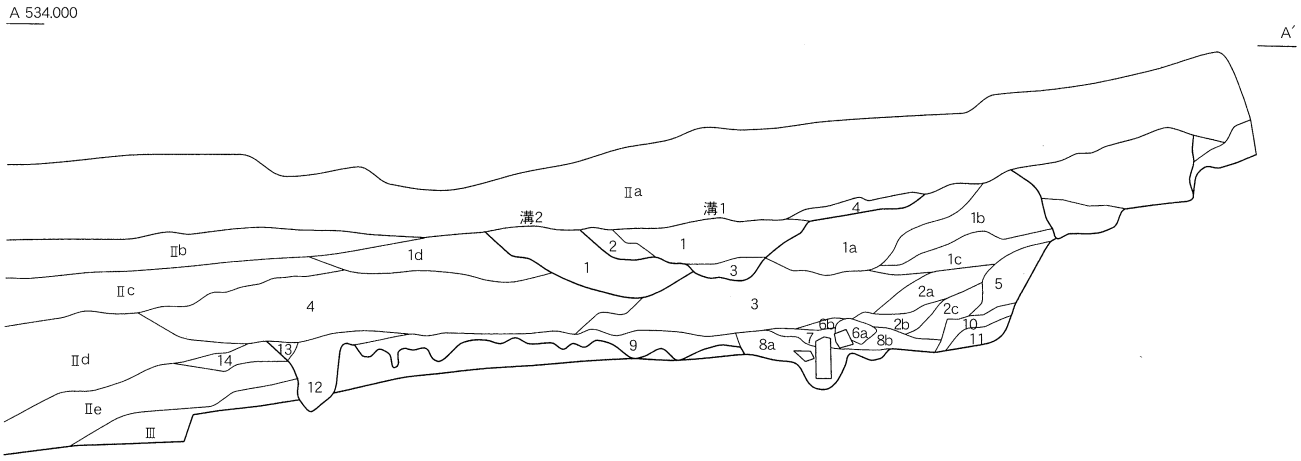
第７図　１号竪穴住居跡　平面図（S=1/40）



第８図　１号竪穴住居跡炉　平・断面図（S=1/20）



第９図　１号竪穴住居跡　断面図（S=1/40）

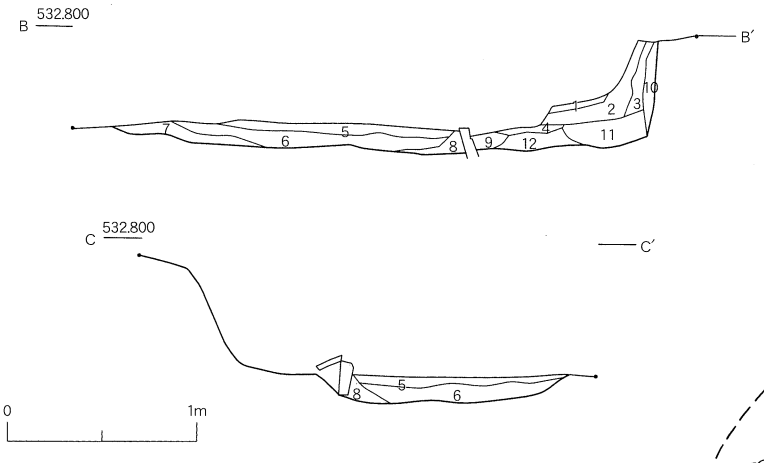


Ⅱa. 灰褐色～にぶい褐色土
Ⅱb. にぶい褐色土
Ⅱc. 褐色～暗褐色土　φ1～2mmLRやや多
Ⅱd. 暗褐色土　φ2～3mmLRやや少
Ⅱe. 暗黄褐色土　φ0.5mmFR微　φ5~10mmソフトロームブロックやや少
Ⅲ. 褐色土　ハードローム層

溝1　1. 褐色土　φ0.5～30mmLB多
　　2. 褐色土　φ2～5mmLB少　φ0.5mmC少
　　3. 褐色土　φ2～5mmLB少
　　4. 褐色土　φ5～30mmLB多

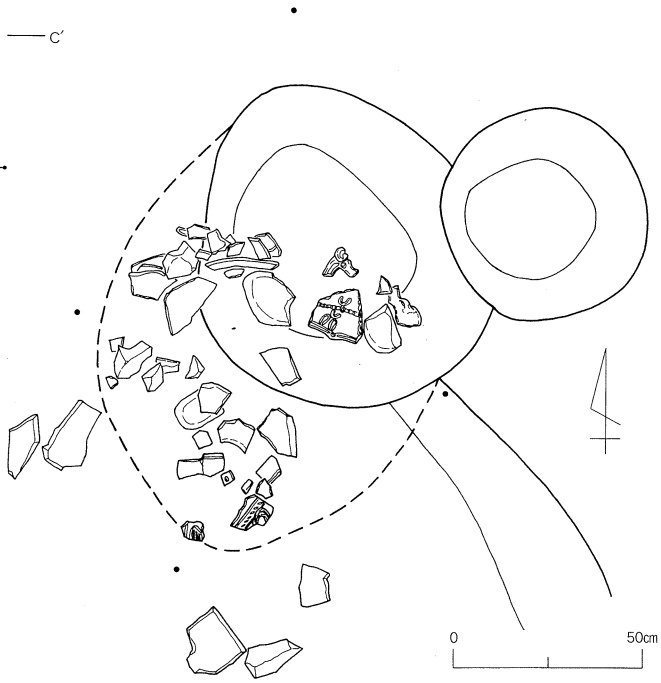
溝2　1. 褐色土　φ1～2mmLB少　φ1mmC少

1a. 暗黄褐色土　にぶい褐色～明褐色土　Ⅲ層主体　φ2～5mmHLBやや少　φ1mmC微
1b. 暗黄褐色土　にぶい褐色～明褐色土　1aに類似するが色調やや暗
1c. 褐　色　土　φ1～2mmHLBやや多　φ2～3mmC少
1d. 褐　色　土　φ1mmHLBやや多　φ1mmC少　1cよりも色調暗　Ⅱc層に類似
2a. 褐　色　土　φ1mmHLBやや多　φ3~10mmHLBやや多　φ0.5mmC微
2b. 褐　色　土　φ1mmLRやや多　φ1mmC少
2c. 褐　色　土　φ2～10mmLRやや多　φ1~2mm白色粒子やや少
3. 褐　色　土　φ1～5mmLRやや少　φ1mmC少
4. 暗褐色土　φ2～3mmLRやや少　φ1mmC少　土器・石器やや多
5. 褐　色　土　にぶい褐色～明褐色土　φ2～3mmやや少　φ20～30mmHLBやや少　φ1mm白色粒子やや多
6a. 暗褐色土　φ1～2mmC　FR多　白色粘土少混
6b. 暗褐色土　φ2mmLR少
7. 暗褐色土　φ0.5mmLR少
8a. 暗褐色土　φ1～3mmHLBやや多　φ1mmFRやや少
8b. にぶい褐色土　φ3～10mmHLBやや多　φ1mmC微
9. にぶい褐色土　ロームと暗褐色土の混土
10. 明褐色土　φ10～50mmHLB多
11. 褐　色　土　φ1～2mmHLBやや多
12. 暗褐色土　φ1～2mmLR多　φ1mmC少　ソフトローム混
13. 暗褐色土　φ1～2mmLR少　φ1mmC　FR微
14. 暗褐色土　φ1～2mmLRやや多



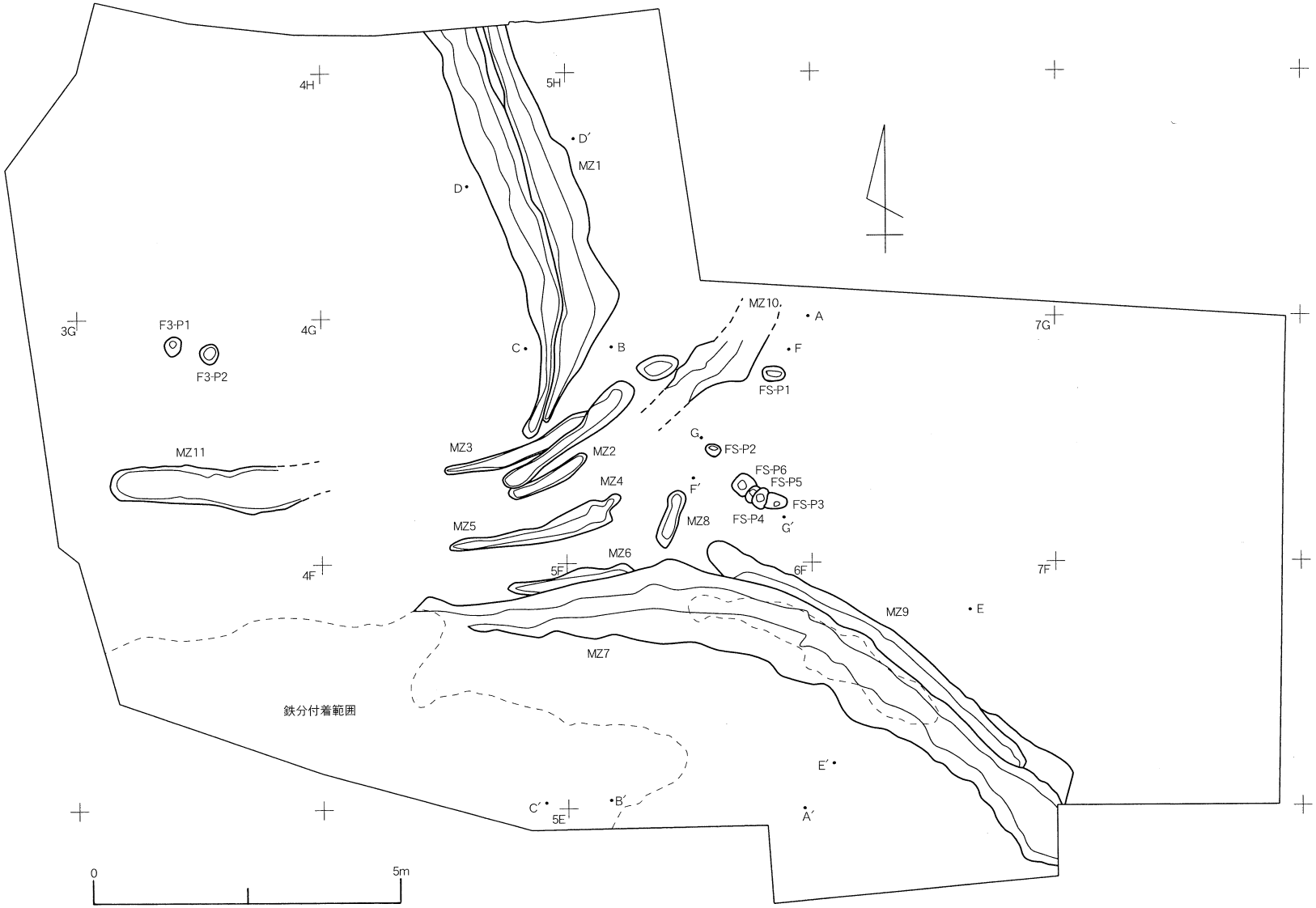
1. 褐　色　土　φ2～15mmLBやや少
2. 暗褐色～褐色土　φ5～10mmLBやや少
3. 褐　色　土　φ10～20mmLBやや少
4. 褐　色　土　φ2～5mmLBやや少
5. 暗黒褐色土　φ2～5mmLB少　φ1mmC　やや少
6. 暗褐色土　φ2～3mmLBやや少　φ1～2mmLBやや少　φ1～2mm白色粘土やや少
7. にぶい褐色土　φ10～30mmLBやや少　φ1~2mmLRやや多
8. 褐　色　土　φ1～2mmLRやや多　φ1～2mmC　FRやや多
9. 褐　色　土　φ2～5mmLBやや多　φ1～2mmC　FRやや多
10. にぶい褐色土　φ10～50mmLB多
11. にぶい褐色土　φ20～50mmLB多
12. にぶい褐色土　φ10～50mmLB多

粘　性　4.5.6.7＞1.2.3＞10.11.12＞8.9
しまり　3.10.11.12＞1.4.5＞2.6.7＞8.9
き　め　11＞3.10.12＞2.6.7.8.9＞1.4.5

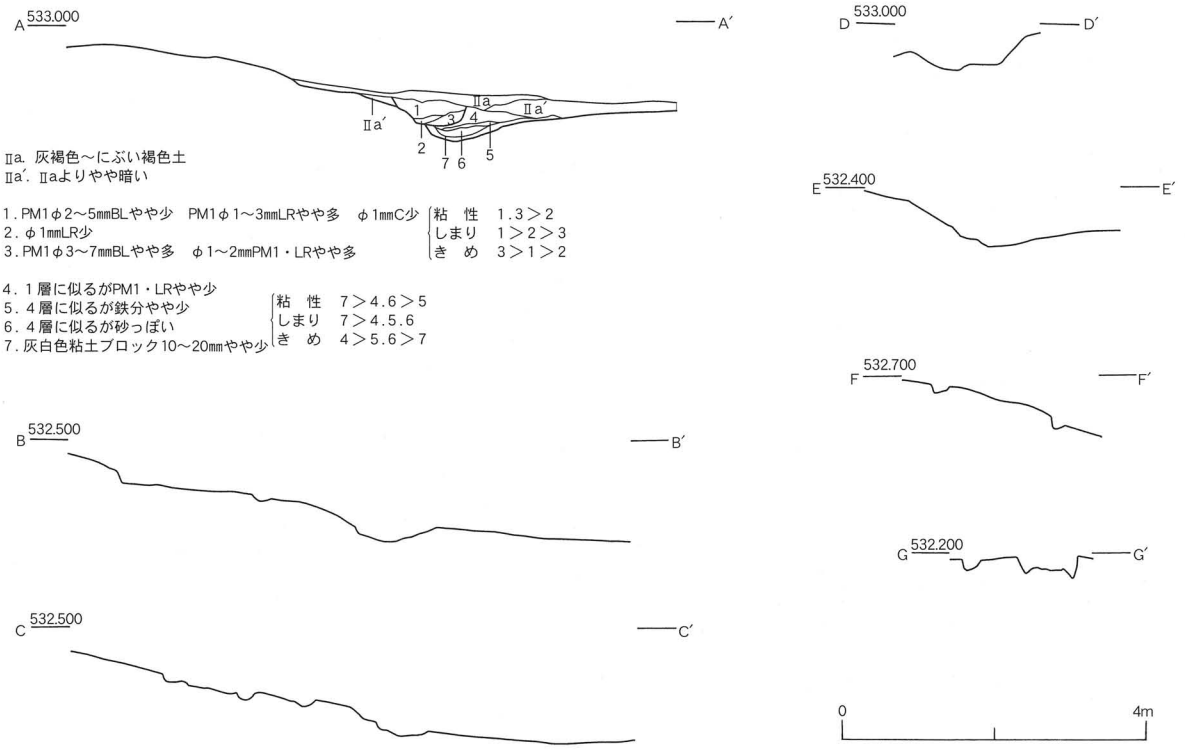


第10図　1号竪穴住居跡　断面図（S=1/40）

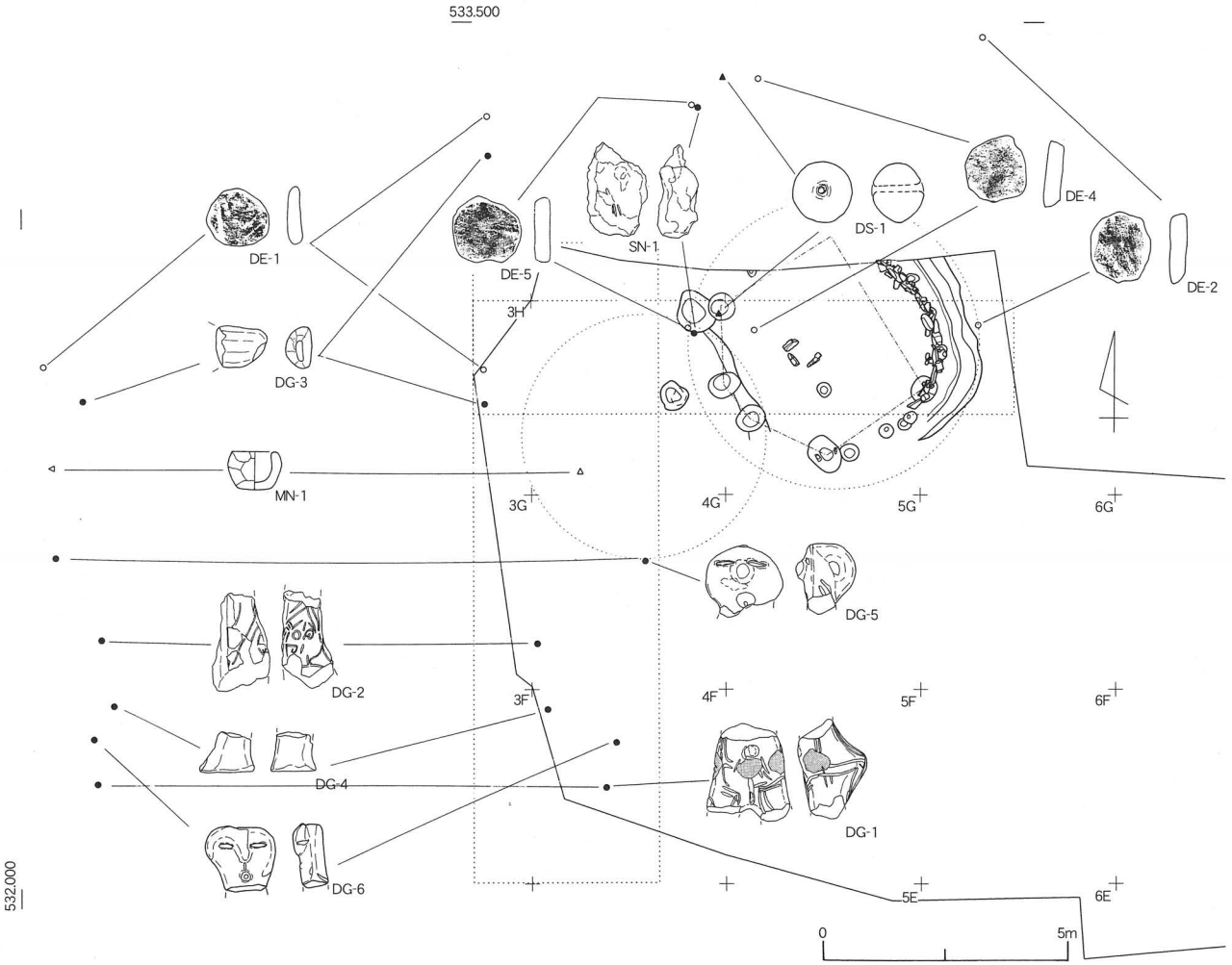
第11図　1号土坑出土状況図（S=1/20）



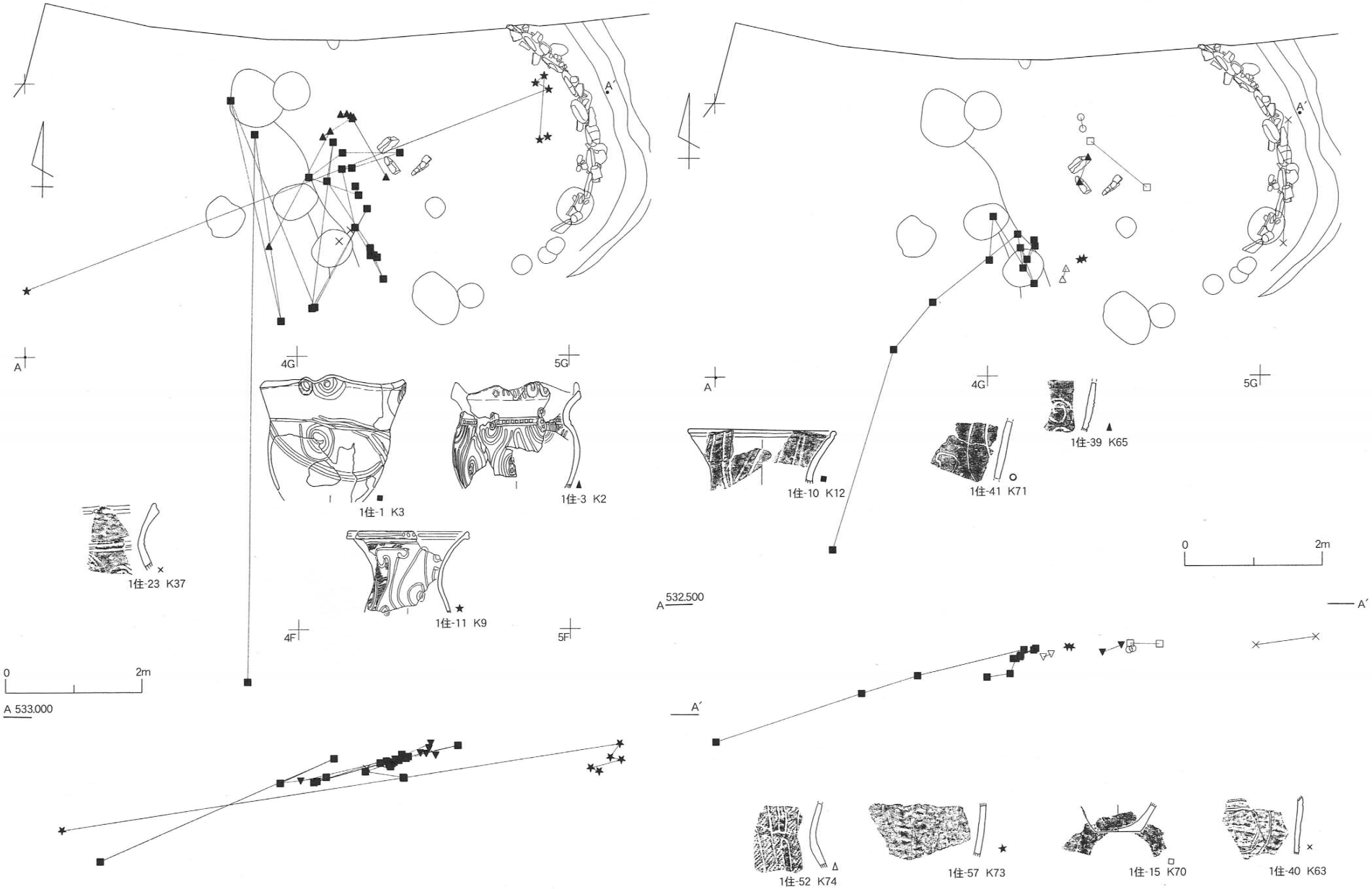
第12図　近世以降溝・ピット全体図（S=1/100）



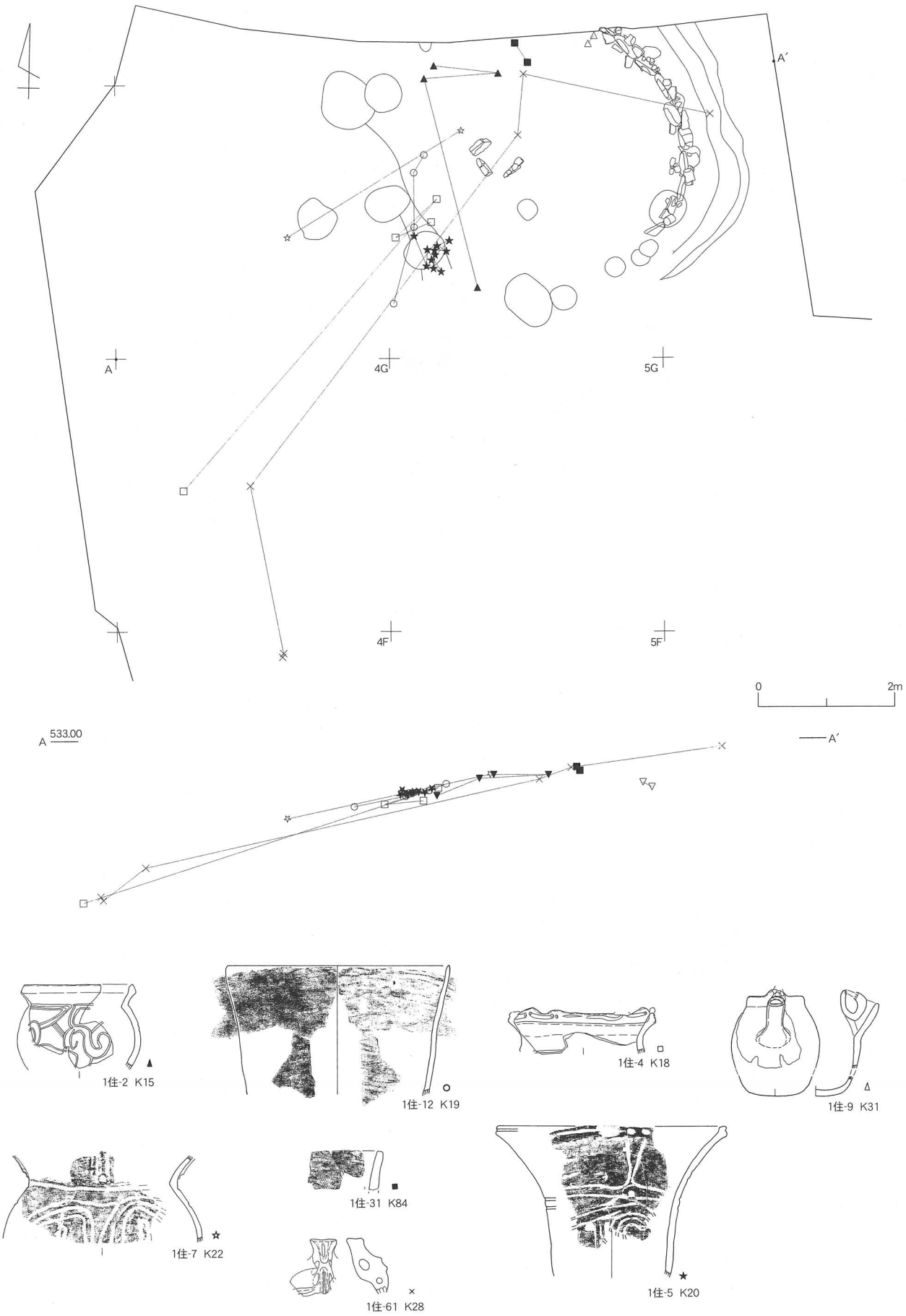
第13図　近世以降溝・ピット　断面図（S=1/100）



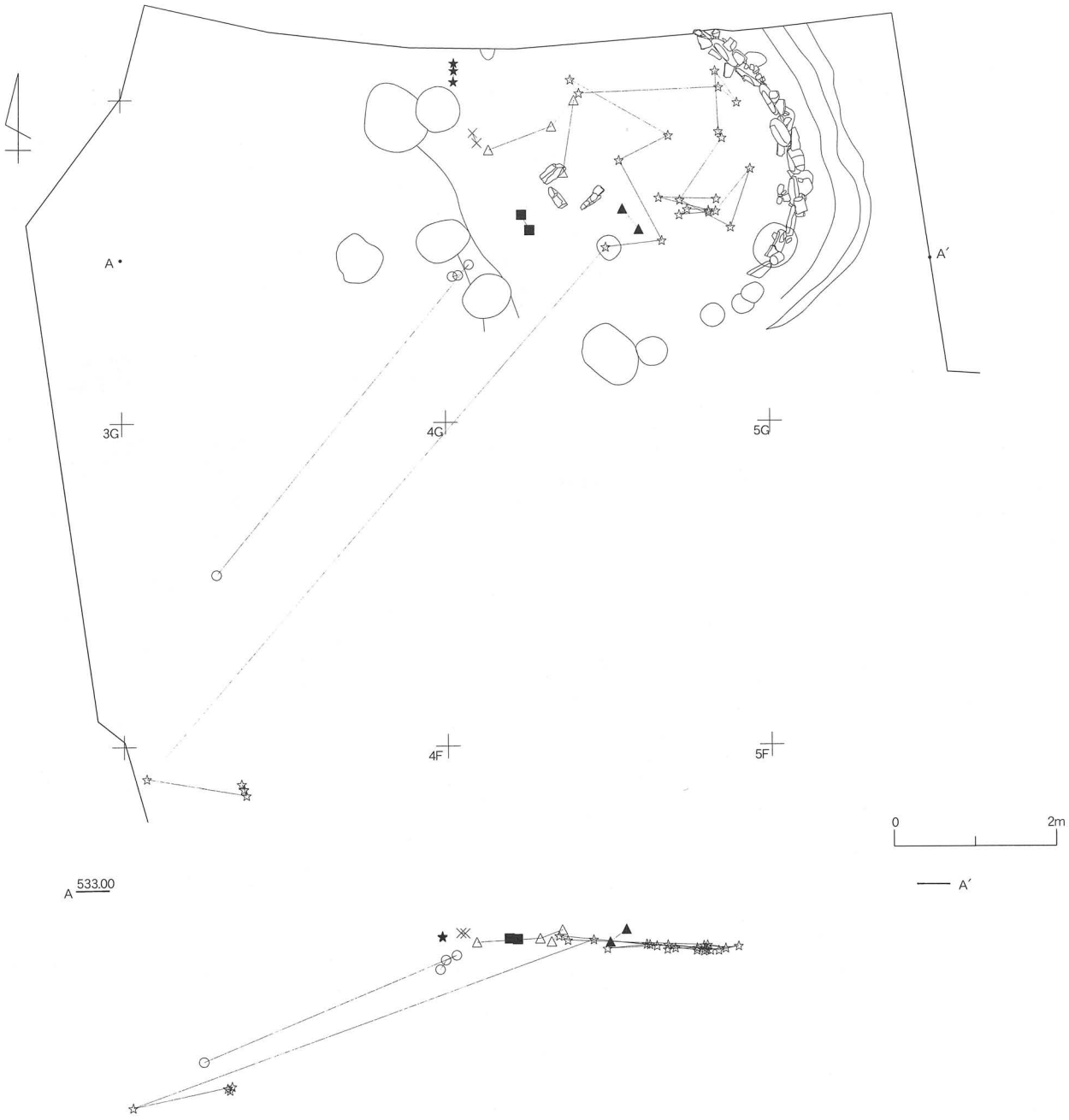
第14図　土製品出土位置図（S=1/150）

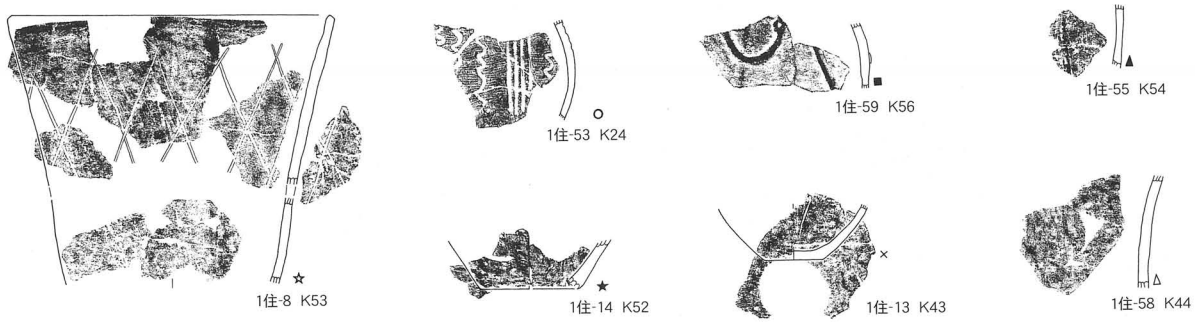


第15図　1号竪穴住居跡遺物分布・接合状況①

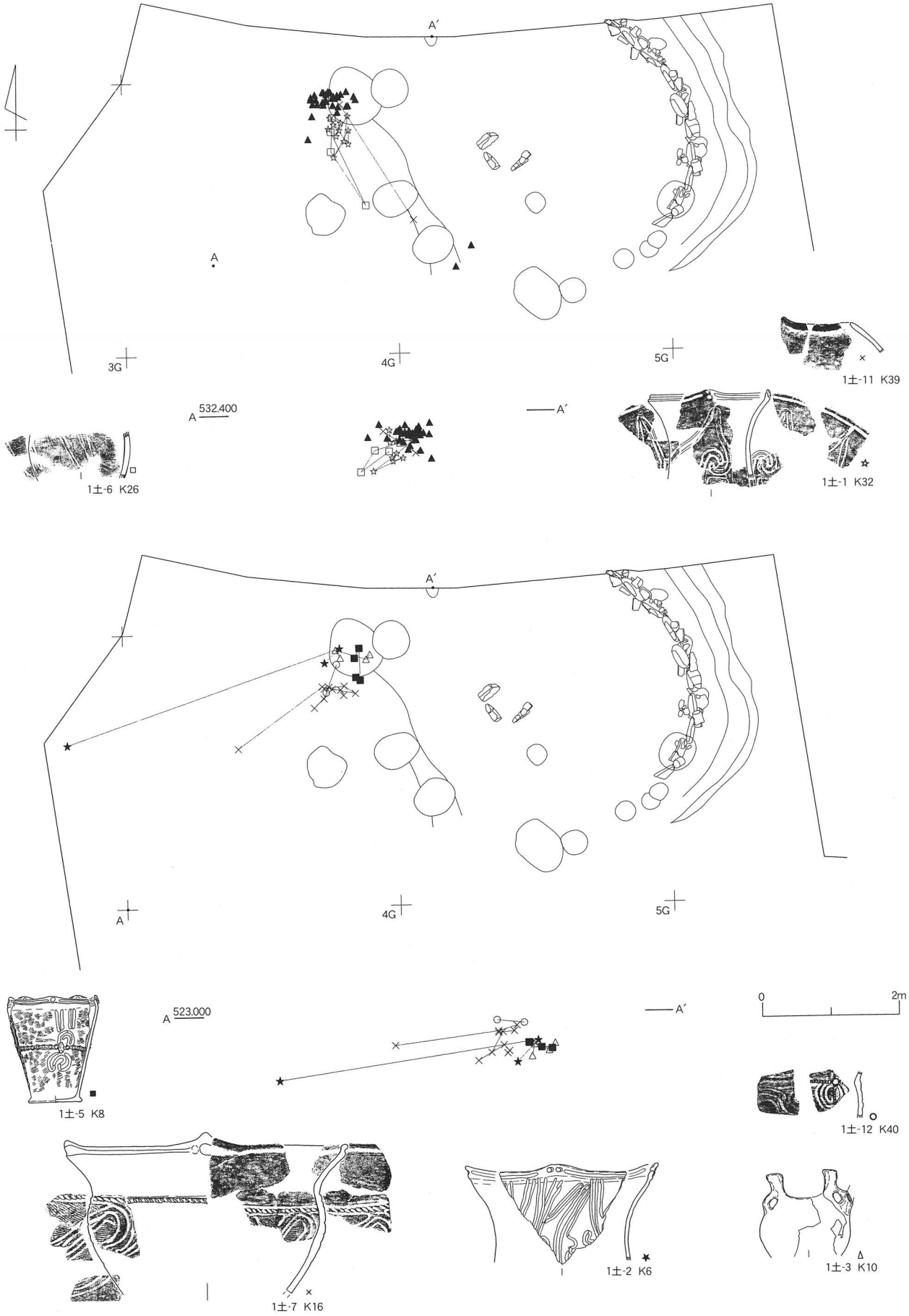


第16図　1号竪穴住居跡遺物分布・接合状況②



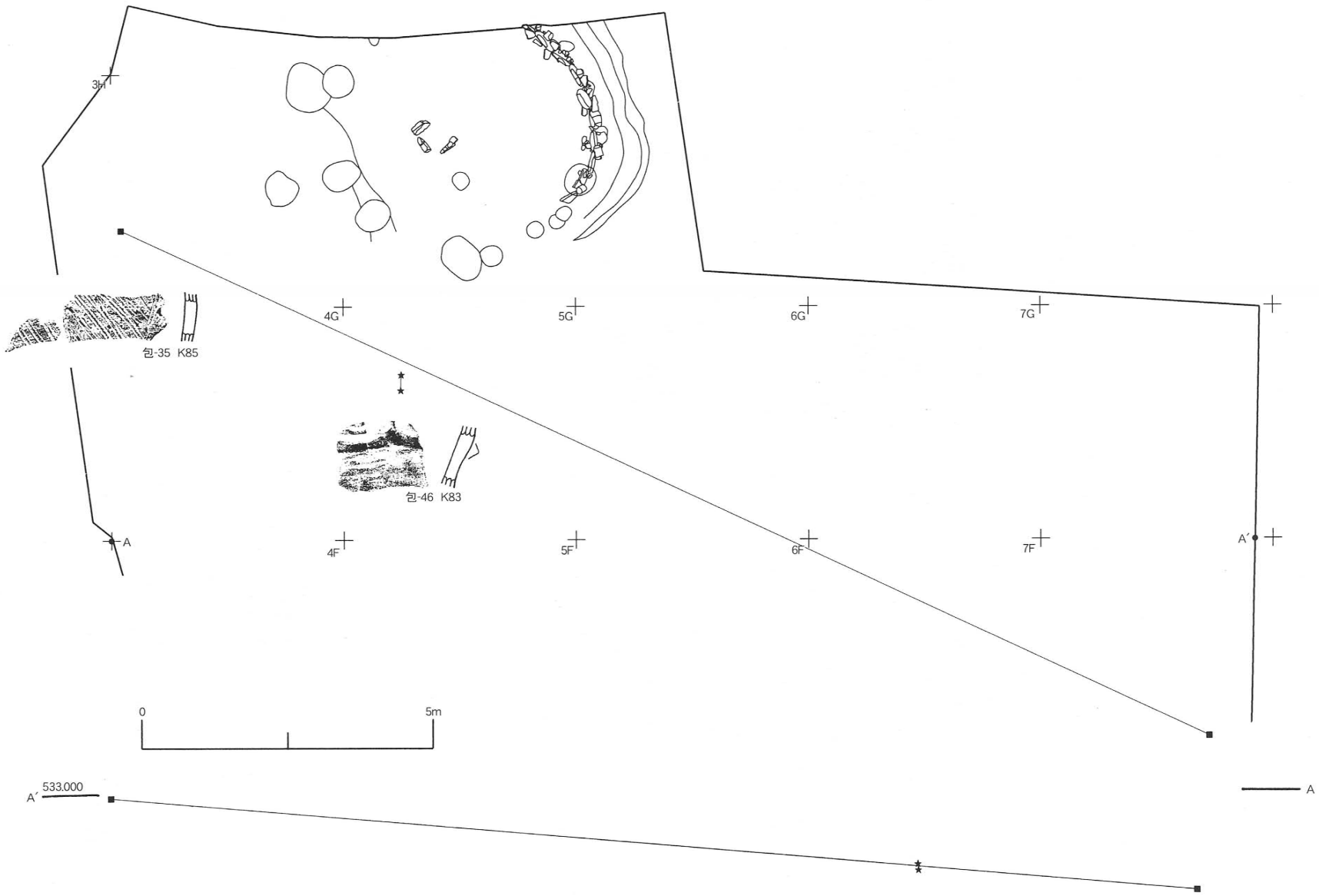


第17図　1号竪穴住居跡遺物分布・接合状況③

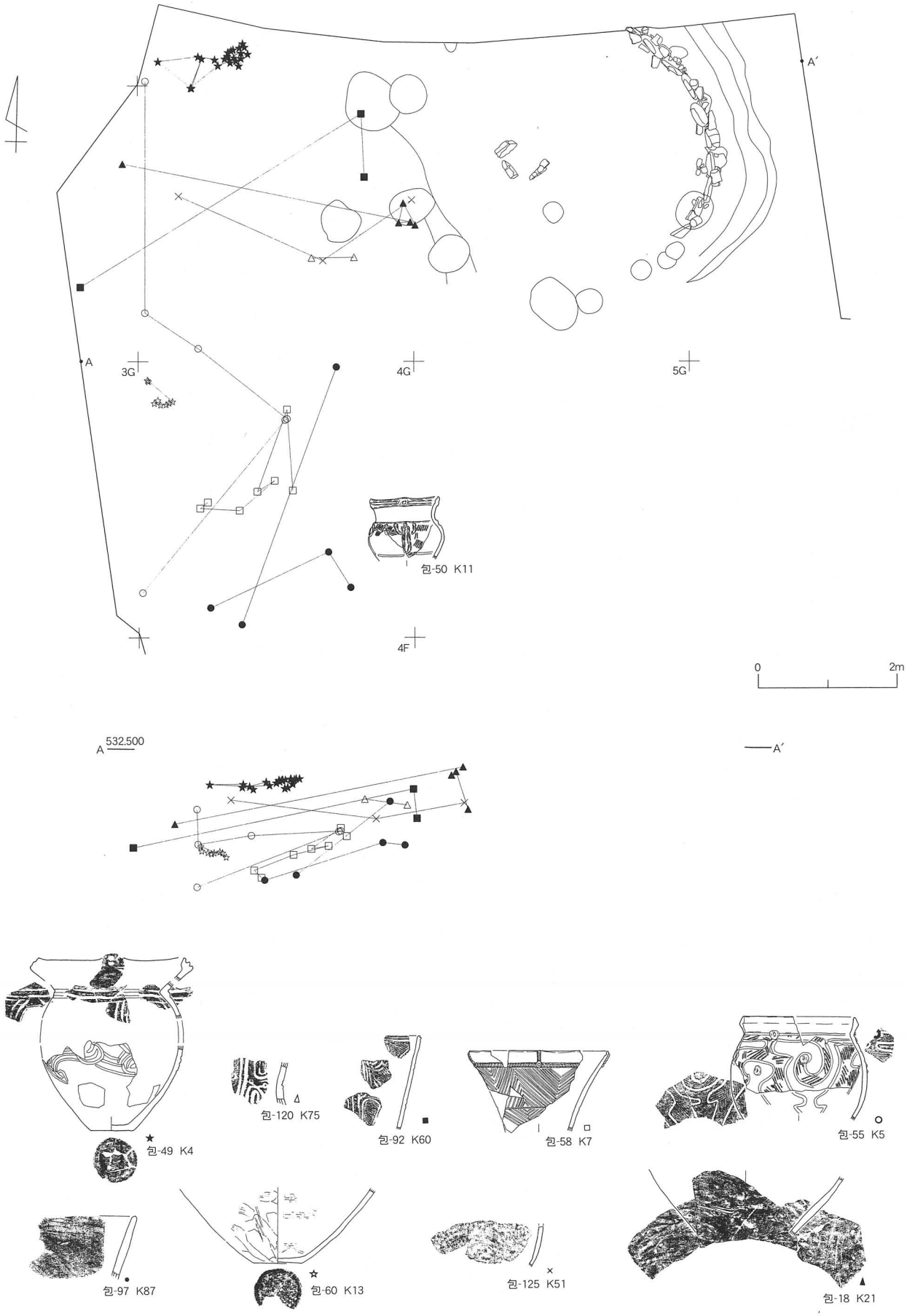


第18図　1号土坑遺物分布・接合状況

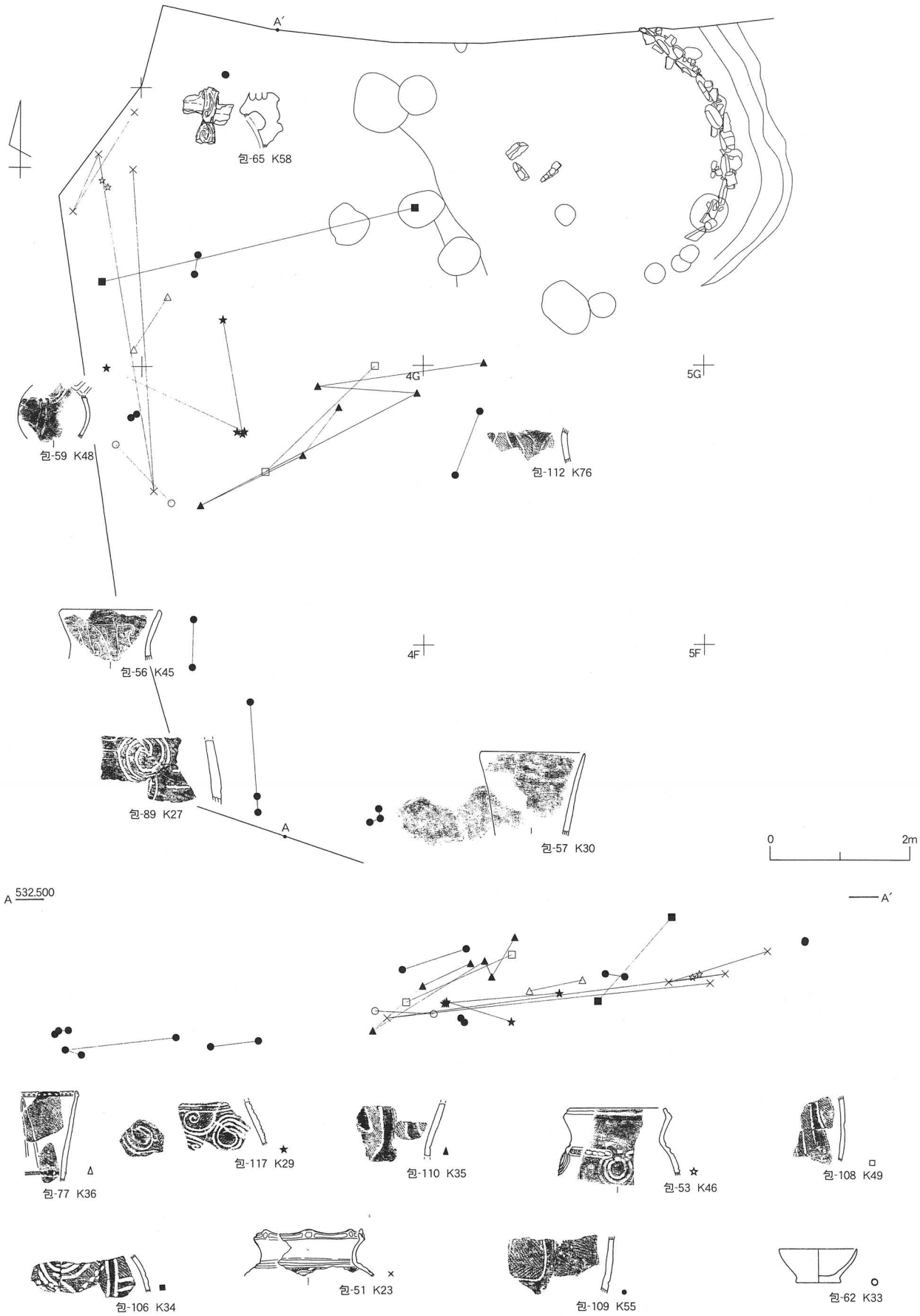
第19図　曽利式土器分布・接合状況①



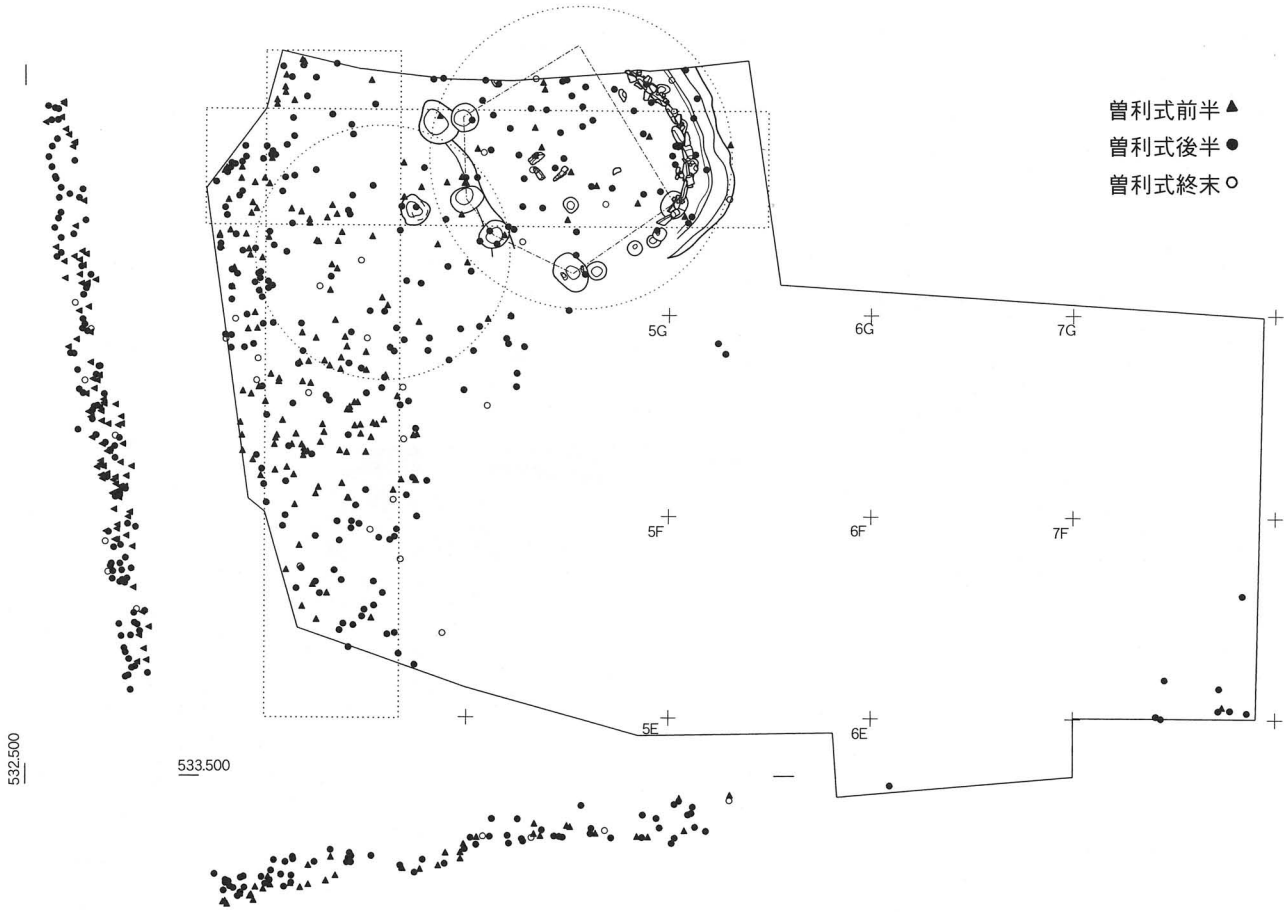
第20図　曽利式土器分布・接合状況②



第21図　堀之内式土器分布・接合状況①

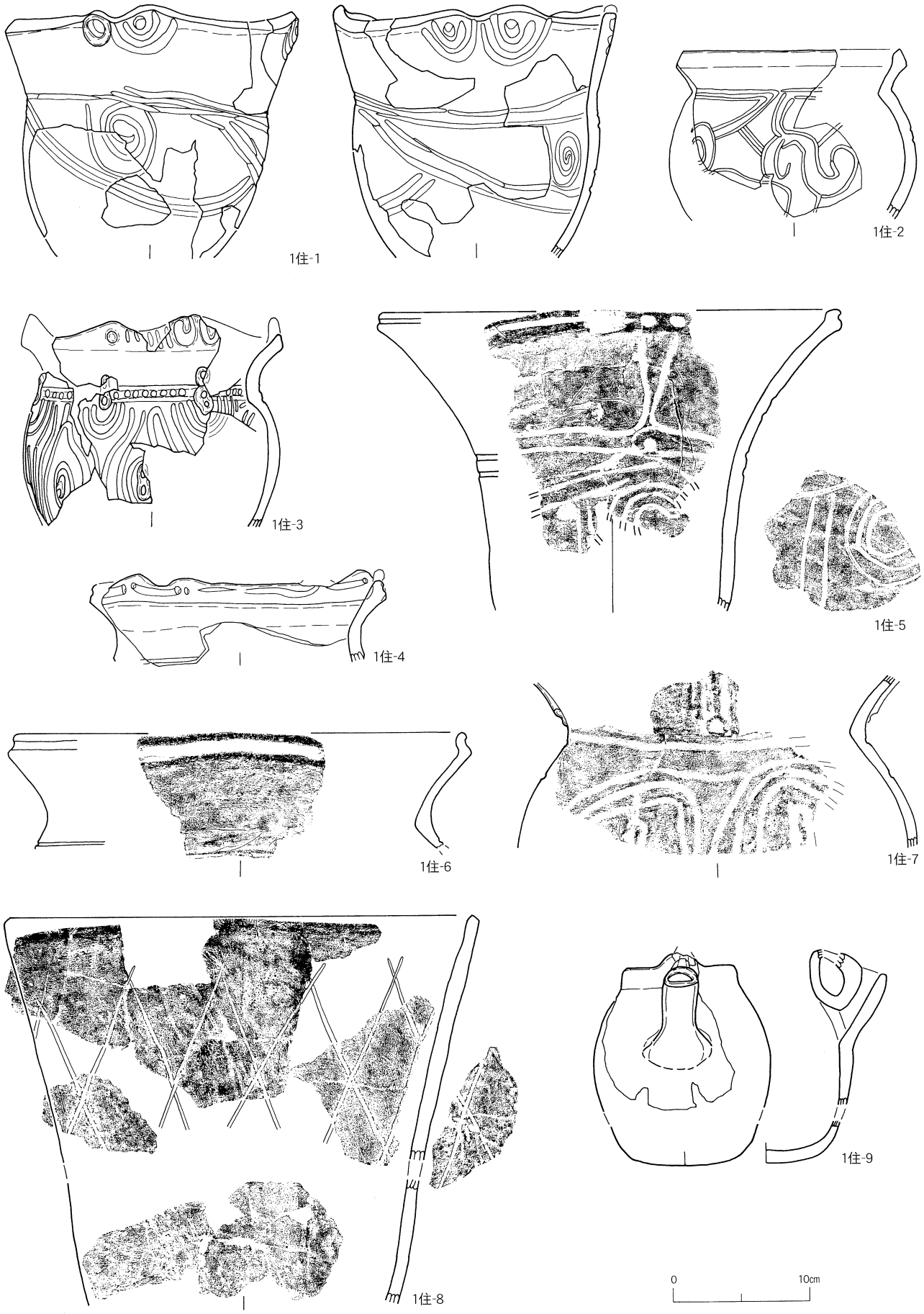


第22図　堀之内式土器分布・接合状況②

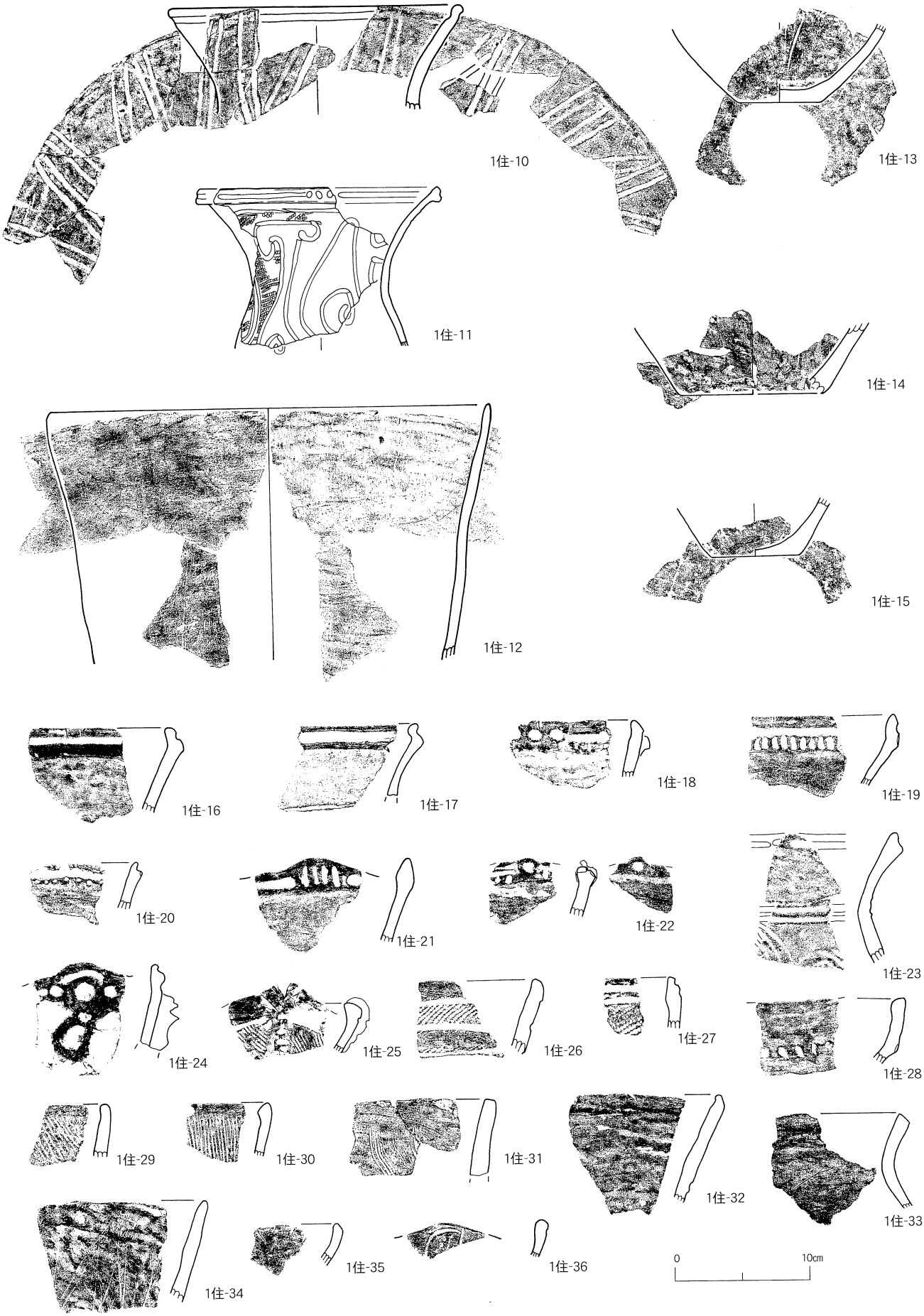


第23図　縄文時代時期別出土土器位置図（1）（S=1/150）

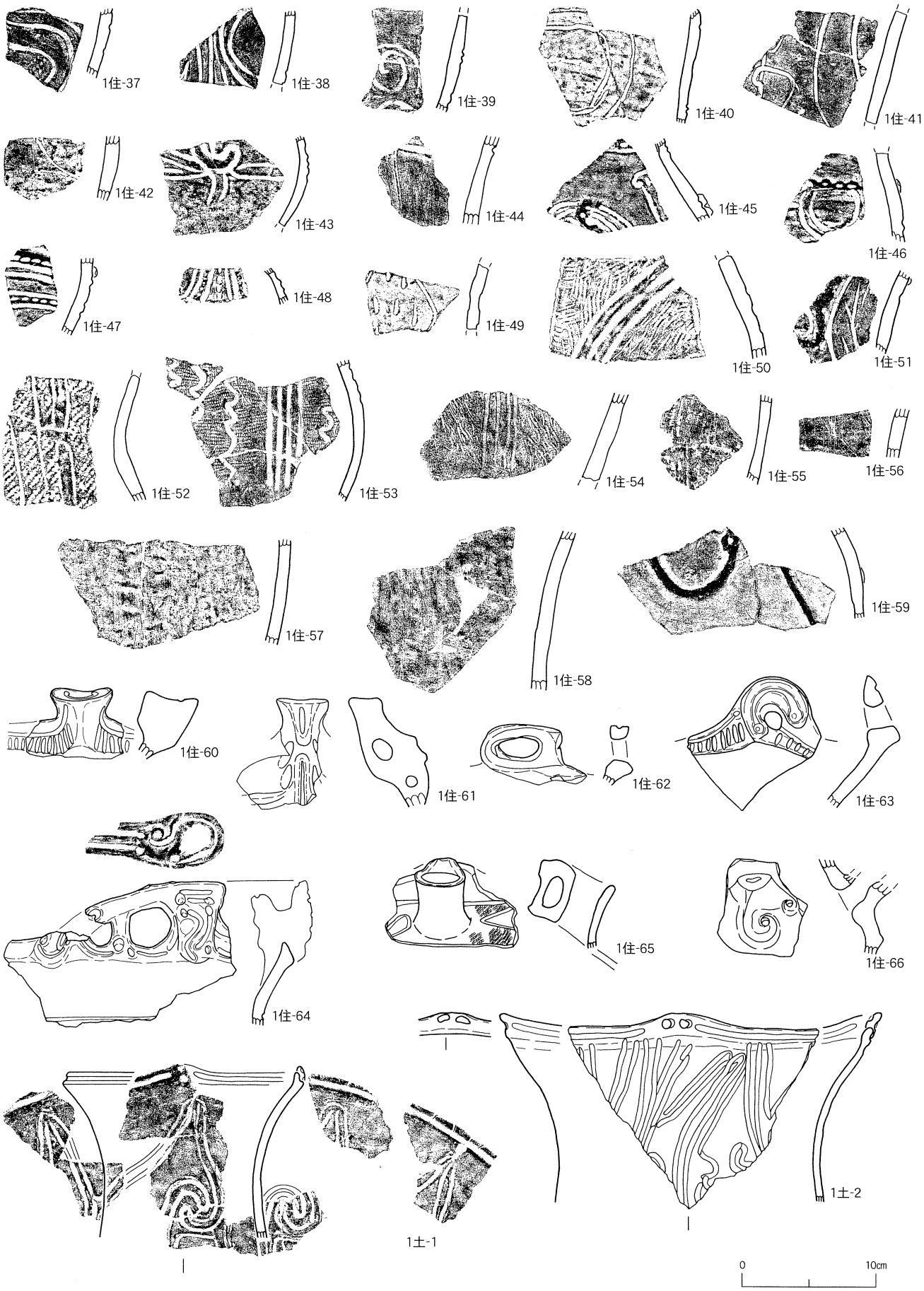
第24図　縄文時代時期別出土土器位置図（2）（S=1/150）



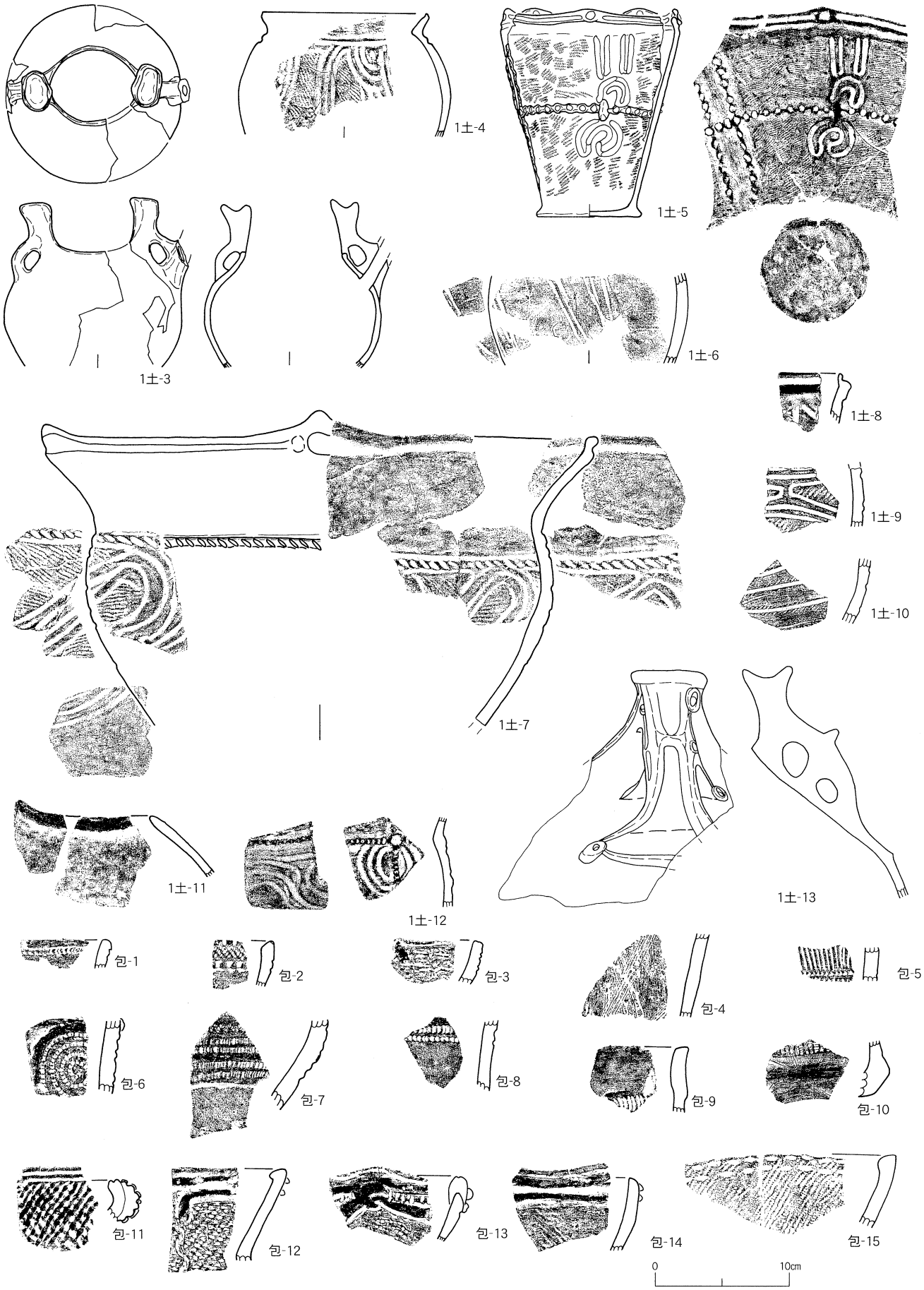
第25図　１号竪穴住居跡　出土土器（1）（S=1/4）



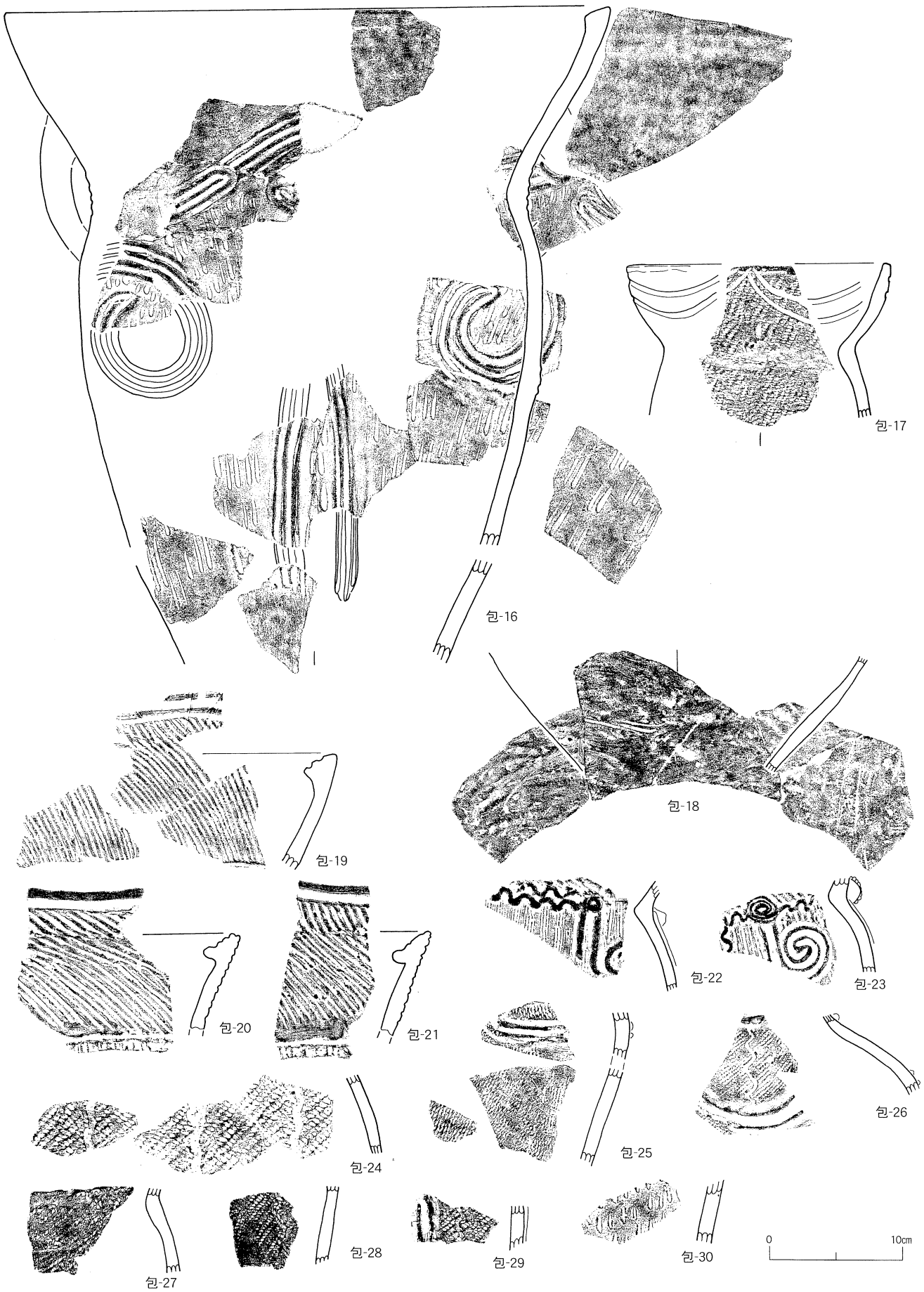
第26図　１号竪穴住居跡　出土土器（2）（S=1/4）



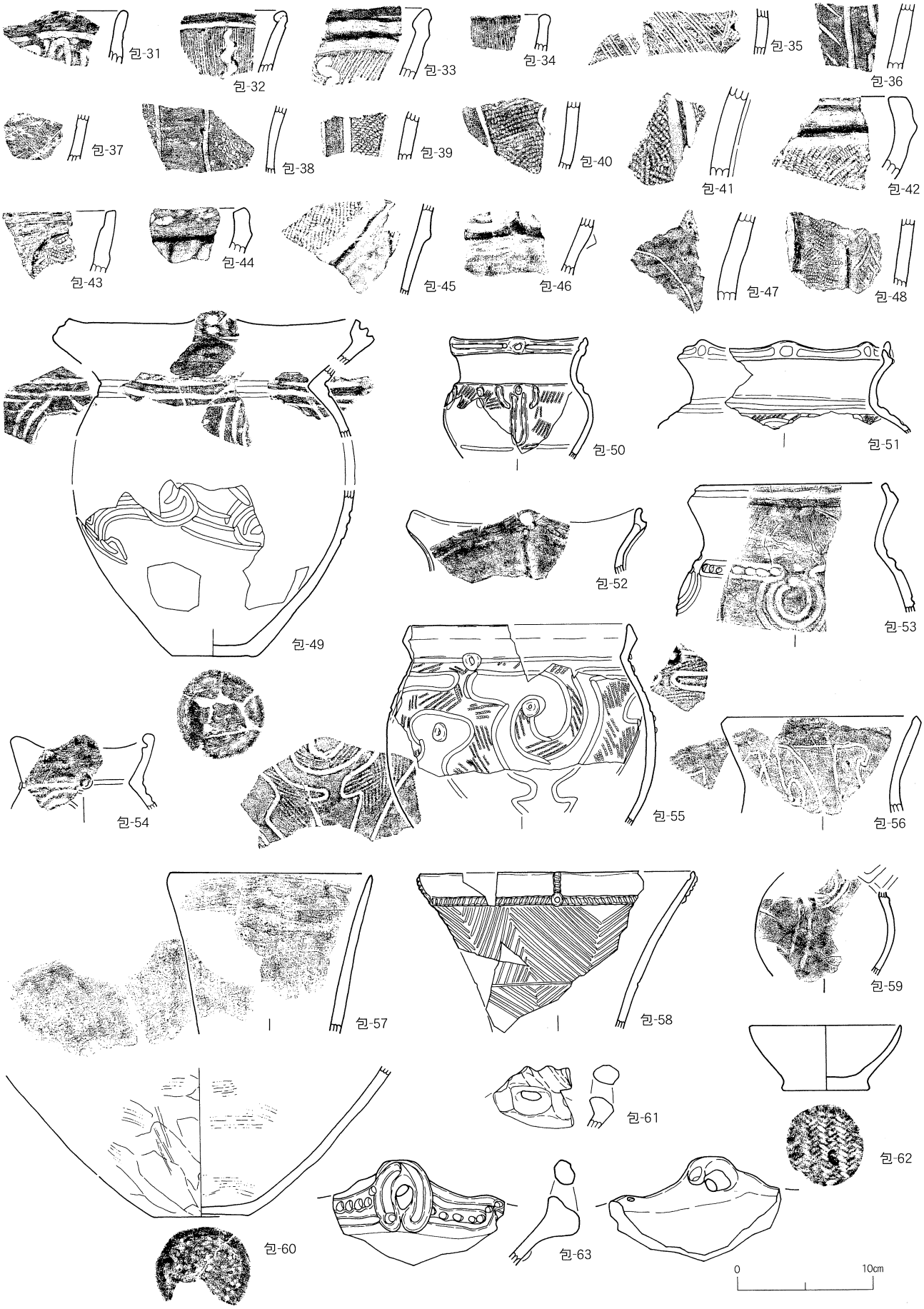
第27図　１号竪穴住居跡（3）・１号土坑出土土器（1）（S=1/4）



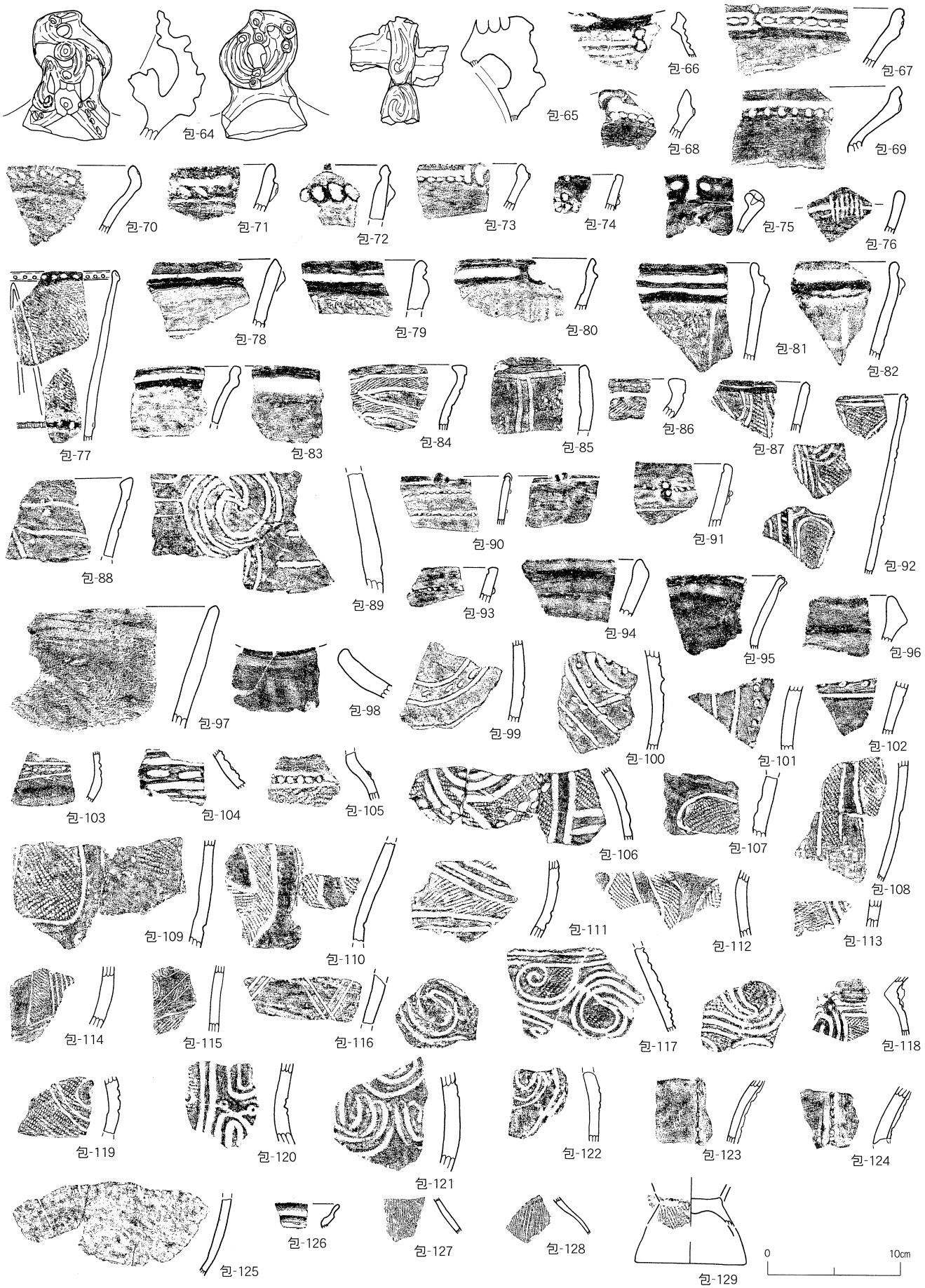
第28図　１号土坑出土土器（2）・包含層出土土器（1）（S=1/4）



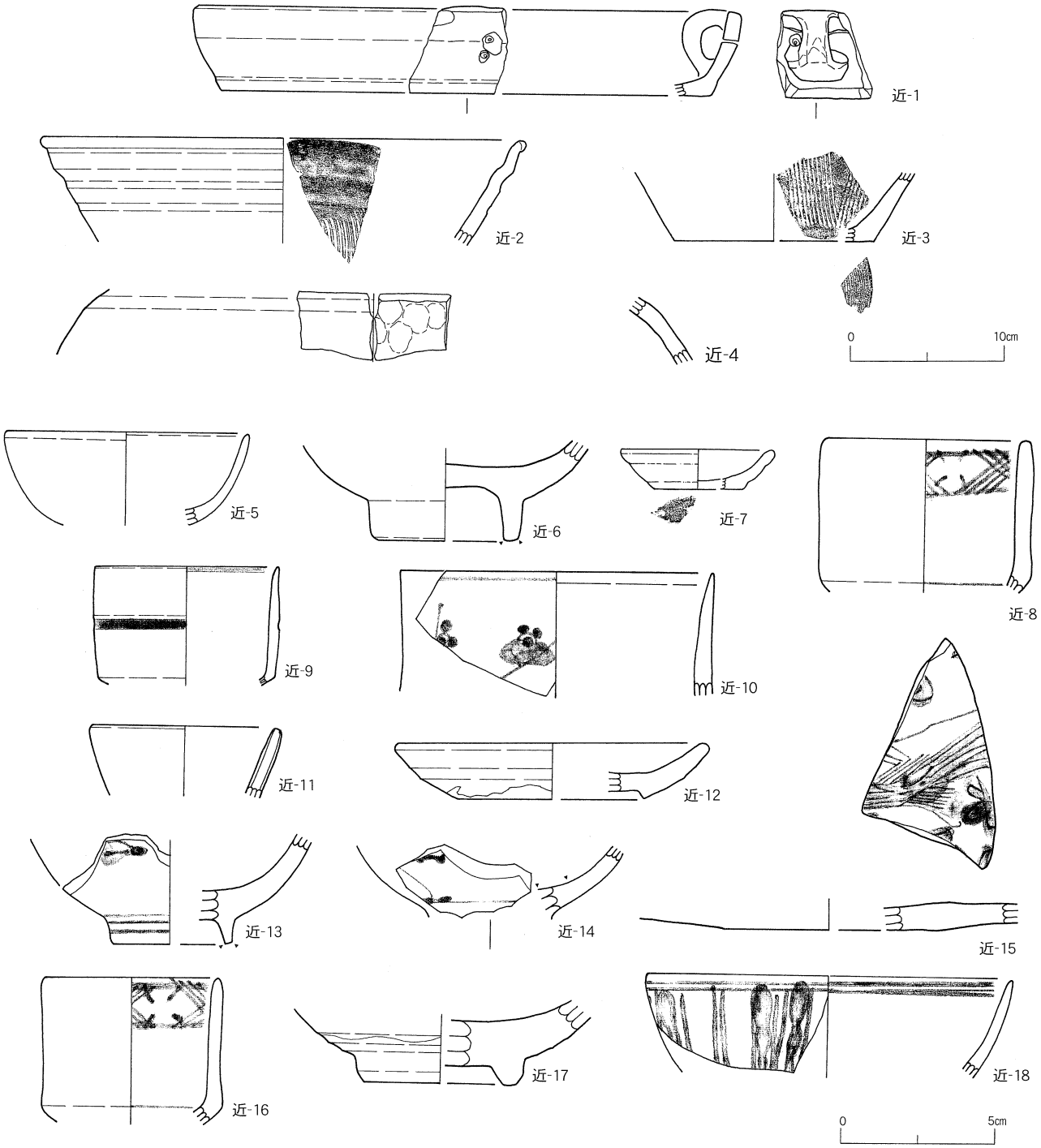
第29図　包含層出土土器（2）（S=1/4）



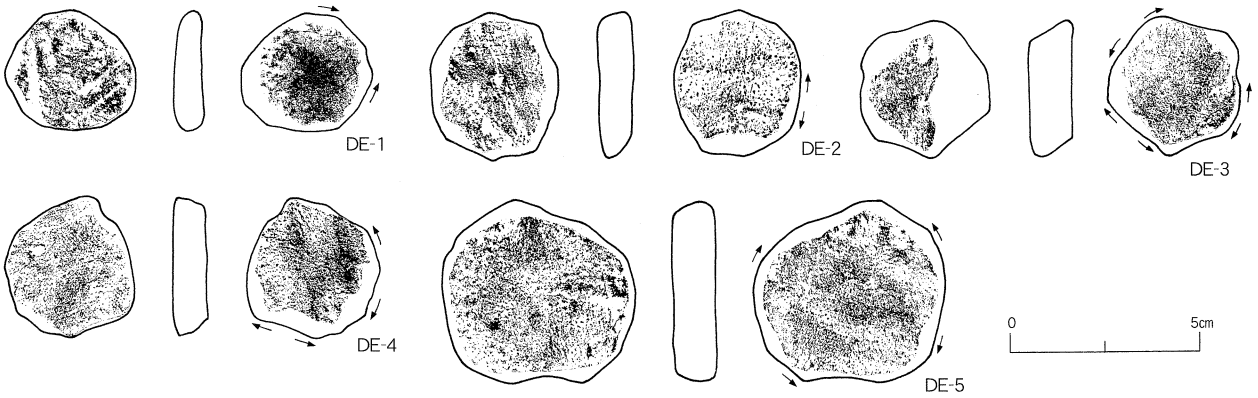
第30図　包含層出土土器（3）（S=1/4）



第31図　包含層出土土器（4）（S=1/4）



第32図　出土近世土器（S=1/4）・陶磁器（S=1/2）

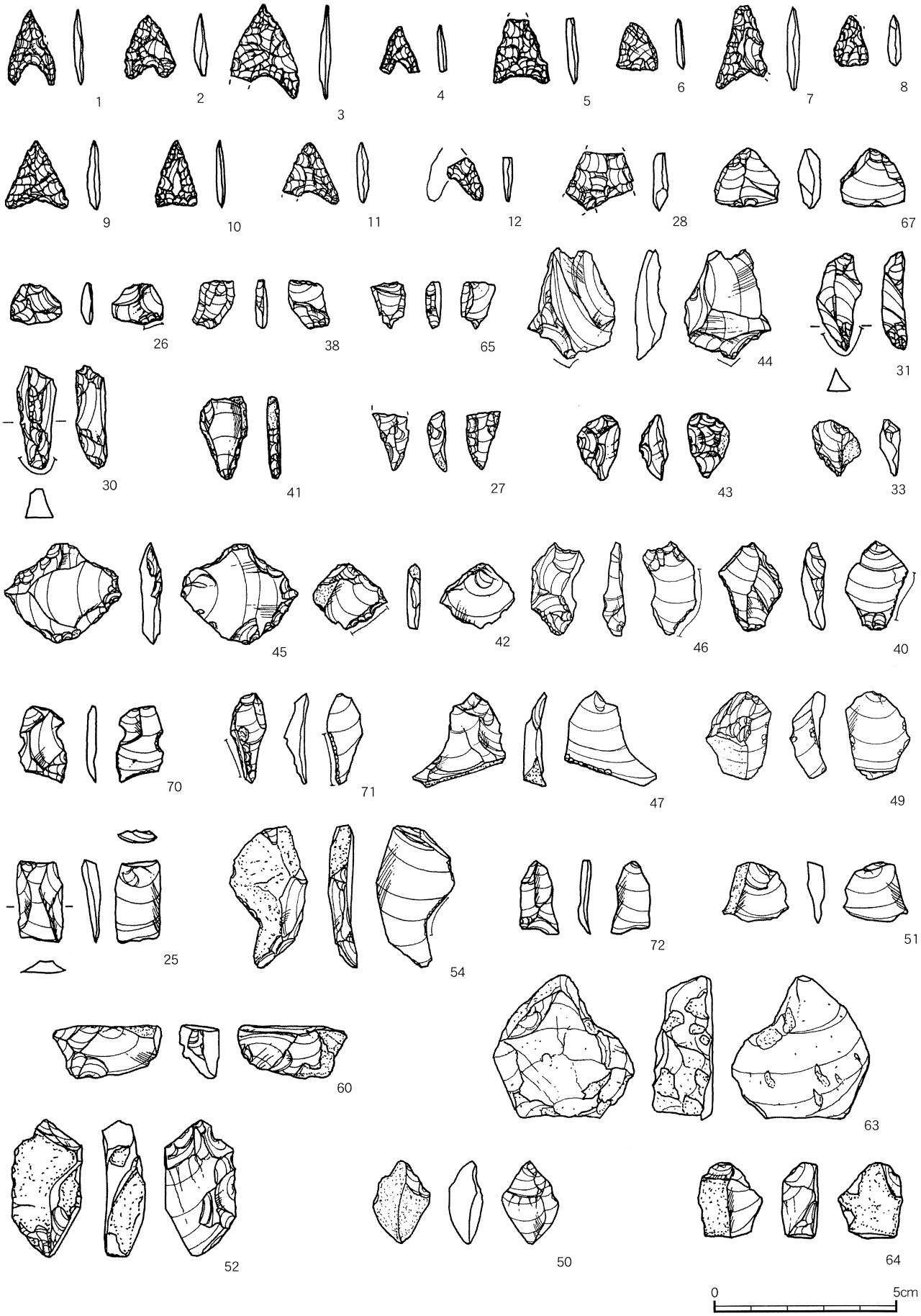


第33図　土製品（1）（S=1/2）

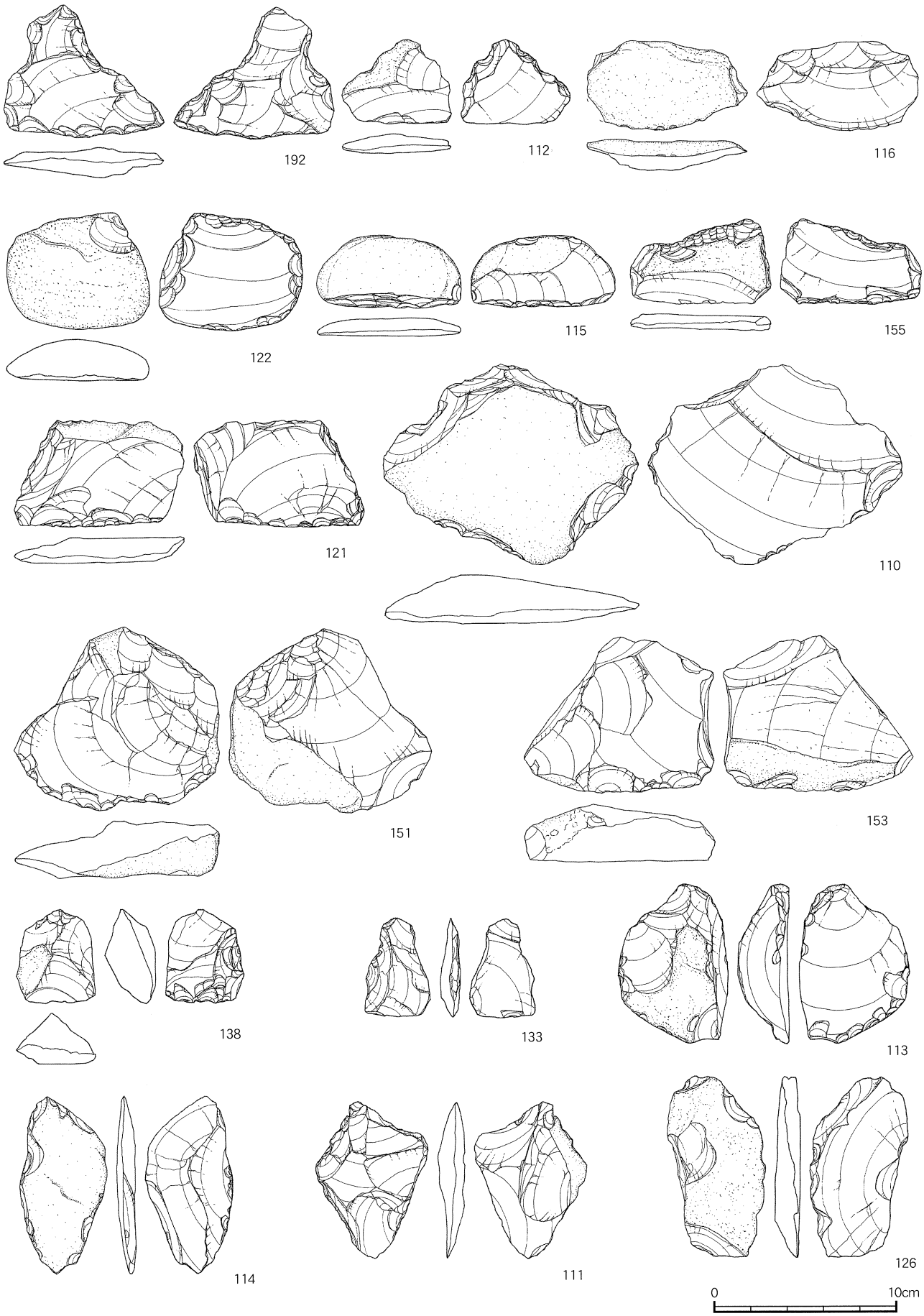
第34図　土製品（2）（S=1/2）

内様
その他
横形削器
石匙
磨製石斧
石皿
石錐
石錘
石棒
石鏃
打製石斧
多孔石
叩石
棒状礫
磨石
礫器
533.500
533.500

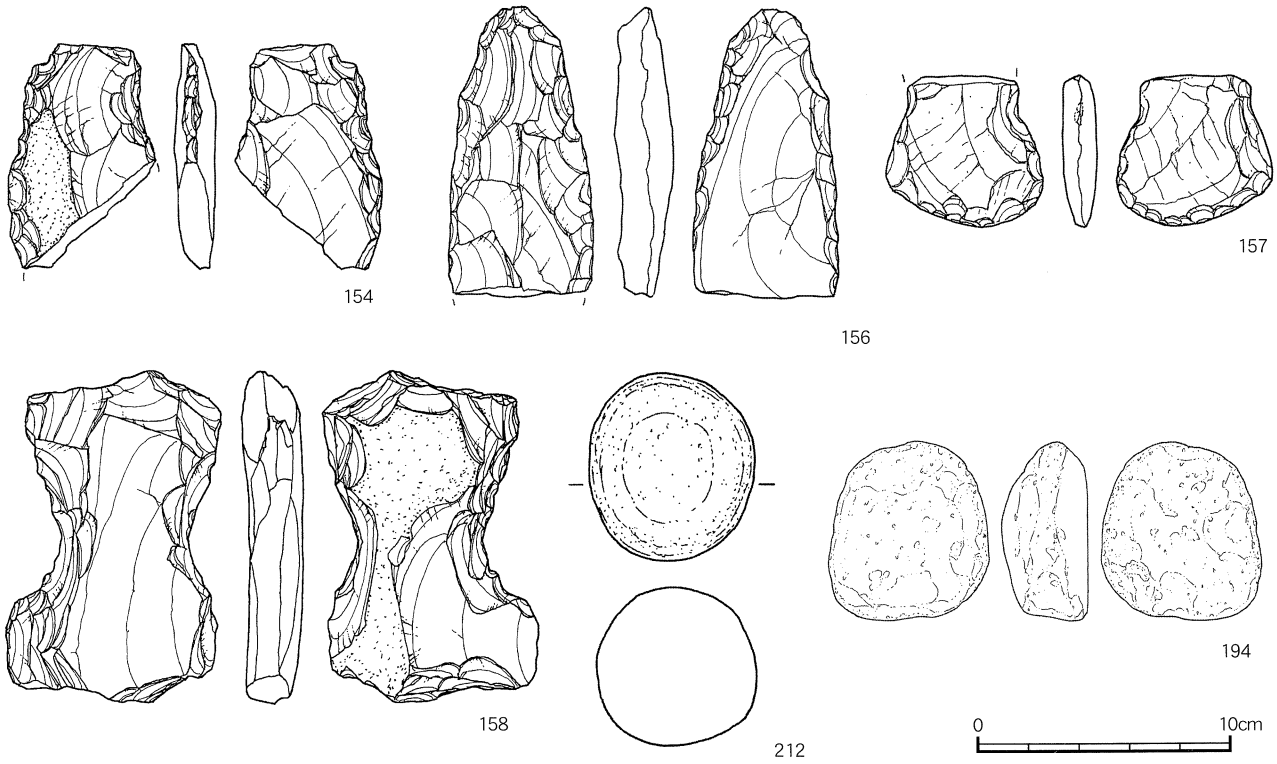
第35図　石器出土位置

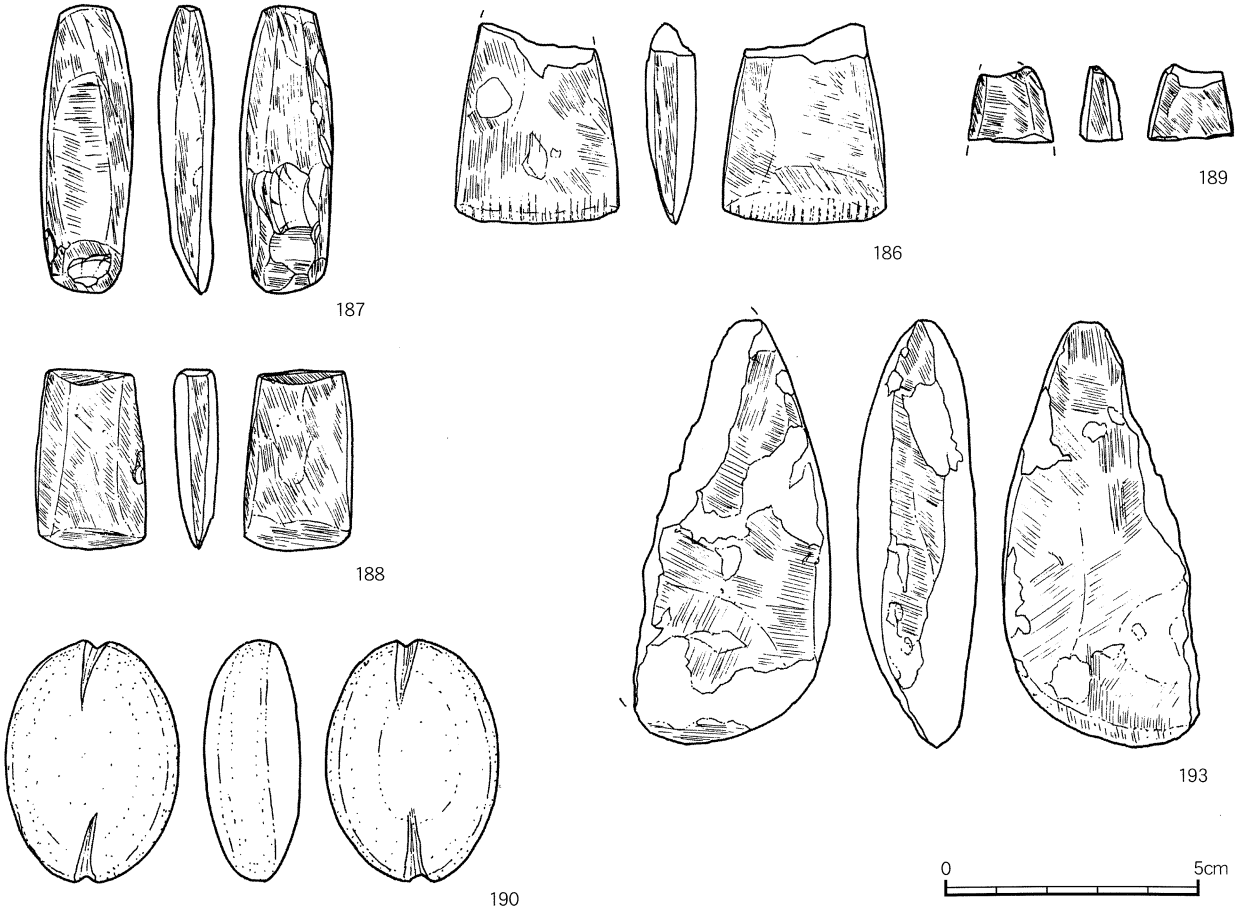


第36図　石鏃・石錐・使用痕剥片・石核・剥片

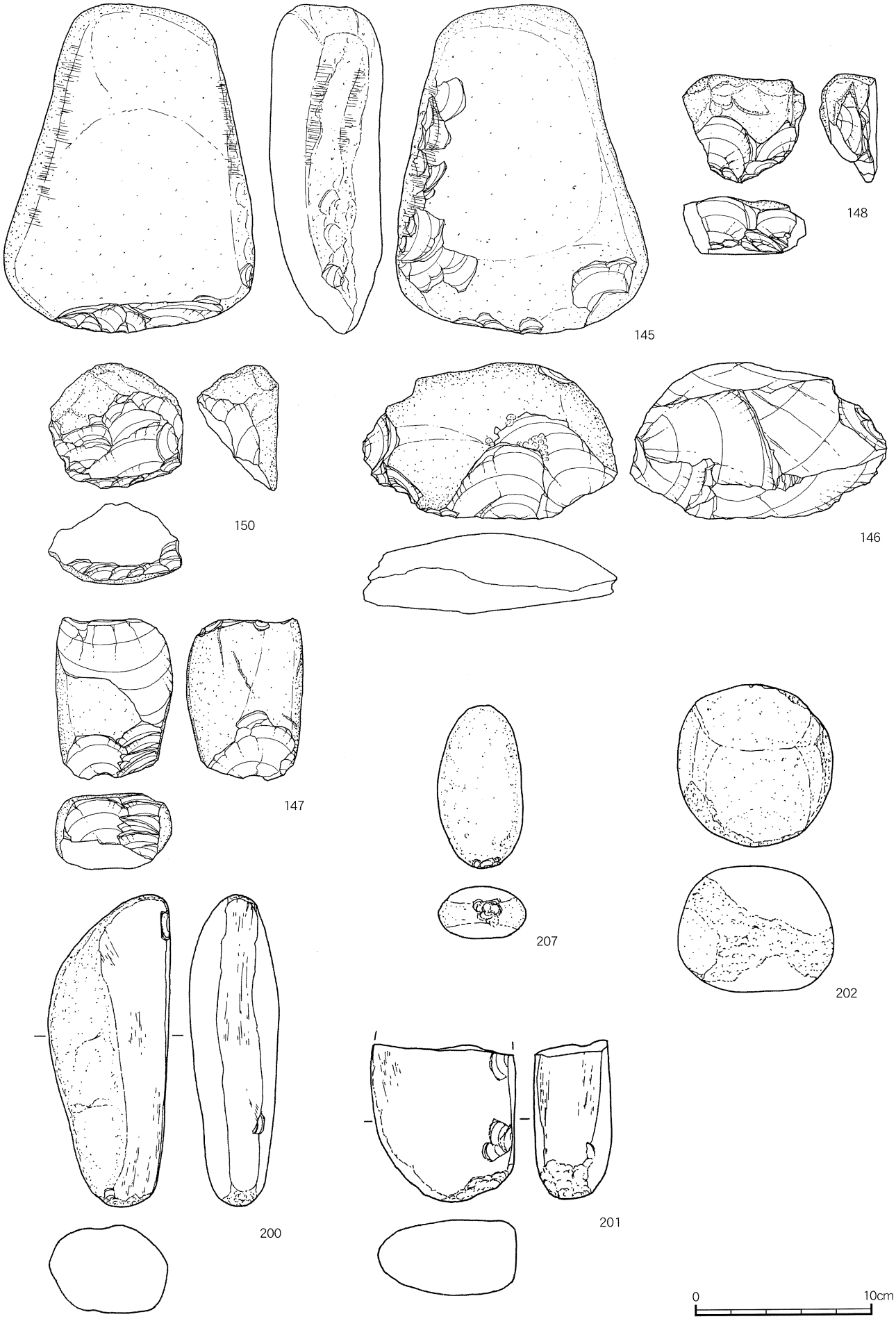


第37図　宿尻遺跡　削器・石匙

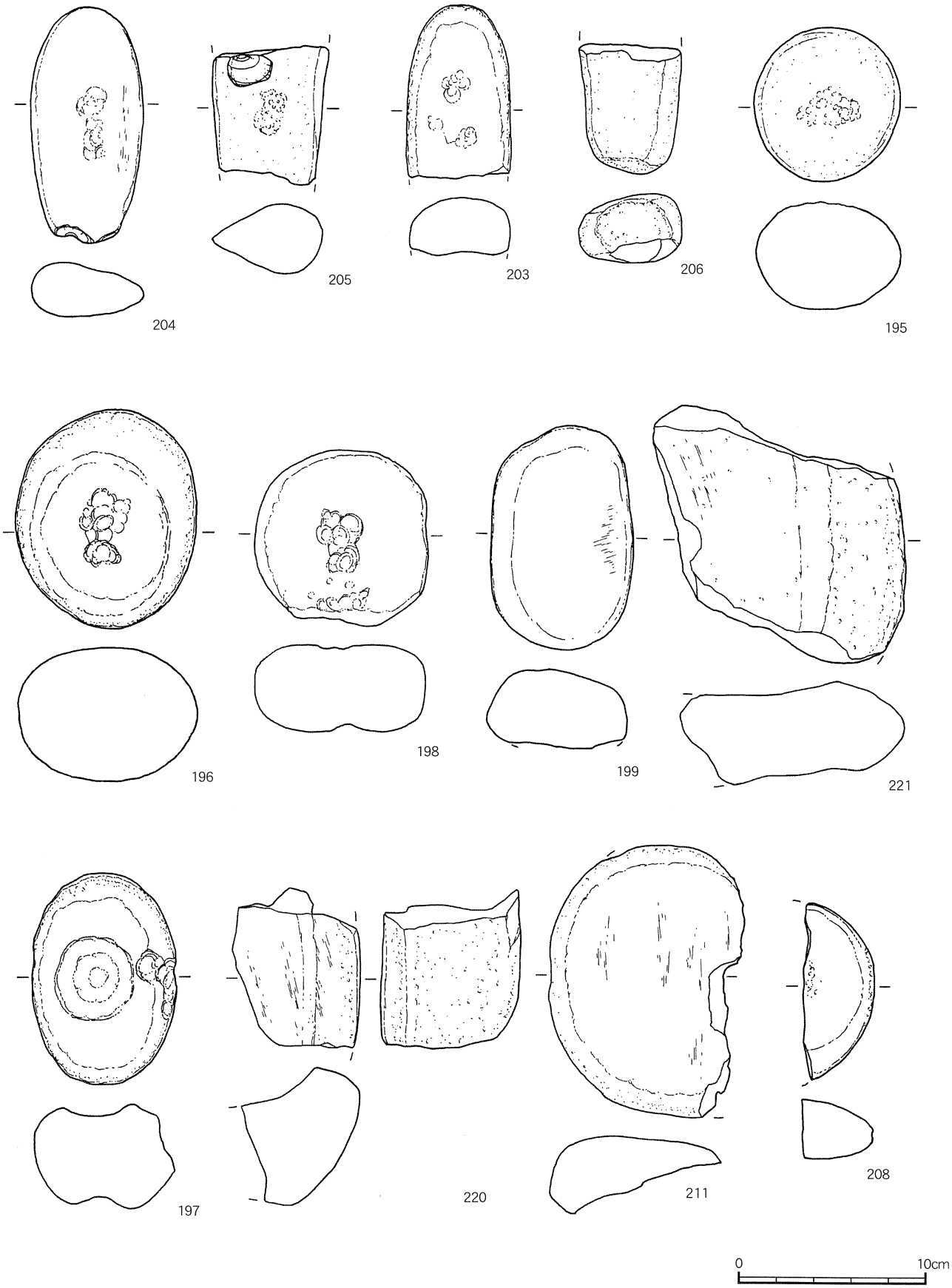




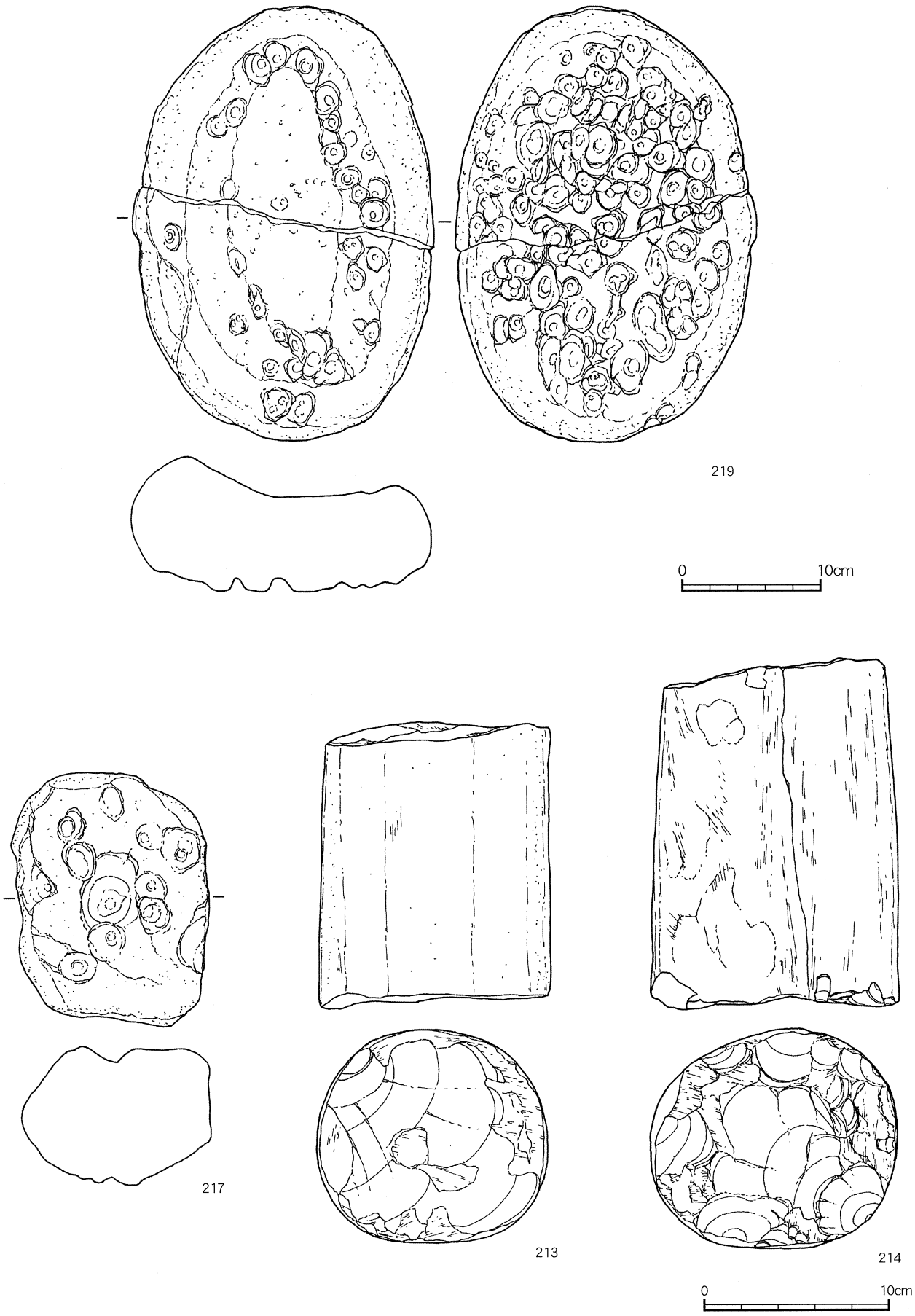
第38図　宿尻遺跡　打製石斧・石弾・磨製石斧・石錘



第39図　宿尻遺跡　礫器・敲石・特殊磨石



第40図　宿尻遺跡　敲石・凹石・石皿



第41図　宿尻遺跡　多孔石・石棒

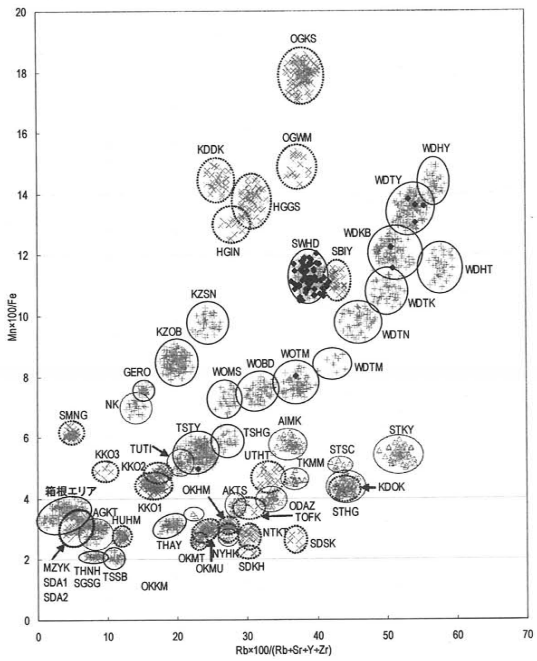
推定結果表の見方

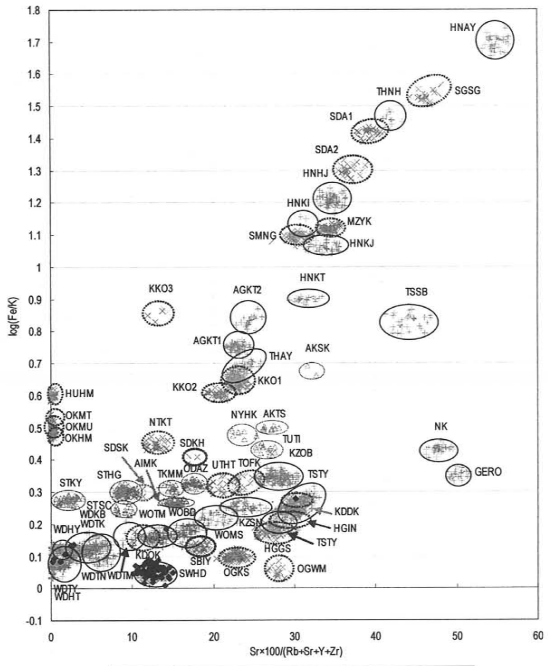
推定結果表	個々の試料について産地推定結果を示す。		
	判別図判別群	判別図から推定された産地、判別分析結果と異なる場合は*をつけて示す。	
	判別分析	候補1	判別分析の結果最も可能性の高い産地
		候補2	判別分析の結果2番目に可能性の高い産地
		距離1	個々の試料と候補1の産地間のマハラノビス距離
		距離2	個々の試料と候補2の産地間のマハラノビス距離
		確率1	個々の試料が候補1に属する確率
		確率2	個々の試料が候補2に属する確率
		注	判別図判別群と候補1が異なるときは候補1を最終結果とします。
判別図	産地を判別するための図		
	産地原石をグレーで遺跡出土試料を黒で示す。		
産地	産地推定に用いた産地のデータ 判別図中の記号はこのシートを参照.		
まとめ	遺跡出土試料の推定結果を産地ごとに集計したもの 産地推定可能な試料全体を100%として		

分析法など知りたい場合は、次のURL[http://www.busitu.numazu-ct.ac.jp/mochizuki/home.htm]をご覧ください。

産地原石判別群(SEIKO SFA-2110L蛍光X線分析装置による)

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頂(31)、八号沢(79)、　黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30),朝日町田代沢(18),櫛引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大網川(5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
長野	16	和田 (WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、　古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、　丁字御個(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田　(WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、　牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、　星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、　美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糖崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糖崎(40)、長浜(5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
その他			NK群		NK		中ッ原1G、5G(遺跡試料),原石産地は未発見
佐々木繁喜氏提供試料(まだ地図には入れていない)							
青森		小泊	折腰内群		KDOK		小泊市折腰内(8)
岩手		北上川	北上折居1群		KKO1		水沢市折居(36),花巻日形田ノ沢(36),雫石小赤沢(22)
			北上折居2群		KKO2		水沢市折居(23),花巻日形田ノ沢(8),雫石小赤沢(2)
			北上折居3群		KKO3		水沢市折居(5)
宮城		宮崎	湯ノ倉群		MZYK		宮崎町湯ノ倉(54)
		色麻	根岸群		SMNG		色麻町根岸(48)
		仙台	秋保1群		SDA1		仙台市秋保土蔵(17)
			秋保2群		SDA2		仙台市秋保土蔵(35)
		塩竈	塩竈群		SGSG		塩竈市塩竈漁港(22)





第42図　黒曜石産地推定分析表（望月明彦氏提出表を編集）

出土土器・土製品・陶磁器観察表①

図版番号		遺物番号	種類	部位	時代	色調（内）	色調（外）	胎土	接合No
第25図	1住－1	3G-14、4G-32・60・62・92・117・144・145・146・164・263・208・303・264・560・641・639・一括	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい黄褐色	褐灰色	黒・白・赤色粒子	K-3
第25図	1住－2	4H-36・75・82・190	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	K-15
第25図	1住－3	4G-44・46・80・269・307・427・428・429、3G-462	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	灰黄褐色	灰黄褐色	白色粒子	K-2
第25図	1住－4	3F-460、4G-259・583・611	深鉢形	口縁部	堀之内	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤色粒子	K-18
第25図	1住－5	4G-243・286・11・292・246・348・247・18・294・100	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・金色・黒光粒子	K-20
第25図	1住－6	4G-301	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白・透明・金色・黒光・赤色粒子	－
第25図	1住－7	3G-590、4G-371	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい橙色	金色・白・黒・赤色粒子	K-22
第25図	1住－8	JU1SK-2・15・16・17・48・47・40・44・45、3E-294・255・256・257、4G-507・631・一括	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤・金色粒子	K-53
第25図	1住－9	4H-108・154	注口土器	口縁部～注口、底部	堀之内	黄橙色	黄橙色	白・赤・黒色粒子	K-31
第26図	1住－10	3F-144・334・395、4G-584・20・149・579・75・101・73・34・285・一括	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・金色・黒光・透明粒子	K-12
第26図	1住－11	JU1SK-54・66、4H-121・129、4G一括	深鉢形	口縁部～頸部	堀之内	明赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒光・赤色粒子	K-9
第26図	1住－12	4G-88・89・95・567	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・黒・乳白・黒光粒子	K-19
第26図	1住－13	4G-43・480	深鉢形	底部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	乳白・白・黒光粒子	K-43
第26図	1住－14	4H-145・149・151	深鉢形	底部	堀之内	にぶい橙色	にぶい褐色	白・乳白・透明・赤・黒色粒子	K-52
第26図	1住－15	4G-316・393・一括	深鉢形	底部	堀之内	褐色	褐色	白・乳白・透明・金色粒子	K-70
第26図	1住－16	4G-352	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	橙色	乳白・透明・黒光・赤・金色粒子	－
第26図	1住－17	4G-359	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白・乳白・赤色粒子	－
第26図	1住－18	4G-527	深鉢形	口縁部	堀之内	赤褐色	明赤褐色	乳白・白・金色・黒光・赤色粒子	－
第26図	1住－19	5G-13	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	黒・白色粒子	－
第26図	1住－20	4G-13	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい赤褐色	灰褐色	白・金色・赤色粒子	－
第26図	1住－21	4G-93	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	透明・白色粒子	－
第26図	1住－22	4G-435	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	黒褐色	白・金色・赤・黒色粒子	－
第26図	1住－23	4G-248・256	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤色粒子	K-37
第26図	1住－24	4G-467	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい橙色	透明・白・黒光・金色・赤色粒子	－
第26図	1住－25	JU1SK-42	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	にぶい黄褐色	白・赤色粒子	－
第26図	1住－26	4G-313	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	暗褐色	白・黒・赤色粒子	－
第26図	1住－27	4G-315	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・赤・白・金色粒子	－
第26図	1住－28	4G-209	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤色粒子	－
第26図	1住－29	4G-228	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	黄褐色	乳白・黒光・金色粒子	－
第26図	1住－30	4G-483	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白・黒光・赤色粒子	－
第26図	1住－31	4H-65・69	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい橙色	にぶい黄橙色	乳白・透明・金色粒子	K-84
第26図	1住－32	5G-24	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい赤褐色	黒褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	－
第26図	1住－33	4G-599	深鉢形	口縁部	堀之内	黒褐色	暗赤褐色	白・黒光粒子	－
第26図	1住－34	4H-89	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	黒褐色	白・赤・金色・黒光粒子	－
第26図	1住－35	4G-417	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白色粒子	－
第26図	1住－36	4G-471	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黒光粒子	－
第27図	1住－53	4G-94・582・606、3F-291	深鉢形	胴部	堀之内	黒褐色	褐色	透明・乳白・黒光・金色粒子	K-24
第27図	1住－37	4G-261	深鉢形	胴部	堀之内	橙色	にぶい黄橙色	乳白・金色粒子	－
第27図	1住－38	5G-9	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	乳白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－39	4G-376・381	深鉢形	胴部	堀之内	橙色	にぶい黄褐色	乳白・黒光・赤色粒子	K-65
第27図	1住－40	5G-61・68	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・透明粒子	K-63
第27図	1住－41	4G-493・494	深鉢形	胴部	堀之内	明赤褐色	にぶい褐色	乳白・赤・金色・透明粒子	K-71
第27図	1住－42	4G-520	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	灰黄褐色	黒・白・赤色粒子	－
第27図	1住－43	4G-236	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・黒光・透明粒子	－
第27図	1住－44	4G-223	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	褐色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－45	5H-19	深鉢形	胴部	堀之内	明赤褐色	にぶい橙色	白・赤・金色・黒色粒子	－
第27図	1住－46	4H-164	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白・金色・透明粒子	－
第27図	1住－47	4G-102	深鉢形	胴部	堀之内	灰黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黒光粒子	－
第27図	1住－48	4G-82	深鉢形	胴部	堀之内	黄褐色	黄褐色	黒・白・赤色粒子	－
第27図	1住－49	4G-150	深鉢形	胴部	堀之内	褐色	にぶい黄褐色	金色・乳白粒子	－
第27図	1住－50	4G-268	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・黒・白・赤色粒子	－
第27図	1住－51	4G-612	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	白・金色・赤色粒子	－
第27図	1住－52	4G-252・254	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい赤褐色	黒・白・赤色粒子	K-74
第27図	1住－54	4G-201	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	灰褐色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－55	4G-21・338	深鉢形	胴部	堀之内	橙色	橙色	乳白・透明・黒色粒子	K-54
第27図	1住－56	4G-384	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－

出土土器・土製品・陶磁器観察表②

図版番号		遺物番号	種類	部位	時代	色調（内）	色調（外）	胎土	接合No
第27図	1住－57	4G-66・119	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	褐色	白・乳白・透明・金色粒子	K-73
第27図	1住－58	4G-380・421・478・489	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・金色粒子	K-44
第27図	1住－59	4G-299・300	注口土器	胴部	堀之内	明黄褐色	明黄褐色	黒・乳白・透明・赤色粒子	K-56
第27図	1住－60	4H-168	浅鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－61	3E-250・280	注口土器	口縁部	堀之内	黒褐色	黒褐色	白・黒・赤・黒光粒子	K-28
第27図	1住－62	4G-460	浅鉢形	把手	堀之内	にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－63	4G-426	浅鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白・黒光・赤色粒子	－
第27図	1住－64	4G-541	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・乳白・赤・黒光粒子	K-17
第27図	1住－65	5G-20	注口土器	注口部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1住－66	4H-76	注口土器	注口部	堀之内	灰黄褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤色粒子	－
第27図	1土－1	3G-446・557・559・571・619・621・670・799・802・804・831	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	黒褐色	黒褐色	白・赤・金色・黒光粒子	K-32
第27図	1土－2	2G-18、3G-840・848	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	黒褐色	白・黒光・赤色粒子	K-6
第28図	1土－12	3G-466	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	明黄褐色	透明・黒光・赤・乳白色粒子	K-40
第28図	1土－10	3G-843	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	黒・白・赤色粒子	－
第28図	1土－11	4G-151	深鉢形	口縁部	堀之内	褐色	褐色	乳白・赤・黒光粒子	K-39
第28図	1土－13	3G-847	深鉢形	把手	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	黒・白・赤・黒光粒子	K-14
第28図	1土－3	3G-659・767・842・892	注口土器	口縁部～胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	黒・白・赤色粒子	K-10
第28図	1土－4	3G-785・一括	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	暗褐色	暗褐色	金色・白・乳白・黒・赤色粒子	K-47
第28図	1土－5	3G-668・669・768・769・一括	深鉢形	口縁部～底部	堀之内	灰褐色	灰褐色	白・金色・黒色粒子	K-8
第28図	1土－6	3G-624・649・741・783・一括	深鉢形	胴部	堀之内	黒褐色	にぶい赤褐色	白・乳白・黒色粒子	K-26
第28図	1土－7	3G-125・501・509・470・471・700・708・784・788・789	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	明赤褐色	にぶい褐色	乳白・透明・黒光・赤色粒子	K-16
第28図	1土－8	3G-662	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	暗褐色	透明・黒光・赤色粒子	－
第28図	1土－9	3G-468	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	褐色	乳白・金色・黒光・赤色粒子	－
第28図	包－1	3F-12	深鉢形	口縁部	諸磯	黒褐色	赤褐色	金色・乳白・黒色粒子	－
第28図	包－10	3F-322	深鉢形	底部	勝坂後半	黒褐色	赤褐色	白・乳白・黒光・赤色粒子	－
第28図	包－11	3F-185	深鉢形	口縁部	曽利前半	にぶい橙色	にぶい橙色	白・赤色粒子	－
第28図	包－12	2G-122	深鉢形	口縁部	曽利前半	褐灰色	にぶい黄橙色	白・金色粒子	－
第28図	包－13	3F-261	深鉢形	口縁部	曽利前半	黒褐色	灰黄褐色	白・金色・赤色粒子	－
第28図	包－14	2G-97	深鉢形	口縁部	曽利前半	灰褐色	にぶい黄褐色	白・黒光・赤色粒子	－
第28図	包－15	3F-176・274	深鉢形	口縁部	曽利前半	にぶい黄橙色	褐灰色	白・乳白・黒光粒子	K-77
第28図	包－2	3F-42	深鉢形	口縁部	諸磯	赤褐色	褐色	金色・白・乳白・赤色粒子	－
第28図	包－3	2F-43	深鉢形	口縁部	諸磯	灰褐色	黒褐色	白・金色・乳白・赤色粒子	－
第28図	包－4	JU1SK-5・68	深鉢形	胴部	諸磯	浅黄橙色	黒褐色	白・乳白・金色・赤色粒子	－
第28図	包－5	4H-一括	深鉢形	胴部	五領ヶ台	にぶい褐色	灰褐色	白・黒光・赤色粒子	－
第28図	包－6	6E-一括	深鉢形	胴部	勝坂前半	橙色	黒褐色	白・黒光・透明粒子	－
第28図	包－7	表採	深鉢形	胴部	勝坂前半	灰褐色	黒褐色	白・乳白・黒・金色・赤色粒子	－
第28図	包－8	7E-一括	深鉢形	胴部	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白・赤・金色粒子	－
第28図	包－9	3F-350	深鉢形	口縁部	勝坂後半	明赤褐色	明赤褐色	白・金色粒子	－
第29図	包－16	3F-272・312・327・471・335・337・391・392・393・473・142・343・270・276・344・399、2F-54・38・67	深鉢形	口縁部～胴部	曽利前半	赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・黒光・赤色粒子	K-69
第29図	包－17	3G-316	深鉢形	口縁部～胴部	曽利前半	暗褐色	にぶい黄褐色	金色・白・赤色粒子	－
第29図	包－18	2G-27、3G-292・379・461・751	深鉢形	胴部	曽利前半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	乳白・金色・黒光・赤色粒子	K-21
第29図	包－19	2F-15、2G-一括、3F-166・228	深鉢形	口縁部	曽利前半	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白・乳白・黒色粒子	K-79
第29図	包－20	4E-一括	深鉢形	口縁部	曽利前半	灰褐色	灰褐色	白・黒・黒光粒子	－
第29図	包－21	3G-513	深鉢形	口縁部	曽利前半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒光・赤色粒子	－
第29図	包－22	2F-56	深鉢形	胴部	曽利前半	にぶい橙色	にぶい黄橙色	白・金色・黒色粒子	－
第29図	包－23	3H-65	深鉢形	胴部	曽利前半	黒褐色	にぶい橙色	白・金色粒子	－
第29図	包－24	3G-324、3F-218・397	深鉢形	胴部	曽利前半	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	黒・白・金色粒子	K-82
第29図	包－25	2F-47、3F-412、4F-一括	深鉢形	胴部	曽利前半	にぶい赤褐色	にぶい褐色	乳白・白・赤・黒色粒子	K-78
第29図	包－26	3G-293・294	壺	胴部	曽利前半	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	白・乳白・黒・赤色粒子	K-81
第29図	包－27	3F-167	深鉢形	胴部	曽利前半	黒褐色	黒褐色	白・金色・赤色粒子	－
第29図	包－28	3F-309	深鉢形	胴部	曽利前半	黒褐色	褐色	白・黒光粒子	－
第29図	包－29	3G-100	深鉢形	胴部	曽利前半	にぶい黄橙色	にぶい橙色	白・黒光粒子	－
第29図	包－30	3F-194	深鉢形	胴部	曽利前半	褐灰色	にぶい赤褐色	白・乳白色粒子	K-80
第30図	包－31	3F-102	深鉢形	口縁部	曽利後半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・黒色粒子	－
第30図	包－32	3E-99	深鉢形	口縁部	曽利後半	黒褐色	黒褐色	白・黒光・赤色粒子	－
第30図	包－33	4H-61	深鉢形	口縁部	曽利後半	黒褐色	橙色	白・金色・透明粒子	－
第30図	包－34	3E-279	深鉢形	口縁部	曽利後半	褐色	にぶい褐色	金色・白色粒子	－
第30図	包－35	3G-287、7E-15	深鉢形	胴部	曽利後半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白・黒色粒子	K-85
第30図	包－36	4G-354	深鉢形	胴部	曽利後半	にぶい橙色	にぶい橙色	白・金色・黒光・赤色粒子	－
第30図	包－37	5G-22	深鉢形	胴部	曽利後半	灰黄褐色	にぶい橙色	白・乳白・黒光粒子	－

出土土器・土製品・陶磁器観察表③

図版番号		遺物番号	種類	部位	時代	色調（内）	色調（外）	胎土	接合No.
第30図	包－38	3F-404	深鉢形	胴部	曽利後半	橙色	にぶい橙色	白・金色・赤・乳白・黒光粒子	－
第30図	包－39	2G-79	深鉢形	胴部	曽利後半	にぶい褐色	にぶい橙色	白・金色・黒色粒子	－
第30図	包－40	4G-47	深鉢形	胴部	曽利終末	褐色	褐色	乳白・金色・赤色粒子	－
第30図	包－41	3F-553	深鉢形	胴部	曽利後半	にぶい橙色	にぶい褐色	白・黒・赤・金色・乳白色粒子	－
第30図	包－42	3F-182	深鉢形	口縁部	曽利終末	にぶい赤褐色	明赤褐色	白・透明・金色粒子	－
第30図	包－43	3G-272	深鉢形	口縁部	曽利終末	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白・金色・透明粒子	－
第30図	包－44	6E-一括	深鉢形	口縁部	曽利終末	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・乳白・透明粒子	－
第30図	包－45	3F-381	深鉢形	胴部	曽利終末	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白・黒光粒子	－
第30図	包－46	4F-34・35	深鉢形	胴部	曽利後半	灰黄褐色	灰黄褐色	白・黒色粒子	K-83
第30図	包－47	3F-314	深鉢形	胴部	曽利終末	明褐色	にぶい褐色	乳白・金色・透明粒子	－
第30図	包－48	2F-60	深鉢形	胴部	曽利終末	明褐色	にぶい褐色	乳白・透明・金色・黒色粒子	－
第30図	包－49	3H-2・5・26・29・31・33・35・36・37・41・42・43・44・45・46・50・51、7E-一括	深鉢形	口縁部～底部	堀之内	にぶい橙色	にぶい黄褐色	黒・白・赤・金色粒子	K-4
第30図	包－50	3F-172・173・432	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・金色粒子	K-11
第30図	包－51	2G-4・14・28、3F-249、3G-246、2F-一括	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい赤褐色	灰褐色	白・黒光・赤色粒子	K-23
第30図	包－52	3F-497	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	黒褐色	金色・白・黒色粒子	－
第30図	包－53	2G-23・24	深鉢形	口縁部	堀之内	黒褐色	にぶい褐色	白・黒光・赤色粒子	K-46
第30図	包－54	4G-554	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黒光粒子	－
第30図	包－55	2F-29、3F-99・118、3G-329・330、3H-74	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	にぶい橙色	にぶい褐色	白・赤・金色・黒光粒子	K-5
第30図	包－56	3F-478・一括、3E-273	深鉢形	口縁部	堀之内	灰褐色	黒褐色	金色・黒・白・赤色粒子	K-45
第30図	包－57	3E-29・30・31・一括	深鉢形	口縁部	堀之内	褐灰色	にぶい黄橙色	白・黒色粒子	K-30
第30図	包－58	3F-65・100・147・415	深鉢形	口縁部	堀之内	灰褐色	灰褐色	白・黒・赤・乳白・黒光粒子	K-7
第30図	包－59	2F-32、3F-352	注口土器	胴部	堀之内	灰褐色	灰褐色	金色・白・乳白色粒子	K-48
第30図	包－60	3F-210・211・213・214・221・541・570	浅鉢形	底部	堀之内	黒褐色	極暗赤褐色	白・金色・赤色粒子	K-13
第30図	包－61	3F-238	浅鉢形	把手	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・白・赤色粒子	－
第30図	包－62	2F-1、3F-88	浅鉢形	口縁部～底部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	乳白・黒光・透明・金色粒子	K-33
第30図	包－63	2F-13	浅鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤・金色粒子	－
第31図	包－100	3G-256	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	金色・乳白・黒光粒子	－
第31図	包－101	3F-482	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	橙色	白・黒光・赤色粒子	－
第31図	包－102	3E-274	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	灰黄褐色	金色・白・赤色粒子	－
第31図	包－103	3G-441	深鉢形	胴部	堀之内	浅黄橙色	浅黄橙色	白・乳白・黒・金色粒子	－
第31図	包－104	3G-567	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	黒褐色	白・金色・赤・乳白色粒子	－
第31図	包－105	3F-175	深鉢形	頚部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤色粒子	－
第31図	包－106	2G-66、3G-380・一括、4G-一括	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・黒光粒子	K-34
第31図	包－107	2G-30	深鉢形	胴部	堀之内	灰黄褐色	褐色	乳白・金色粒子	－
第31図	包－108	3F-161・505	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	灰黄褐色	乳白・白・透明・金色粒子	K-49
第31図	包－109	3G-181・251	深鉢形	胴部	堀之内	明赤褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黒光・金色粒子	K-55
第31図	包－110	3F-27・117・414・531・554、4G-609	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・金色粒子	K-35
第31図	包－111	3E-126	深鉢形	胴部	堀之内	褐灰色	黒褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－112	4F-18・25	深鉢形	頚部	堀之内	褐灰色	暗褐色	白・乳白・赤・黒光粒子	K-76
第31図	包－113	3F-552	深鉢形	胴部	堀之内	黒褐色	灰黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－114	3G-199	深鉢形	胴部	堀之内	灰黄褐色	灰黄褐色	白・赤色粒子	－
第31図	包－115	3F-515	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい橙色	黒・白・金色・赤色粒子	－
第31図	包－116	3G-871	深鉢形	胴部	堀之内	黒褐色	黒褐色	乳白・透明・金色粒子	－
第31図	包－117	2F-62、3F-222・266・267、3G-323	深鉢形	胴部	堀之内	灰黄褐色	にぶい褐色	乳白・透明・黒光粒子	K-29
第31図	包－118	3G-414	深鉢形	頚部	堀之内	にぶい黄褐色	灰黄褐色	黒・白・赤・金色粒子	－
第31図	包－119	3F-466	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい褐色	にぶい橙色	乳白・黒光・透明粒子	－
第31図	包－120	3G-591・708	深鉢形	胴部	堀之内	灰褐色	黒褐色	黒・白・赤色粒子	K-75
第31図	包－121	3F-320	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－122	3F-428	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	褐灰色	白・黒・赤・金色粒子	－
第31図	包－123	3G-495	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－124	2F-26	深鉢形	口縁部	堀之内	灰褐色	黒褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－125	3G-736・891・900	深鉢形	胴部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白・透明・黒光粒子	K-51
第31図	包－126	3F-321	台付甕	口縁部	古墳	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・赤色粒子	－
第31図	包－127	3E-37	台付甕	胴部	古墳	橙色	にぶい橙色	白・金色粒子	－
第31図	包－128	2F-一括	台付甕	肩部	古墳	黒褐色	橙色	金色・白色粒子	－
第31図	包－129	5H-7	台付甕	脚部	古墳	褐灰色	にぶい橙色	金色・白・乳白色粒子	－
第31図	包－64	3H-77	浅鉢形	把手	堀之内	にぶい黄褐色	暗褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－65	3H-30・47	深鉢形	口縁部	堀之内	褐灰色	にぶい褐色	白・乳白・金色・黒・赤色粒子	K-58
第31図	包－66	2F-6	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金色・乳白色粒子	－
第31図	包－67	3E-82	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	黒・白・赤色粒子	－
第31図	包－68	3G-257	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	黒・白・赤色粒子	－
第31図	包－69	3G-600	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	灰褐色	白・黒・赤色粒子	－

出土土器・土製品・陶磁器観察表④

図版番号		遺物番号	種類	部位	時代	色調（内）	色調（外）	胎土	接合№
第31図	包－70	3F-302	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	灰黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－71	3H-13	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－72	表採	深鉢形	口縁部	堀之内	暗赤褐色	暗赤褐色	白・乳白・透明・金色粒子	－
第31図	包－73	3G-123	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・白色粒子	－
第31図	包－74	3E-一括	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒・白色粒子	－
第31図	包－75	2F-14	深鉢形	口縁部	堀之内	黒褐色	黒褐色	金色・白色粒子	－
第31図	包－76	3G-101	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	にぶい黄橙色	白・透明・赤・黒光粒子	－
第31図	包－77	3G-160・285	深鉢形	口縁部～胴部	堀之内	明赤褐色	赤褐色	白・透明・金色・黒光粒子	K-36
第31図	包－78	3F-72	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	にぶい黄褐色	透明・乳白・金色・赤色粒子	－
第31図	包－79	3F-83	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	乳白・白・透明・金色・黒光粒子	－
第31図	包－80	4F-22	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	にぶい黄褐色	乳白・透明・黒光・金色・赤色粒子	－
第31図	包－81	3F-71	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	橙色	乳白・透明・白・金色・赤色粒子	－
第31図	包－82	4F-18	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	透明・黒光・乳白・赤色粒子	－
第31図	包－83	3F-332	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい褐色	乳白・白・黒光粒子	－
第31図	包－84	3F-351	深鉢形	口縁部	堀之内	黒褐色	黒褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－85	3F-508	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄褐色	橙色	乳白・透明・黒光・金色粒子	－
第31図	包－86	3E-90	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－87	3G-530	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい黄褐色	黒・白・赤色粒子	－
第31図	包－88	3E-117	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	乳白・透明・金色・黒光粒子	－
第31図	包－89	3E-80・106・115	深鉢形	胴部	堀之内	橙色	橙色	乳白・透明・黒光・赤色粒子	K-27
第31図	包－90	2G-137、JU1SK-一括	深鉢形	口縁部	堀之内	灰黄褐色	灰黄褐色	白・黒・金色粒子	－
第31図	包－91	3E-283	深鉢形	口縁部	堀之内	灰褐色	灰黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－92	3G-622・836、2G-71	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	透明・乳白・黒光・赤色粒子	K-60
第31図	包－93	3E-一括	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第31図	包－94	3G-615	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	橙色	白・金色・赤色粒子	－
第31図	包－95	3F-77	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	にぶい黄橙色	金色・白・乳白色粒子	－
第31図	包－96	3H-89	深鉢形	口縁部	堀之内	橙色	にぶい橙色	金色・黒光・白色粒子	－
第31図	包－97	3F-429・511	深鉢形	口縁部	堀之内	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白・乳白・黒・黒光・赤色粒子	K-87
第31図	包－98	3G-168	注口土器	口縁部	堀之内	にぶい褐色	にぶい褐色	白・金色・赤色粒子	－
第31図	包－99	3F-265	深鉢形	胴部	堀之内	褐色	にぶい黄褐色	乳白・黒光・金色粒子	－
第32図	近－10	MZ7-一括	碗	口縁部	18世紀代	灰白色	灰白色	黒色粒子	－
第32図	近－11	7E-一括	小碗	口縁部	18世紀代	緑灰色	緑灰色	白・黒色粒子	－
第32図	近－12	5F-一括	皿	口縁部～底部	16世紀代	黒褐色	黒褐色	黒・赤・白色粒子	－
第32図	近－13	4F-一括	染付碗	高台部	18世紀代	灰白色	灰白色	白・黒・赤色粒子	－
第32図	近－14	5F-一括	染付碗	底部	18世紀代	灰白色	灰白色	白・黒微粒子	－
第32図	近－15	3E-42	染付大皿	底部	17世紀代	灰オリーブ色	灰白色	白・黒色粒子	－
第32図	近－16	5F-一括	染付湯飲碗	口縁部	18世紀代	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	白・黒微粒子	－
第32図	近－17	5F-一括	碗	高台部	18世紀代	黄褐色	浅黄色	赤・白・黒色粒子	－
第32図	近－18	6E-一括	染付碗	口縁部	18世紀代	灰白色	灰白色	黒色粒子	－
第32図	近－3	5F-一括	擂鉢	底部	18世紀代	暗褐色	褐色	黒・赤・白色粒子	－
第32図	近－4	5F-一括	甕	肩部	16世紀代	褐灰色	灰褐色	白・黒・赤色粒子	－
第32図	近－5	MZ1-一括	碗	口縁部	18世紀代	灰白色	灰白色	黒色粒子	－
第32図	近－6	MZ6-一括	碗	高台部	17世紀代	にぶい黄色	にぶい黄色	黒・白・赤色粒子	－
第32図	近－7	MZ6-一括	かわらけ	口縁部～底部	近世	にぶい橙色	橙色	金色・赤・白色粒子	－
第32図	近－8	MZ6-一括	染付湯飲碗	口縁部	18世紀代	オリーブ灰色	オリーブ灰色	白・黒微粒子	－
第32図	近－9	MZ7-一括	湯飲碗	口縁部	18世紀代	灰白色	灰白色	黒色粒子	－
第32図	近－1	MZ7-一括	内耳		近世	黒褐色	にぶい褐色	赤・金色・黒・白色粒子	－
第32図	近－2	MZ6-一括	擂鉢	口縁部	18世紀代	暗赤褐色	暗赤褐色	黒・乳白色粒子	－
第33図	DE－1	2G-20	土器片製円盤		曽利後半	明褐色	にぶい褐色	白・乳白・黒・金色粒子	－
第33図	DE－2	5G-16	土器片製円盤			にぶい橙色	にぶい赤褐色	白・黒・黒光粒子	－
第33図	DE－3	4G-一括	土器片製円盤			灰褐色	にぶい褐色	白・乳白・黒色粒子	－
第33図	DE－4	4G-488	土器片製円盤			にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・乳白・黒色粒子	－
第33図	DE－5	3G-795	土器片製円盤		堀之内	灰黄色	にぶい黄橙色	白・黒色粒子	－
第34図	DG－1	3E-72	土偶	胴部			にぶい黄橙色	黒・白・赤色粒子	－
第34図	DG－2	3F-492	土偶	左胴部			にぶい黄褐色	白・黒色粒子	－
第34図	DG－3	2G-140	土偶	左手	曽利		黒褐色	白・金色・黒光粒子	－
第34図	DG－4	3E-298	土偶	左足			にぶい黄褐色	白・黒・赤色粒子	－
第34図	DG－5	3F-70	土偶	頭部			にぶい褐色	白・黒・赤・黒光粒子	－
第34図	DG－6	3E-53	土偶	頭部			灰黄褐色	白・黒・赤・金色粒子	－
第34図	DS－1	3G-386	有孔土錘				にぶい黄橙色	乳白・透明・白色粒子	－
第34図	MN－1	3G-268	ミニチュア	口縁部～底部		黒褐色	黒褐色	白・金色・黒色粒子	－
第34図	MN－2	2G-一括	ミニチュア	口縁部		灰褐色	褐灰色	白・黒・赤色粒子	－
第34図	SN－1	3G-801	焼成粘土塊				橙色	白・黒光・金色粒子	－

宿尻遺跡石鏃①

石器No	グリッド	No	層位	器種	石材	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	原産地分析	押圧剥離	剥離の開始	コーン径	剥離幅(mm)	
1	3E	32	2b	凹基鏃	珪岩	完形	20.7	13.0	2.7	非黒曜石	S'mP	コーン	1未満	2	先端の尖る圧縮力の強いソフトハンマー。押圧剥離は上手。
2	3G	904	2d	凹基鏃	黒曜石	完形	17.3	14.3	4.1	星ヶ台	HhP	コーン	2未満	2	素材面を裏面に多く残す。素材面はヒンジエンド。間接打撃の貝殻状剥片の可能性がある。
3	5G	41	2c	凹基鏃	黒曜石	片脚欠損	25.9	19.4	3.7	星ヶ台	S'mP	曲げ	不明	2	形態は先端の突起のある幅広凹基。山形の大木10式にも見られる形態。
4	3F	200	2a	凹基鏃	黒曜石	完形	13.3	11.1	2.6	星ヶ台	S'mP	コーン	1未満	2	小形の石鏃。図の右側辺に長い加工、左側辺に短い剥離で刃潰し状。片側固定の押圧剥離。
5	3G	478	2c	凹基鏃	黒曜石	先端欠損	18.2	15.3	3.5	星ヶ台	S'mP	曲げ	不明	2	両面に丁寧で均質な押圧剥離。形態は3に近似する。
6	2G	26	2c	極小石鏃	黒曜石	完形	13.8	11.6	2.5	星ヶ台	S'hP	コーン	1.7	4	裏面にきれいな押圧剥離。側辺は刃潰し状。
7	4F	37	2a	凹基鏃	黒曜石	片脚欠損	22.9	14.0	4.0	星ヶ台	nHmP	コーン	2	3.7	
8	3G	520	2c	極小石鏃	黒曜石	完形	14.0	9.5	3.5	星ヶ台	nHmP	コーン	2未満	3	
9	3G	196	2c	凹基鏃	黒曜石	完形	18.7	17.4	4.0	星ヶ台	nS'mP	コーン・曲げ	2未満	3	
10	7E	1	2b	石鏃未製品	黒曜石	完形	18.5	11.8	2.6	星ヶ台	nHmP	コーン	2未満	3	表裏に素材の面を残す。
11	3G	541	2c	凹基鏃	黒曜石	片脚欠損	17.1	15.3	3.5	星ヶ台	nS'mP	コーン	2未満	3	表裏ともに伸びる剥離面で加工されている。
12	3F	45	2c	凹基鏃	黒曜石	脚部のみ残存	12.0	9.5	2.5	星ヶ台	nS'mP	コーン	2未満	2	
26	3F	85	IIc	極小石鏃未製品	黒曜石	完形	11.6	14.5	3.4	星ヶ台	適用外	適用外	適用外	適用外	
28	3G	一括	Iic	凹基鏃	黒曜石	先端・脚部欠損	16.2	18.6	4.8	冷　山	S'mP	コーン	1未満	3	

宿尻遺跡石鏃②

石器No	グリッド・遺構	No	層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	原産地分析	加工・剥離技術	素材・石核形態	素材・石核の技術	所　見
25	3F	107	IIc	小刃器	黒曜石	23.1	13.2	5.3	1.1	星ヶ台	HI	不明	不明	端正な縦長剥片。剥離面打面。使用痕ポリッシュなし
27	3H	一括	IIb	石錐	黒曜石	16.4	9.9	5.1	1.0未	星ヶ台	なし	小剥片	(HI)	先端摩耗。両側辺に固定の使用痕あり。
30	4G	一括	IIc	石錐	黒曜石	28.7	11	8.8	2.1	星ヶ台	HP	両極石器	不明	刃部の先端両側辺は摩耗が激しい。
31	4G	一括	IIc	石錐	黒曜石	27.0	12.7	7.0	1.4	星ヶ台	HP	両極石器	不明	
33	3E	一括	IIc	石錐	黒曜石	15.6	13.5	6.0	0.9	星ヶ台	HP	両極剥片	HvD	
38	3F	106	IIc	小形両極石器	黒曜石	13.6	11.9	4.0	1.0未	星ヶ台	HvD	両極剥片	HvD	
40	3G	683	IId	使用痕剥片	黒曜石	24.7	17.5	7.1	1.9	星ヶ台	なし	両極剥片	HvD	
41	3G	704	IId	石錐未製品	黒曜石	23.0	13.4	4.1	1.1	星ヶ台	HP/急角度	両極剥片	HvD	
42	3G	729	IId	使用痕剥片	黒曜石	16.6	19.8	4.4	1.1	星ヶ台	なし	両極剥片	HD	
43	3G	756	IId	石錐	黒曜石	18.0	11.9	8.0	1.1	星ヶ台	HP/急角度	両極剥片断片	HvD	
44	4H	10	IIc	石錐	黒曜石	30.4	23.9	9.0	4.4	星ヶ台	なし	剥片	HD	剥片の尖った先端を刃部にしている。刃部の剥離は使用痕。
45	4F	14	IIa	横形石匙	黒曜石	27.8	31.9	6.4	3.8	星ヶ台	HP	剥片	HI	横形石匙。つまみは反方向の剥離で形成。
46	2G	111	—	石匙	黒曜石	25.6	15.0	5.9	1.2	星ヶ台	HP	剥片	HI	類縦形石匙
47	1住SK	78	—	使用痕剥片	黒曜石	25.9	25.4	6.2	1.6	星ヶ台	なし	剥片	HD	
49	4G	276	—	使用痕剥片	黒曜石	24.0	18.1	10.2	2.5	星ヶ台	なし	剥片	HI	
50	4G	40	IIc	両極石器	黒曜石	22.8	15.7	9.5	2.1	星ヶ台	HvD	小角礫	該当なし	
51	4G	6	IIc	剥片	黒曜石	17.0	18.1	4.7	0.7	星ヶ台	HI	不明	該当なし	
52	4G	124	IIb	石核素材	黒曜石	38.1	20.0	12.1	7.5	和田・小深沢	HI	剥片	HvD	
54	5H	25	IIc	使用痕剥片	黒曜石	39.3	21.8	8.5	4	星ヶ台	HD	(亜角礫)	HD	
60	4F	13	IIa	石核	黒曜石	15.0	29.7	11.1	3.8	星ヶ台	HI	不明	不明	
63	3G	852	IId	原石	黒曜石	39.4	38.3	16.7	23	星ヶ台	該当なし	該当なし	該当なし	
64	3G	838	IId	石核素材	黒曜石	20.7	17.1	10.3	3.3	星ヶ台	HD	小角礫	HI	
65	3G	688	IId	石鏃素材	黒曜石	12.9	9.9	4.4	1.0未	星ヶ台	HvD	小形両極石器	HI	
67	3G	658	IId	石鏃素材	黒曜石	16.5	18.0	6.7	1.3	星ヶ台	HvD	小形両極石器	HD	
70	1住炉	一括	—	石匙	黒曜石	21.3	13.8	2.8	1.0未	星ヶ台	HP/刃潰し	剥片	HvD	
71	2住炉	一括	—	石錐	黒曜石	24.9	10.2	6.6	O.7	星ヶ台	HP/急角度	小剥片	HI	
72	—	—	—	剥片	黒曜石	20.6	11.3	4.0	1.0未	星ヶ台	小刃器	刃器	不明	

打製石斧・粗製剥片石器・礫器Aランク

石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	刃部加工	加工・剥離技術	素材・石核形態	素材・石核の技術	所　見
110	MZ4	—	—	粗製横形削器	安山岩	108.3	138.3	26.4	HD	HD	剥片	該当なし	
111	3G	166	IIc	粗製縦形削器	安山岩	85.3	61.3	15.0	HD	HD	剥片	該当なし	
112	4H	102	IIc	粗製横形削器	安山岩	46.1	59.5	11.7	HD	HD	剥片	該当なし	
113	3F	36	IIb	粗製縦形削器	凝灰岩	87.3	60.1	28.1	HD	HD	剥片	該当なし	
114	6D	2	IIc	粗製縦形削器	安山岩	96.5	47.7	10.7	HD	HD	剥片	該当なし	
115	3G	758	IId	粗製横形削器	安山岩	39.4	78.3	10.2	HD	HD	扁平礫	該当なし	
116	3G	133	IIc	粗製横形削器	安山岩	48.8	87.5	17.3	HD	HD	剥片	該当なし	
121	不明	不明	不明	鋸歯縁削器	泥岩	58.1	93.3	14.6	HD	HD	剥片	該当なし	
122	3G	217	IIc	粗製横形削器	安山岩	63.7	77.9	22.3	HD	HD	剥片	該当なし	
126	3G	308	IId	粗製縦形削器	安山岩	97.8	53.6	13.9	HD	HD	剥片	該当なし	
133	3E	259	IId	粗製縦形削器	安山岩	54.4	35.8	11.2	HD	HD	剥片	該当なし	
138	4G	450	IIc	削器	珪岩	51.2	43.1	27.6	HD	HD	剥片	該当なし	
145	1住	33	記述なし	礫器	安山岩	187.1	144.7	64.8	HD	HD	礫	該当なし	
146	MZ5	—	—	礫器	安山岩	89.2	145.5	45.9	HD	HD	礫	該当なし	
147	3G	866	IIc	礫器	不明	92.4	66.7	43.3	HD	HD	礫	該当なし	
148	3E	306	IId	礫器	頁岩	61.9	69.8	32.9	HD	HD	礫	該当なし	
150	—	215	IIc	礫器	礫岩	71.3	76.0	46.6	HD	HD	礫	該当なし	
151	3E	7	IIa	粗製横形削器	硬質砂岩	99.2	111.0	31.3	HD	HD	礫	該当なし	
153	2G	110	—	粗製横形削器	硬質砂岩	83.8	102.5	31.1	HD	HD	礫	該当なし	刃部製作途中
154	一括	60	IIa	打製石斧	砂岩	89.5	58.4	16.9	欠損	HD	剥片	不明	
155	AG	595	IIc	鋸歯縁削器	安山岩	46.2	76.3	9.4	HI/鋸歯	HD	剥片	不明	
156	3G	307	IId	打製石斧	ホルンフェルス	115.0	57.9	24.1	欠損	HD	剥片	不明	
157	4H	99	—	打製石斧	ホルンフェルス	60.6	62.1	13.7	素材	HD	剥片	不明	
158	3G	172	IIc	打製石斧	安山岩	131.8	85.2	24.7	欠損	HD	剥片	不明	
192	3G	376	IIc	横形削器	ホルンフェルス	71.9	87.4	16.5	HD	HD	剥片	不明	

磨製石斧Aランク

石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量（g）	加工・剥離技術	素材・石核形態	素材・石核の技術	所見
186	4G	543	IIc	磨製石斧	蛇紋岩	40.0	32.7	10.1	18.6	研磨	不明	不明	刃部に顕著な使用痕
187	4G	593	IIc	磨製石斧	硬質凝灰岩	57.2	18.5	10.8	18.2	研磨	不明	不明	
188	4G	52	IIc	磨製石斧	硬質砂岩	35.6	21.7	8.8	10.5	研磨	不明	不明	
189	4G	598	IIc	磨製石斧	硬質砂岩	15.2	17.2	8.7	2.6	研磨	不明	不明	
193	MZ3	—	—	磨製石斧	蛇紋岩	84.2	39.1	23.8	95.5	敲打・研磨	不明	不明	良質蛇紋岩

礫石器Aランク

石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	加工・剥離技術	素材・石核形態	
190	3F	377	IIc	礫石錘	頁岩	48.2	34.2	19.0	擦切	円礫	重さ46.6g
194	1住	47	—	軽石	軽石	78.5	70.0	62.8	適用外	礫	
195	3G	171	IIc	敲石	安山岩	84.0	78.9	59.0	なし	楕円礫	表裏に敲打痕
196	2F	68	IId	磨石・敲石	安山岩	118.7	97.6	75.2	なし	楕円礫	表面に正円形の凹痕があり、裏側面に敲打痕
197	2G	106	記載なし	敲石・凹石	安山岩	112.8	77.2	58.6	敲打	楕円礫	表裏に敲打痕、磨面（風化のため不明瞭）
198	4F	—	IIa一括	磨石・敲石	安山岩	94.0	93.2	47.2	なし	楕円礫	表裏に敲打痕、磨面（風化のため不明瞭）
199	4G	59	IIc	磨石	安山岩	120.4	76.2	44.0	なし	楕円礫	裏面は欠損
200	5F	—	IIa一括	特殊磨石	斑岩	178.3	71.4	52.7	なし	亜角礫	端部に敲打痕
201	1住	72	—	特殊磨石	安山岩	90.7	82.5	44.4	なし	楕円礫	端部に敲打痕
202	2G	1?1	IId	敲石	花崗岩	93.5	89.2	73.0	なし	円礫	端部に敲打痕
203	3G	20?	IIc	敲石	安山岩	91.8	56.1	35.5	なし	棒状礫	裏面欠損
204	1住SK57		—	磨石・敲石	砂岩	126.5	60.5	30.3	なし	長楕円礫	表裏に敲打痕
205	4G	282	IIc	敲石	砂岩	74.4	63.0	38.4	なし	長楕円礫	表面に敲打痕
206	4G	439	IIc	敲石	砂岩	69.5	55.1	37.2	なし	長楕円礫	端部に敲打痕
207	5F	—	IIa一括	敲石	安山岩	93.1	49.6	29.8	なし	長楕円礫	端部に敲打痕
208	MZ6	—	一括	敲石	砂岩	95.4	38.7	33.4	なし	楕円礫	断片資料、表面と側面に敲打痕
211	3E	215	IIc	小形石皿	安山岩	146.5	103.8	43.2	なし	楕円礫	断片資料
212	2F	3	IIc	投石弾？	安山岩	74.1	65.8	64.9	なし	球状礫	
213	1住	2	—	石棒	安山岩	156.0	126.6	114.8	敲打・研磨	不明	体部断片、被熱、破断面に磨面あり
214	1住	9	—	石棒	安山岩	190.3	135.3	118.5	敲打・研磨	不明	体部断片、被熱、破断面に磨面あり
217	3F	365	IIc	多孔石	安山岩	140.0	108.0	78.0	敲打	不明	表裏に凹痕
219	2G	134	—	石皿・多孔石	安山岩	320.1	220.8	100.7	敲打	不明	表面が石皿で裏面が多孔石、接合資料
220	3F	444	IIc	石皿	安山岩	86.0	69.1	75.4	敲打・研磨	不明	断片資料、縁あり、被熱
221	5F	—	IIa一括	石皿	安山岩	134.4	132.0	59.7	敲打	不明	断片資料、縁あり、被熱

剥片石器B・Cランク①

石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・道構	No	層位	器種	石材	原産地分析	重量（g）	加工・剥離技術	素材・石核形態	素材・石核の技術	ランク	所　見
13	1住SK	35		小形両極石器	黒曜石	星ヶ台	2	該当なし	小剥片	HvD	B	
14	1住SK	36		小形両極石器	黒曜石	星ヶ台	1.0未	該当なし	小剥片	HvD	B	
15	1住SK	34			黒曜石	星ヶ台	8.4	(HI)	小礫	該当なし	B	
16	1住SK	33		原石	黒曜石	星ヶ台	10.1	該当なし	該当なし	該当なし	B	
17	1住SK	37		剥片	黒曜石	鷹山	1.0未	該当なし	不明	HvD	B	
18	1住SK	79		剥片	黒曜石	鷹山	1.0未	該当なし	不明	HvD	B	
19	3F	437	IId	両極石器	黒曜石	星ヶ台	4.7	HvD	小角礫	該当なし	B	
20	3F	408	IId	石核	黒曜石	星ヶ台	5.4	HI	小角礫	該当なし	B	小刃器の石核
21	3F	199	IIa	石核	黒曜石	星ヶ台	8.1	HD	小角礫	該当なし	B	
22	3F	575	IIc	剥片	黒曜石	星ヶ台	1.8	該当なし	不明	HI	B	
23	3F	363	IIc	両極剥片	黒曜石	星ヶ台	1.0未	HvD	不明	不明	B	
24	3F	157	IIc	剥片	黒曜石	星ヶ台	1.5	HD	不明	不明	C	自然面打面の剥片
29	4G	一括	IIc	使用痕剥片	黒曜石	風化	1.5	なし	剥片	HD	B	
32	4H	—	IIc	石鏃未製品	黒曜石	星ヶ台	0.5	HP	両極剥片	不明	B	
34	3E	一括	IIc	石鏃未製品	黒曜石	星ヶ台	0.9	HP	小剥片	HI	B	
35	MZ-7	一括	—	使用痕剥片	黒曜石	星ヶ台	1.2	なし	小剥片	(HD)	B	
37	3F	424	IId	使用痕剥片	黒曜石	星ヶ台	1	なし	(小角礫)	(HI)	B	
39	3G	114	IIc	石錐未製品	黒曜石	星ヶ台	1.3	HP/急角度	両極剥片	HvD	B	
48	4G	510	—	使用痕剥片	黒曜石	星ヶ台	20	なし	剥片	HD	B	
53	4G	176	IIb	石核	黒曜石	鷹山	4.8	HI	小角礫	該当なし	B	
55	5H	16	IIc	小形両極石器	黒曜石	推定不可	1.0未	HvD	小剥片	不明	B	
56	4H	40	IIc	使用痕剥片	黒曜石	星ヶ台	1.0未	HvD	剥片	不明	B	
57	5H	18	IIc	剥片	黒曜石	和田・小深沢	6.4	HD	不明	不明	B	
58	3H	16	IIc	両極石器	黒曜石	星ヶ台	1.4	HvD	剥片	不明	B	
59	4F	31	IIc	両極石器	黒曜石	星ヶ台	5.9	HvD	小角礫	該当なし	B	
61	3G	656	IId	小形両極石器	黒曜石	星ヶ台	1	HvD	扁平小礫	該当なし	B	
62	3G	905	IId	剥片	黒曜石	星ヶ台	1.0未	(HI)	不明	不明	B	
64	3G	838	IId	原石	黒曜石	和田・高松沢	3.2	該当なし	該当なし	該当なし	B	要原産地分析
66	3G	687	IId	剥片	黒曜石	鷹山	1	HvD	不明	不明	B	
68	3G	655	IId	小形両極石器	黒曜石	星ヶ台	1.4	HvD	剥片	HD	B	
69	3G	442	IId	両極石器	黒曜石	星ヶ台	2.9	HvD	(小角礫)	該当なし	B	
73	3G	一括	IIc	使用痕剥片	黒曜石	星ヶ台	0.9	HvD	不明	不明	B	
74	溝1	一括	—	剥片	珪岩	非黒曜石	1.2	HvD	不明	不明	B	
75	溝1	一括	—	剥片	珪岩	非黒曜石	1.5	HD	不明	不明	B	
76	1住SK	76	—	剥片	珪岩	非黒曜石	2.4	HD	不明	不明	B	剥離角135°
77	3F	一括	IIb	剥片	珪岩	非黒曜石	2	HD	不明	不明	B	剥離角115°
78	3F	一括	IIb	石核	珪岩	非黒曜石	3.2	(HI)	小角礫	不明	B	
79	3G	一括	IIc	剥片	凝灰岩	非黒曜石	10.2	HD	(剥片)	不明	B	打面欠損
なし	3F	245	IIc	小形両極石器	黒曜石	分析なし	1.3	なし	小剥片	HvD	B	
なし	2G	8	IIc	原石	黒曜石	分析なし	6.2	該当なし	該当なし	該当なし	C	流紋岩の不純物のはいる粗悪な小円礫（河川礫）
なし	4G	648	床下	原石断片	黒曜石	分析なし	4.4	該当なし	該当なし	該当なし	C	
なし	3G	262	IId	原石断片	黒曜石	分析なし	2	該当なし	該当なし	該当なし	C	
なし	3E	一括	IIa	原石断片	黒曜石	分析なし	2.3	該当なし	該当なし	該当なし	C	
なし	3E	一括	IIc	原石断片	黒曜石	分析なし	1.4	該当なし	該当なし	該当なし	C	
なし	2G	一括	IIc	小形両極石器	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	クサビ形態。先端に潰れ顕著。
なし	3E	一括	IIc	使用痕剥片	黒曜石	分析なし	1.8	HD	(剥片)	不明	C	
なし	2F	57	IId	剥片	黒曜石	分析なし	2	該当なし	不明	(HD)	C	
なし	2G	107	—	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未			HvD	C	
なし	3F	423	IId	剥片	黒曜石	分析なし	2.9	HvD	小角礫	該当なし	C	
なし	溝1	一括	—	剥片	黒曜石	分析なし	1.7	HvD	剥片	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HI	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	(HI)	不明	不明	C	
なし	4F	一括	IIa	剥片	黒曜石	分析なし	1.1	HI	(剥片)	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HI	(剥片)	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HI	(剥片)	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	2.5	HD	(剥片)	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HD	(剥片)	不明	C	
なし	6E	一括	IIa	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	両極石器	不明	C	
なし	4G	634	床下	両極石器	黒曜石	分析なし	2	HvD	小角礫	該当なし	C	
なし	溝1	一括	—	両極石器	黒曜石	分析なし	2.2	HvD	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	両極石器	黒曜石	分析なし	2.9	HvD	剥片	HD	C	
なし	3F	一括	IId	両極石器	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	剥片	不明	C	
なし	6E	一括	IIa	両極石器	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	(小角礫)	該当なし	C	

剥片石器B・Cランク②

石器No.	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	原産地分析	重量（g）	加工・剥離技術	素材・石核形態	素材・石核の技術	ランク	所　見
なし	3G	679	IId	両極石器断片	黒曜石	分析なし	1.6	HvD	不明	不明	C	
なし	MZ7	一括	—	両極石器断片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	3F	一括	IIb	両極石器断片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	両極石器断片	黒曜石	分析なし	1.8	HvD	不明	不明	C	
なし	6E	一括	IIa	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.9	HvD	小角礫	HvD	C	
なし	4G	39	IIc	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.7	HvD	(小角礫)	該当なし	C	
なし	3G	877	IId	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	7E	—	IIb	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.5	HvD	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IId	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	
なし	6E	一括	IIa	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.6	HvD	(小角礫)	該当なし	C	
なし	5F	一括	IIa	両極剥片	黒曜石	分析なし	1	HvD	両極石器	不明	C	
なし	2F	22	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	3.6	不明	不明	不明	C	
なし	3G	705	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	該当なし	該当なし	C	
なし	3G	686	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4H	—	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4H	—	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	MZ10	一括	—	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	炉	一括	—	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	炉	一括	—	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	炉	一括	—	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	7E	—	IIa	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	7E	—	IIa	裂片	黒曜石	分析なし	1.8	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IId	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	3E	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4G	一括	IIc	裂片	黒曜石	分析なし	1.0未	不明	不明	不明	C	
なし	4F	—	—	加工のある両極石器	黒曜石	分析なし	2.5	HP	両極石器	不明	C	
なし	3F	156	IIc	剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	(小角礫)	不明	C	
なし	3E	39	IIa	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.2	HvD	(小角礫)	HvD	C	
なし	3E	301	IId	両極剥片	黒曜石	分析なし	1.0未	HvD	不明	不明	C	

打製石斧・粗製剥片石器・礫器Bランク

石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	刃部加工	加工・剥離技術	素材・石核形態	ランク	所　　見
117	MZ6	一括	—	打製石斧	緑色岩	HD	HD	剥片	B	
118	4H	123	IIc	打製石斧	安山岩	HD	HD	剥片	B	
119	3G	355	一括	打製石斧	安山岩	HD	HD	剥片	B	
120	4G	92	IIb	打製石斧	凝灰岩	HD	HD	剥片	B	
123	3G	837	IId	打製石斧	安山岩	HD	HD	剥片	B	
124	3G	134	IIc	素刃削器	安山岩	HD	HD	剥片	B	
125	3G	306	IId	素刃削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	HD	HD	剥片	B	
127	3G	886	IId	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
128	3G	175	IIc	扁平小礫	安山岩	HD	HD	剥片	B	
129	5G	一括	IIc	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
130	3G	147	IIc	粗製縦形石匙	安山岩	HD	HD	剥片	B	
131	3G	216	IIc	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
132	3E	235	IIc	素刃削器	凝灰岩	HD	HD	剥片	B	
134	3F	509	IIb	切断調整石器	珪岩	HD	HD	剥片	B	両端を折とった成形加工
135	4G	456	IIc	粗製縦形石匙	安山岩	HD	HD	剥片	B	
136	3F	356	IIc	素刃削器	安山岩	HD	HD	剥片	B	
137	4H	100	IIc	素刃削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	HD	HD	剥片	B	
139	4E	—	IIc	剥片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
140	4G	523	IIc	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
141	4G	626	IIc	剥片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
142	4G	278	IIc	剥片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
143	4G	322	IIc	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
144	4G	323	IIc	打製石斧断片	安山岩	HD	HD	剥片	B	
149	3F	425	IId	礫器断片	頁岩	HD	HD	礫	B	
152	3E	204	IIc	礫器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	HD	HD	礫	B	

礫石器B・Cランク

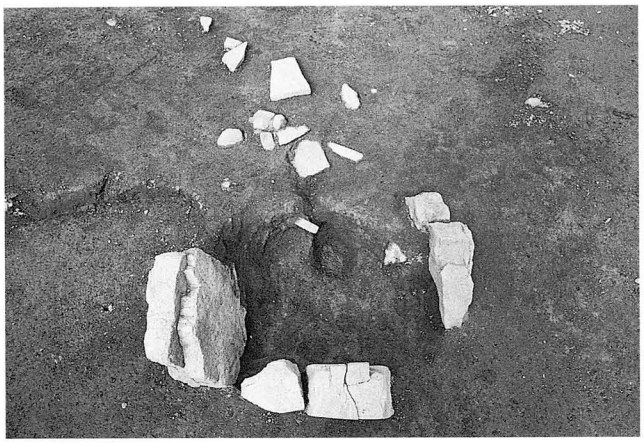
石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	加工・剥離技術	素材・石核形態	ランク	
191	3F	376	IIc	扁平礫	砂岩		円礫	B	
209	4G	455	IIc	敲石？	砂岩	なし	楕円礫	B	断片資料、側面に敲打痕
210	1住	13	記載なし	丸石、石棒？	花崗岩	研磨	礫	B	被熱、断片資料、磨面あり
215	4G	58	IIa	石棒	凝灰岩	敲打・研磨	不明	B	体部断片、被熱、破断面に磨面あり
216	4F	15	IIa	石棒	安山岩	敲打・研磨	不明	B	体部断片、被熱
223	4G	454	IIc	石皿	砂岩	敲打	不明	B	断片資料、縁あり
218	1住	40	記載なし	炉石	安山岩	なし	亜角礫	C	被熱顕著
222	4G	163	IIc	石皿	安山岩	敲打	不明	C	断片資料
224	4G	189	IIa	石皿	砂岩	なし	不明	C	断片資料、わずかに磨面確認
225	3G	818	IId	石皿	はんれい岩	なし	楕円礫	C	断片資料、磨面あり
226	MZ10	6	記載なし	石皿素材？	安山岩	なし	楕円礫	C	一部破損、石皿の素材になる可能性あり。

棒　状　礫

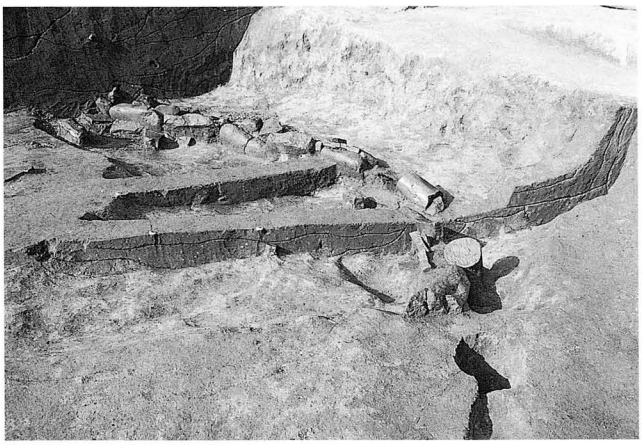
石器No	ｸﾞﾘｯﾄﾞ・遺構	No	層位	器種	石材	長さ（mm）	厚み（mm）	重量（g）	ランク	所　　見
80	3G	482	2c	棒状礫	砂岩	67.7	34.1	75	B	
81	4G	566	2d	棒状礫	頁岩	62.3	20.7	32	B	
82	4H	85	2c	棒状礫	砂岩	54.1	27	44.9	B	
83	3G	116	2c	棒状礫	砂岩	72.6	26.6	41.7	B	
84	4G	615	2c	棒状礫	砂岩	62.3	25.8	43.5	B	
85	3G	732	2d	棒状礫	砂岩	60	30	45.5	B	
86	4G	647	—	棒状礫	砂岩	62.6	26.1	55.6	B	
87	4G	574	2c	棒状礫	砂岩	50.1	26.3	43.8	B	
88	3F	44	—	棒状礫	砂岩	59.2	17.2	22.5	B	
89	3F	368	2c	棒状礫	砂岩	59.2	24.7	43.5	B	
90	3F	407	2c	棒状礫	砂岩	58.7	29.7	45.2	B	
91	1住	38	—	棒状礫	砂岩	68.2	32.6	50.5	B	
92	3G	898	2d	棒状礫	砂岩	77.7	36.7	114.1	B	
93	4H	156	2c	棒状礫	砂岩	62.2	39.2	76.9	B	
94	4G	525	2c	棒状礫	砂岩	80.7	30.1	76.8	B	
95	4H	133	2c	棒状礫	砂岩	85.7	30.2	84.3	B	
96	4G	633	床下	棒状礫	安山岩	67.5	38.1	106.4	B	
97	4G	441	2c	棒状礫	砂岩	88.9	40	188.4	B	被熱資料
98	4G	482	2c	棒状礫	頁岩	98.7	31.6	132.5	B	
99	3E	101	2c	棒状礫	砂岩	93.9	37.8	98.3	B	
100	1住	64	—	棒状礫	砂岩	114.1	32.3	189.3	B	
101	1住	53	—	棒状礫	砂岩	107.1	35.3	152.5	B	
102	3G	184	2c	棒状礫	砂岩	94.1	37.5	147.1	B	
103	3G	573	2d	棒状礫	砂岩	95	44.1	150	B	
104	3E	155	2c	棒状礫	砂岩	92.3	31.8	153.9	B	
105	4H	171	2c	棒状礫	砂岩	85.9	41.3	147.4	B	
106	3G	582	2d	棒状礫	砂岩	85.9	42.7	103.6	B	
107	4H	101	2c	敲石	砂岩	127.9	60.2	463.6	B	
108	2G	9	2c	敲石	頁岩	154.4	56.1	633.7	B	
109	1住	73	—	礫	砂岩	131.2	60.3	560.4	B	

1号竪穴住居跡（北から）

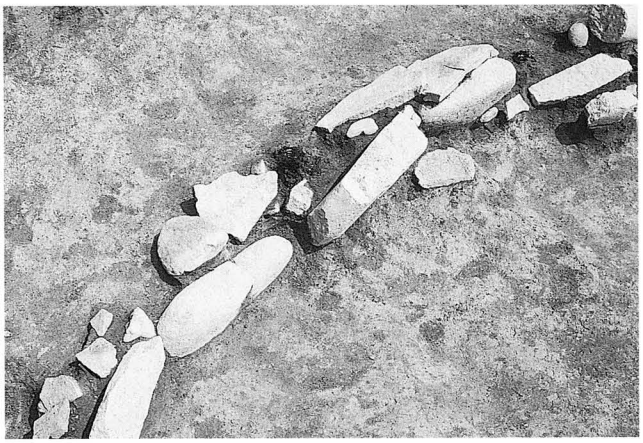
1号竪穴住居跡完掘状況（南から）



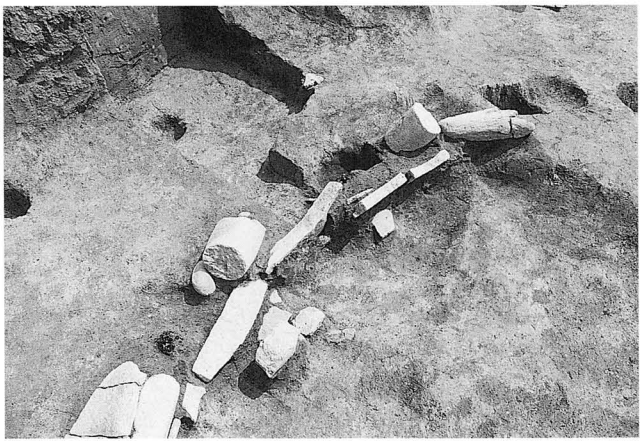
1号竪穴住居跡炉跡（南西から）



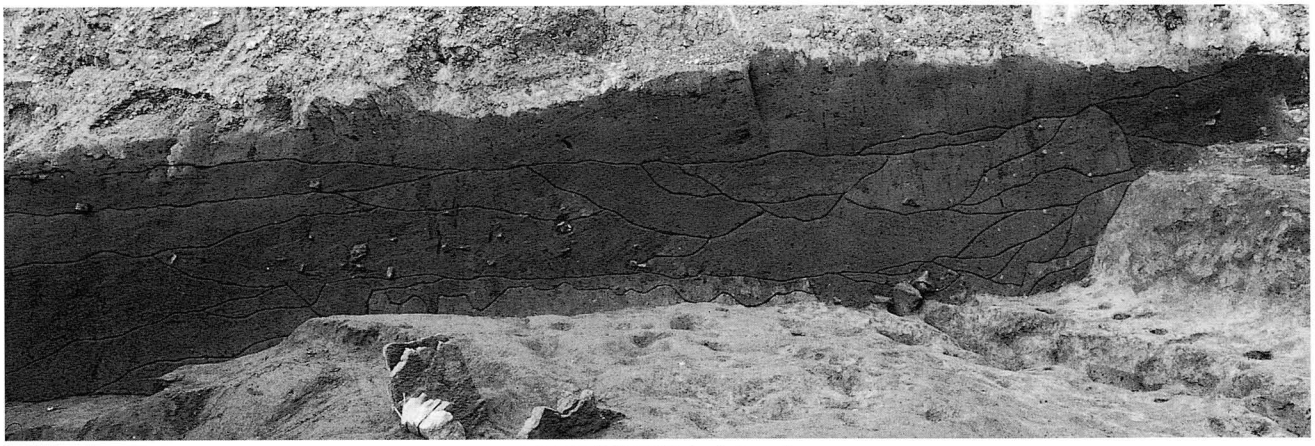
JUI-SKセクション（南から）



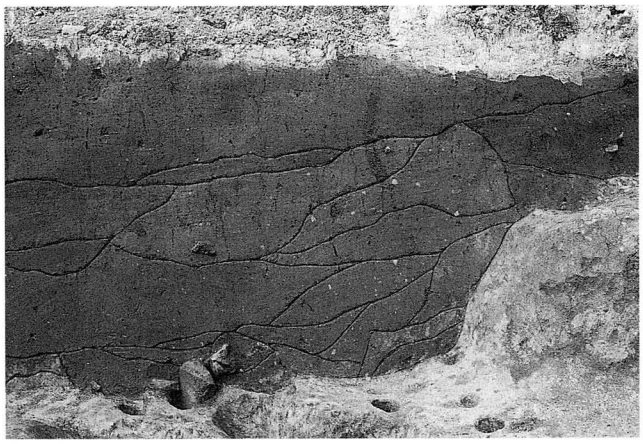
1号竪穴住居跡配石①



1号竪穴住居跡配石②



1号竪穴住居跡セクション



1号竪穴住居跡セクション（アップ）

1号竪穴住居跡棚状遺構完掘状況

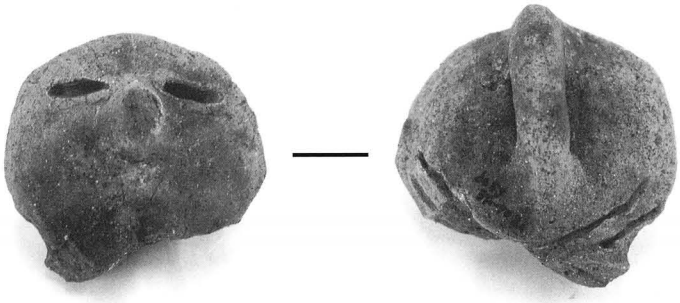
1土-3

1住-1

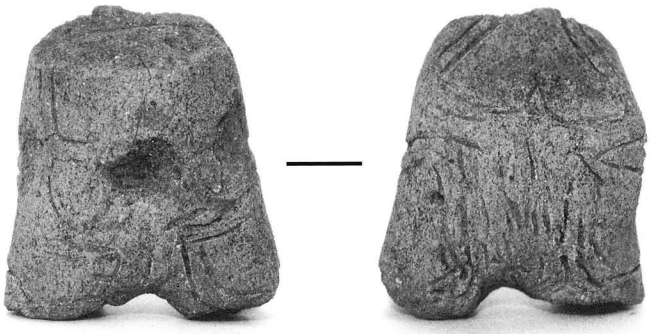
1土-5

1住-3

DG-6



DG-5



DG-1

報告書抄録

ふりがな	しゅくじりいせき
書名	宿尻遺跡
副書名	デイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	閏間俊明、角張淳一（株式会社アルカ）、パリノ・サーヴエイ株式会社
編集機関	韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会
発行機関	韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会
住所	〒407－8501　山梨県韮崎市水神１丁目３番１
発行年月日	2002（平成14）年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しゅくじりいせき	にらさきしあなやまちょうあざしゅくじり	19207	S－	35°45′00″	138°25′15″	2000年07月11日～2001年09月03日	240㎡	デイサービスセンター建設事業
宿尻遺跡	韮崎市穴山町字宿尻							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宿尻遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　土坑 斜面廃棄場	縄文土器　石器　土偶 植物遺存体　骨　他	植物遺存体分析　骨鑑定
		古墳時代		土師器　石器　他	
	耕地	近世以降	溝　ピット	陶磁器　他	

宿尻遺跡 ーデイサービスセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー

平成14年３月20日　印刷
平成14年３月29日　発行

発　行　韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神１－３－１
TEL　0551-22-1111（内224）

印刷所　ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5